

シラバス

——平成 24 年度(2012)——

人間科学編

Kyushu Institute of Technology
School of Engineering

九州工業大学 工学部

序 文

本シラバスは、下記に列挙する項目を通して工学部における授業、学習と学修目標に関する情報をまとめたものです。

- (1) 図書館の利用法
- (2) 各学科における学修目標
- (3) 各科目間の関連、科目の系統図
- (4) 授業の内容と受講の仕方、時間外学習への言及
- (5) 成績評価の方法

皆さん方が受講すべき標準的な科目は時間割に組み込まれていますので、時間割にある授業を受講し単位を取得すれば自動的に卒業要件単位は充足されると思われます。しかし、もう1歩踏み込んで、工学部の学生としてどのように工学のスキルを身につけ、どのように自分自身のキャリアを伸ばしていくか、自問しながら学部4年間を過ごす意識が重要です。本シラバスは皆さん方のそのような自発的な学習における重要な情報源です。毎年、担当の教員による多少の手直しと内容の改善を行いながら今日のシラバスに整理されており、工学部の教育内容を一目で把握できます。教員による授業・指導と本シラバスの活用、そして最も重要である皆さん方の努力によって、4年後には皆さん方が学修目標を十分に達成され、立派なエンジニアとして社会に船出してもらうことを期待しています。

なお、シラバス作成時期と授業の実施時期の関係で、担当者等一部を変更することもあります。

平成 24 年 4 月

九州工業大学工学部

教員編成表

(工学部担当教員)

学長 松永 守央 ・ 工学部長 前田 博

(H 24.4.1 現在)

氏 名	職 名
人 間 科 学 科 目	
アブドゥハン恭子	教 授
田 吹 昌 俊	教 授
鳥 井 正 史	教 授
本 田 逸 夫	教 授
ラックストン イアン.c	教 授
大 野 瀬津子	准教授
反 町 裕 司	准教授
辻 隆 司	准教授
中 村 雅 之	准教授
虹 林 慶	准教授
八 丁 由 比	准教授
東 野 充 成	准教授
水 井 万里子	准教授
ロング・ロバート	准教授

目 次

附属図書館における教育支援業務の概要

I. 人間科学基礎科目

1. 人文社会系科目

哲学Ⅰ	1
哲学Ⅰ	1
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
哲学Ⅱ	3
哲学Ⅱ	3
倫理学Ⅰ	4
倫理学Ⅰ	4
倫理学Ⅱ	5
倫理学Ⅱ	5
歴史学Ⅰ	6
歴史学Ⅰ	6
歴史学Ⅱ	7
歴史学Ⅱ	8
文学Ⅰ	9
文学Ⅱ	9
心理学Ⅰ	10
心理学Ⅱ	10
心理学Ⅱ	11
教育心理学	11
教育学Ⅰ	12
教育学Ⅱ	12
教育学Ⅱ	13
教育原理	13
教育社会学	14
法学	15
日本国憲法	16
社会学Ⅰ	16
社会学Ⅰ	17
社会学Ⅱ	17
社会学Ⅱ	18
経済学Ⅰ	19
経済学Ⅰ	19
経済学Ⅱ	20
経済学Ⅱ	20
政治学Ⅰ	21
政治学Ⅰ	21
政治学Ⅱ	22
政治学Ⅱ	22
地域研究Ⅰ	23
地域研究Ⅰ	24
地域研究Ⅱ	25
地域研究Ⅱ	26
哲学と現代Ⅰ	27
哲学と現代Ⅱ	27
西洋社会史Ⅰ・Ⅱ	28

日本政治論Ⅰ	29
日本政治論Ⅱ	29
地域経営論	30
産業組織論	30
教育システム論	31
科学表現法	31
選択日本事情A	32
選択日本事情B	32

2. 外国語系科目

(1) 英語

英語科目についての概要	33
総合英語AⅠ	34
総合英語AⅡ	34
総合英語BⅠ	35
総合英語BⅠ	35
総合英語BⅠ	36
総合英語BⅠ	36
総合英語BⅠ	37
総合英語BⅠ	37
総合英語BⅠ	38
総合英語BⅡ	38
総合英語BⅡ	39
総合英語BⅡ	39
総合英語BⅡ	40
総合英語BⅡ	40
総合英語BⅡ	41
総合英語BⅡ	41
総合英語CⅠ	42
総合英語CⅠ	42
総合英語CⅠ	43
総合英語CⅠ	43
総合英語CⅠ (アドバンスト)	44
総合英語CⅠ	44
総合英語CⅠ	45
総合英語CⅠ	45
総合英語CⅠ	46
総合英語CⅠ	46
総合英語CⅠ	47
総合英語CⅠ	47
総合英語CⅠ	48
総合英語CⅠ	48
総合英語CⅠ	49
総合英語CⅠ	49
総合英語CⅡ	50
総合英語CⅡ	51
総合英語CⅡ	51
総合英語CⅡ (アドバンスト)	52
総合英語CⅡ	52

総合英語CⅡ	53	基礎ドイツ語B	85
総合英語CⅡ	53	基礎ドイツ語B	86
総合英語CⅡ	54	基礎ドイツ語B	86
総合英語CⅡ	54	基礎ドイツ語B	87
総合英語CⅡ	55	基礎ドイツ語B	88
総合英語CⅡ	55	基礎ドイツ語B	88
総合英語CⅡ	56	ドイツ語A	89
総合英語CⅡ	56	ドイツ語A	89
総合英語CⅡ	57	ドイツ語A	90
総合英語CⅡ	57	ドイツ語BⅠ	90
総合英語CⅡ	58	ドイツ語BⅡ	91
総合英語CⅡ	58	ドイツ語CⅠ	91
総合英語CⅡ	58	ドイツ語CⅡ	92
中級英語Ⅰ	59	(3) 中国語	
中級英語Ⅰ	59	基礎中国語AⅠ	93
中級英語Ⅰ	60	基礎中国語AⅠ	93
中級英語Ⅱ	60	基礎中国語AⅠ	94
中級英語Ⅱ	61	基礎中国語AⅠ	94
上級英語AⅠ	61	基礎中国語AⅡ	95
上級英語AⅡ	62	基礎中国語AⅡ	95
上級英語BⅠ	62	基礎中国語AⅡ	96
上級英語BⅠ	63	基礎中国語AⅡ	96
上級英語BⅡ	63	基礎中国語B	97
上級英語BⅡ	64	基礎中国語B	97
上級英語CⅠ	64	基礎中国語B	98
上級英語CⅡ	65	基礎中国語B	98
技術英語Ⅰ	65	中国語A	99
技術英語Ⅱ	66	中国語BⅠ	99
(2) ドイツ語		中国語BⅡ	100
初修外国語について	67	(4) ロシア語	
基礎ドイツ語AⅠ	68	ロシア語Ⅰ	101
基礎ドイツ語AⅠ	68	ロシア語Ⅱ	101
基礎ドイツ語AⅠ	69	(5) 韓国(朝鮮)語	
基礎ドイツ語AⅠ	69	韓国(朝鮮)語Ⅰ	102
基礎ドイツ語AⅠ	70	韓国(朝鮮)語Ⅱ	102
基礎ドイツ語AⅠ	70		
基礎ドイツ語AⅠ	71		
基礎ドイツ語AⅠ	71		
基礎ドイツ語AⅠ	72	3. 保健体育系科目	
基礎ドイツ語AⅠ	72	保健体育系科目の概要	103
基礎ドイツ語AⅠ	73	スポーツ運動学実技A	103
基礎ドイツ語AⅠ	73	スポーツ運動学実技B	104
基礎ドイツ語AⅡ	74	健康スポーツ科学論	104
基礎ドイツ語AⅡ	74		
基礎ドイツ語AⅡ	75	4. リレー講義科目	
基礎ドイツ語AⅡ	75	テーマ別リレー講義	
基礎ドイツ語AⅡ	76	「社会保障の現代的課題」	105
基礎ドイツ語AⅡ	76	リレーセミナー	
基礎ドイツ語AⅡ	77	「幸福をめぐるー教養、経済、工学」	106
基礎ドイツ語AⅡ	77		
基礎ドイツ語AⅡ	78	II-1. 教職に関する専門教育科目	
基礎ドイツ語AⅡ	78	教職論	107
基礎ドイツ語AⅡ	79	教育原理	107
基礎ドイツ語AⅡ	79	教育心理学	108
基礎ドイツ語AⅡ	79	教育社会学	109
基礎ドイツ語B	80	工業教科教育法	109
基礎ドイツ語B	81	教科教育法(数学)Ⅰ	110
基礎ドイツ語B	81	教科教育法(数学)Ⅱ	111
基礎ドイツ語B	82	教育課程論	111
基礎ドイツ語B	83	特別活動の指導法	112
基礎ドイツ語B	83	教育方法	112
基礎ドイツ語B	84	生徒指導(進路指導を含む。)	113
基礎ドイツ語B	84	教育相談	113

教職実践演習（高）	114
-----------------	-----

II-2. 工業の教科に関する専門教育科目

職業指導	115
------------	-----

III. 人間科学科目（留学生）

留学生科目概要	117
日本語 A I	117
日本語 A I	118
日本語 A II	118
日本語 A II	119
日本語 B I	119
日本語 B II	120
日本語 C I	120
日本語 C II	121
日本事情 A	121
日本事情 B	122
日本事情 C	122
日本事情 D	123

附属図書館における教育支援業務の概要

1. 概要

学習や研究活動をより効果的に進めるために、附属図書館で行っている教育支援業務について簡単に説明します。ほとんどの情報はウェブのページに記載されていますので、詳細は次のページを確認してください。

→ <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/>

2. 利用案内 → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/guide/kaikanjikan/kaikanjikan.htm> ほか

開館時間と休館日、館内の案内図、貸出・返却・更新・予約の方法、図書や雑誌の探し方、文献複写・相互貸借の依頼の仕方について紹介します。

3. 資料案内 → http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/gakunaisenyovod_tobata/index.htm ほか

ビデオオンデマンド教材、新着図書や新着ベストセラー図書、学術雑誌コーナーやブラウジングコーナーに配架している雑誌の一覧、購入雑誌の一覧、本学の博士学位論文の論題と目次（要旨）の一覧を紹介します。

4. その他の図書館サービス

- マイライブラリ → <http://opac.libt.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do>

以下のリクエストサービスを提供：

Webからの文献複写依頼、他大学への図書借用依頼、新着情報、貸出状況照会、貸出期間の延長、図書資料の予約・予約の取消し、依頼状況照会、マイフォルダの利用

- 本館分館間資料取寄せ
- ラーニングcommons：自主的な課題解決型学習を支援する場として図書館1階に設置された空間。可動式机椅子、プロジェクタ、貸出ノートPCによりグループラーニングやプレゼンテーションを行える。ライブラリーcommonsサポーターによる学習支援
- iPadの貸出
- eラーニング → <http://www.e-learningcenter.kyutech.jp/index.html>
- PC及び無線LAN

5. 図書館の蔵書データベースの検索

図書館の蔵書は図書、雑誌、視聴覚資料等で構成されており、目録はすべてデータベース化されているためオンライン（OPAC：Online Public Access Catalog）で検索し学内の所蔵を調べることができます。

日本語検索 <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=ja>

英語検索 <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=en>

携帯電話からも検索可 → <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/limedia/i/>

学内に所蔵がない場合 → <http://webcat.nii.ac.jp/> NACSIS Webcat：全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース

6. 文献データベース等の検索（一部を除きVPN接続や情報科学センター教育システムのIDで学外からも検索可能）

テーマに沿った雑誌論文や新聞記事、データをさがすことができます。

☆国内文献をさがす：主に1年生～3年生からのレベル

- CiNii：学協会発行の学術雑誌と大学等の研究紀要を対象とした論文の引用文献情報データベース。一部本文

の参照も可。 → <http://ci.nii.ac.jp/>

- JDream II : 国内や海外の科学技術、医学に関する、学術論文や解説的記事などの抄録付きの文献情報データベース → <http://ninsho.jst.go.jp/loginIP.html>
- 雑誌記事索引検索 (国立国会図書館) : 国内刊行和文雑誌を対象とした記事データベース
→ <https://ndlopac.ndl.go.jp/>
- 日経BP記事検索サービス : 日経BP社が発行する雑誌 (約40誌) のバックナンバー記事を、オンライン上で検索・閲覧できるサービス
→ <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>
- ヨミダス文書館 : 読売新聞と“THE DAILY YOMIURI” (英字新聞) とが収録された新聞記事データベースと、「よみうり人物データベース」を提供
→ <https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>
- 理科年表プレミアム : 1925年 (大正14年) 以降最新版までの理科年表の内容を収録
→ <http://www.rikanenpyo.jp/member/>
- ジャパンナレッジ・プラスN : 百科事典、国語辞典、用語辞典、外国語辞典、歴史辞典、人名辞典、地図、会社四季報、ニュース、学術サイトURL集等事典・辞書を中心に30以上のコンテンツが搭載されている総合データベースです。 → <http://www.jkn21.com/>

☆外国文献をさがす : 主に卒研究生、院生、教員からのレベル

- JDream II : 海外の学術論文の抄録の翻訳を含む。
- Web of Science (Science Citation Index Expanded) : 世界的な自然科学系のメジャー雑誌、約8,400誌に掲載された論文の引用関係を効率的に辿ることができるデータベース。
本学が契約している電子ジャーナルの原著論文へのリンク機能を持つ。
→ <http://www.webofknowledge.com/>
- INSPEC : 物理学、電気工学、エレクトロニクス、コンピュータ分野にわたる世界的な科学技術文献を網羅した優れたリソース、約700万件の書誌事項を収録
→ <http://www.webofknowledge.com/inspec>
- Journal Citation Report on the Web (Science edition) : 約200の専門分野にわたる7,000誌以上の、最も引用され・かつ国際的評価の高い学術雑誌を収録し、Impact factorなどの雑誌の重要度、影響度を測るための有用な指標を提供
→ <http://isiknowledge.com/JCR>
- MathSciNet : AMS(American Mathematical Society:米国数学会)提供による、世界の数学文献をカバーする包括的な書誌・レビューデータベース
→ <http://www.ams.org/mathscinet/>

7. 電子ジャーナルの検索・閲覧 (VPN 接続や情報科学センター教育システムの ID で学外からも閲覧可能)

文献データベースで検索した原著論文のフルテキストをオンラインで閲覧することができます。

ScienceDirect、SpringerLink、Wiley-InterScience 等はサブジェクト毎のコレクションを有するとともに検索機能をもったデータベースでもあります。学術雑誌約 4700 タイトルが閲覧可能です。

☆主な電子ジャーナル

- ScienceDirect (Elsevier社) : 約2000タイトル、自然科学・工学・医学分野他
→ <http://www.sciencedirect.com/>
- SpringerLink (Springer社) : 約1900タイトル、自然科学・工学・医学分野他
→ <http://www.springerlink.com/>
- Wiley Online Library (Wiley社) : 約800タイトル、自然科学・工学・医学分野他

→ <http://onlinelibrary.wiley.com/>

- CSDL (IEEE Computer Society Digital Library) : 27タイトル、コンピュータサイエンス
→ <http://www2.computer.org/portal/web/csdl>
- APS (American Physical Society) : 8タイトル、物理学 → <http://prola.aps.org/>
- American Chemical Society Web Editions : 38タイトル、化学・応用化学 → <http://pubs.acs.org/>
- Nature : 6タイトル、Nature本誌と生命科学・材料科学分野 5タイトル
→ <http://www.nature.com/nature/>
- ASME (American Society of Mechanical Engineers) : 24タイトル、機械
→ <http://www.asme.org/Publications/Journals/>
- IMechE (Institution of Mechanical Engineers) : 16タイトル、機械
→ <http://online.sagepub.com/>

8. 電子ブックの利用

- NetLibrary → <http://search.ebscohost.com/>
大学の学部生向けの基本的な学術図書のコレクションです。
「物理学 30 講シリーズ」、「理工系の数学教室」、「新・数学とコンピュータシリーズ」等
理工系和書（朝倉書店、東京電機大学出版局他）268、洋書 64 タイトルを閲覧できます。
- Springer社eBook → <http://www.springerlink.com/>
シュプリンガー・イーブック・コレクションのうち、2005年の全分野（約3000タイトル以上）と Engineering（工学）分野の2005年から2010年まで（約2700タイトル）を閲覧できます。
- Wiley online books → <http://onlinelibrary.wiley.com/>
ワイリーの電子ブック152点（数学環境人文分野）を Wiley Online Library のプラットフォームから閲覧できます。
- ScienceDirect eBooks → <http://www.sciencedirect.com/>
エルゼビアの電子ブック2010年発行理工学系分野386点を ScienceDirect のプラットフォームから閲覧できます。

9. 図書館発信データベースの検索

- 九州工業大学学術機関リポジトリ “Kyutacar（キューテイカー）” : 学内で生産された教育・研究成果情報を電子的に蓄積・保存し、無償で学内外に発信・提供するインターネット上のデータベース
→ <http://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>
- 筑豊歴史写真ギャラリー（情報工学部分館）: 昭和30年代前半まで日本の産業・経済を支え、わが国有数の石炭生産地であった筑豊の往時の姿を伝える写真データベース
→ <http://search2.libi.kyutech.ac.jp/>
- 博士学位論文: 九州工業大学で授与された課程博士論文、論文博士論文の論題と目次（要旨）の一覧
→ <http://www.lib.kyutech.ac.jp/lib/shiryoannai/thesis/thesis.htm>

10. ビデオオンデマンド教材の閲覧（VPN 接続で学外からも閲覧可能）

丸善 BBC 等の主に英語教育を目的としたビデオプログラムを VOD 配信するサービス

☆戸畑キャンパス → http://www.lib.kyutech.ac.jp/lib/gakunaisenyo/vod_tobata/index.htm

- 科学と人間: クローン時代と生命倫理=DAWN OF THE CLONE AGE（英語、日本語字幕版） 他27点
全92巻（若松キャンパスからも閲覧可）

図書館情報リテラシー

全学科 1年次 前期 工学基礎科目の「情報リテラシー」の時間に行う。

担当 1) 図書館：学術情報資源の活用法

附属図書館業務委託請負業者

2) e-ラーニング事業推進室：e-ラーニング教材の使い方

e-ラーニング事業推進室 大西淑雅講師、山口真之介助教

アシスタント 附属図書館の業務委託請負業者及び図書館職員（4～5人）、T A

概要

1. 目的

大学の学術情報基盤を支える図書館の機能やサービスを紹介し、端末を使って情報検索を実習することにより図書館の活用能力を高め、学生の学習や研究活動をより効果的に行うことを目的とする。また、e-ラーニング教材の使い方を学ぶことによって自主学習環境を活用する習慣を涵養することを目的とする。

2. 方法

新入生を対象として、工学基礎科目の情報リテラシーの1コマ90分の時間の中で図書館における情報リテラシーについて説明、実習を行う。また、e-ラーニング事業推進室によるe-ラーニング教材の説明、紹介を行う。

1) 図書館：学術情報資源の活用法（65分）

2) e-ラーニング事業推進室：e-ラーニング教材の使い方（20分）

3) 授業アンケート（5分）

授業計画

(1) 学術情報資源の活用法（図書館）

1) 大学での学習・研究と図書館の役割

2) 学術情報とは

- 図書と雑誌の違い
- 1次資料と2次資料

3) 図書の探し方

- OPACを使って、書名検索・著者名検索を行う。
- NACSIS Webcat、Webcat Plusを使う。
- 実習：演習問題をOPACまたはNACSIS Webcatで検索する。

4) 引用・参考文献について

- 引用・参照のルールの説明

5) 参考文献リストに載っている雑誌論文の読み方

6) 雑誌論文の所在を探す

- OPACを使って、雑誌名検索を行う。

7) 電子ジャーナルの使い方

8) 雑誌論文をテーマで探す

- CiNiiの特徴と使い方の説明
- JDream IIの特徴と使い方の説明
- 実習：演習問題をCiNiiまたはJDream IIを使って調べる。

9) その他の文献情報データベースの説明

10) 電子ブックの説明

- 11) ビデオ・オン・デマンドの説明
- 12) マイライブラリと図書館の利用
- (2) e-ラーニング教材の使い方 (e-ラーニング事業推進室)
 - 1) 学習支援サービス (Moodle) の紹介
 - ・将来の講義での活用を想定し、注意点を説明
 - ・新入生に配布した「学習支援サービス利用の手引」の活用を説明
 - 2) 情報倫理のビデオ教材
 - ・情報倫理を学ぶための教材を紹介
 - ・自主学習、講義での一部活用、研究室での活用を推奨
 - 3) 自主学習 (e-ラーニング) 英語教材の紹介
 - ・ALCネットアカデミーの利用方法を説明
 - ・図書館VODサービスを紹介
- (3) 授業の進め方
 - 端末室でのインターネットを利用した実習形式

教科書・参考書

図書館作成のテキスト・演習問題他、JDream II ポケットガイド、CiNii クィックガイド他、「学習支援サービス利用の手引」

備考

Moodle による授業アンケートを実施する。

I. 人間科学基礎科目

(1) 人文社会系科目

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

目標

- 1) 選択必修科目では、人文・社会諸分野の多様な科目を履修し、幅広い視野から社会や文化との関わりの中に科学・技術を位置づける。
- 2) 上級科目では、少人数で双方向的な密度の濃い授業形態をとり、人文・社会諸分野のより高度な問題設定に取り組み、さらに視野を拡大する。
- 3) 自ら問題を発見し、それに答えていくという積極的学習態度の基盤を形成する。
- 4) 専門諸学の基礎となる論理的思考力と言語運用能力を養う。

2. 科目の内容

- 具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

3. 履修上の注意

- 人文社会系選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜1限)

●授業の概要

退屈の哲学：現代社会において、「退屈」がもつ意味について、現象学、心理学等を駆使して分析する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

退屈、気分、現象学

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 退屈な講義について
- 第2回 怠惰について
- 第3回 無為について
- 第4回 変化について
- 第5回 時間について
- 第6回 余暇について
- 第7回 分かりやすさについて
- 第8回 おもしろさについて
- 第9回 退屈は「気分」なのか
- 第10回 退屈な話
- 第11回 動物は退屈するか
- 第12回 退屈と疲労
- 第13回 ニーチェ、ハイデガー
- 第14回 退屈する自由
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

ラース・スヴェンセン 『退屈の小さな哲学』（集英社新書、2005）

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜2限)

●授業の概要

評論を「読み」かつ「考える」：高校までで「哲学」と名のつく授業を取った者はほとんどいないだろうが、じつは国語教科書の評論の中には、哲学的思考にかかわるものが少なくない。そうした評論を、試験勉強のためでなく、本格的に読みこなすことによって、哲学的思考のやり方を学ぶ。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

哲学的思考、読解

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1～2回 田中美知太郎 「モームの哲学練習」（『古典学徒の信条』）
- 第3～4回 鶴見俊輔 「日本の哲学言語」（『記号論集』）
- 第5～6回 湯川秀樹 「科学者の創造性」（筑摩日本文学全集『現代評論集』）
- 第7～9回 会田雄次 「ヨーロッパ・ヒューマンイズムの限界」（同）
- 第10～13回 中村光夫 「近代を疑う」
- 第14回 小浜逸郎 「人は何のために生きるのか」
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時に取り上げた著者の他の評論にも目を通してみること。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第1～2回 批判的・創造的思考
- 第3～5回 推論のやり方
- 第6回 レポート検討Ⅰ
- 第7～8回 因果的説明
- 第9～11回 表現の明確化
- 第12回 レポート検討Ⅱ
- 第13～15回 理由の評価

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。松永和紀著『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

哲学書はなぜ難解なのか

哲学の本は、なぜ難しいのだろうか。理解のしにくさ、難解さはどこから来るのだろうか。哲学の代表的古典を素材に、文化的差異、翻訳の問題、日本語の問題などを検討しつつ、哲学書の難解さの由来を探る。また、一般に「読むということ」はどのような営みなのかも考えてみたい。それゆえ、哲学の古典を素材に個々の哲学説を解説する講義ではないので注意すること。

●授業の目的

哲学の古典を読むことにより、難解さの由来、また一般に「わかる」とはどういうことか、「読む」とは、どのような行為なのかを理解する。

2. キーワード

西洋哲学、翻訳、日本語

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 「分からない」とはどういうことか。
- 第2回 文化的背景の違い
- 第3回 翻訳の問題
- 第4回 日本語の問題
- 第5回 プラトン『パイドン』(1)
- 第6回 プラトン『パイドン』(2)
- 第7回 デカルト『省察』(1)
- 第8回 デカルト『省察』(2)
- 第9回 カント『純粹理性批判』(1)
- 第10回 カント『純粹理性批判』(2)
- 第11回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』(1)
- 第12回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』(2)
- 第13回 ハイデガー『存在と時間』(1)
- 第14回 ハイデガー『存在と時間』(2)
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。『プラトン全集』（岩波書店）131.3ⅡP-5Ⅱ1

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜2限)

●授業の概要

死の哲学：哲学は死の練習と言われるように、死は、古来哲学の中心問題であり続けた。現代医療の発達による死の概念の揺れなどを考慮しつつ、死の問題に迫る。

●授業の目的

現代における死の哲学的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

脳死、尊厳死、死生観

3. 到達目標

- ・伝統的・現代的（尊厳死、脳死）な死の概念にまつわる哲学的問題を理解する。
- ・それに基づいて、できるだけ一貫した自らの判断ができるようにする。

4. 授業計画

- | | |
|-------|------------|
| 第1回 | 哲学は死の練習 |
| 第2～6回 | ハイデガーの死の哲学 |
| 第6回 | 死の自己決定 |
| 第7回 | <関係>としての死 |
| 第8回 | 尊厳死 |
| 第9回 | 『往生要集』 |
| 第10回 | 日本人の来世観 |
| 第11回 | 脳死と揺れる死の概念 |
| 第12回 | 死の共同性 |
| 第13回 | キルケゴール |
| 第14回 | ショーペンハウアー |
| 第15回 | 試験問題解説 |

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。『生と死の倫理学：よく生きるためのバイオエシックス入門』。篠原駿一郎、波多江忠彦編。ナカニシヤ出版、2002。

本館 閲覧室3階 490.1ⅡS-7

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(金曜2限)

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につける。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- | | |
|---------|-----------|
| 第1～2回 | 批判的・創造的思考 |
| 第3～5回 | 推論のやり方 |
| 第6回 | レポート検討Ⅰ |
| 第7～8回 | 因果的説明 |
| 第9～11回 | 表現の明確化 |
| 第12回 | レポート検討Ⅱ |
| 第13～15回 | 理由の評価 |

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。松永和紀著『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

倫理学 I Ethics I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学（1）一万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学（2）
一生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学（3）
一自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 哲学とキリスト教
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』第1巻の要旨
- 第11回 『神の国』第2巻
一ローマ国家の道徳的退廃と神々（1）
- 第12回 『神の国』第2巻
一ローマ国家の道徳的退廃と神々（2）
- 第13回 『神の国』第2巻
一ローマ国家の道徳的退廃と神々（3）
- 第14回 『神の国』第2巻
一ローマ国家の道徳的退廃と神々（4）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100%）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著 / 服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学 I Ethics I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

古代ギリシア哲学、ソクラテス、プラトン、国家、正義

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学（1）一万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学（2）
一生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学（3）
一自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題（1）一無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題（2）一よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（1）
- 第11回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（2）
- 第12回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（3）
- 第13回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（4）
- 第14回 プラトン著『国家』第1巻
一正義についての見解の検討（5）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100%）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著 / 藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）4-00-336017-6

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ Ethics II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

現代が目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学（1）—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学（2）
—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学（3）
—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 キリスト教と哲学
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』第1巻の要旨
- 第11回 『神の国』第2巻の要旨
- 第12回 『神の国』第3巻
—ローマ国家の惨禍と神々の無力（1）
- 第13回 『神の国』第3巻
—ローマ国家の惨禍と神々の無力（2）
- 第14回 『神の国』第3巻
—ローマ国家の惨禍と神々の無力（3）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著／服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ Ethics II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現代が目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

古代ギリシア哲学、ソクラテス、プラトン、国家、正義

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学（1）—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学（2）
—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学（3）
—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題（1）—無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題（2）—よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1巻の要旨
- 第11回 『国家』第2巻—正義の問題の根本的な再提起（1）
- 第12回 『国家』第2巻—正義の問題の根本的な再提起（2）
- 第13回 『国家』第2巻—国家に関する考察
- 第14回 『国家』第2巻—国の守護者の教育
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）4-00-336017-6

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

歴史学Ⅰ History I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」(15世紀末から18世紀)という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ(茶)の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

2. キーワード

交易史、社会史、モノの歴史学、茶

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは?・個別事例:スパイス
- ③理論・個別事例:茶
- ④大航海時代:1ポルトガル・スペイン
- ⑤スパイスと北西ヨーロッパ
- ⑥大航海時代:2中核国の推移
- ⑦大航海時代:3オランダ・イギリスの勃興
- ⑧ヨーロッパ各国の東インド会社①
- ⑨ヨーロッパ各国の東インド会社②
- ⑩紅茶・コーヒー・砂糖⑪イギリスの紅茶文化
- ⑫大量消費と植民地生産
- ⑬帝国の揺らぎ
- ⑭植民地:過去・現在
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト	20%
レポート	20%
期末テスト	60% 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版)11、14』『素晴らしい列車の旅 バイリンガル版1(インド東から西へ)』の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献
 角山栄『茶の世界史』中公新書、1998年。0811IC-111596

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
 Mon1kit@aol.com 1限 Mon2kit@aol.com 2限

歴史学Ⅰ History I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

(金曜2限)

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「資源」「開発」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。資源を保有する地域が豊かであると考えるのが一般的なのかもしれない。しかし、世界には資源を保有しているにもかかわらず、その恩恵が人々に十分にいきわたらず、社会に大きな格差が生まれている地域も多い。ヨーロッパ諸国やアメリカが世界の資源開発に着手した大航海時代から19世紀の植民地時代までを通過することで、資源開発に関わる人・国家・物・私企業の関係性の変遷が見えてくる。

●授業の目的

17世紀から19世紀を対象時期として、歴史上の資源開発に焦点をあてる。資源とは何か、資源の所有権、資源開発のプロセス、資源の開発、生産、流通に関する人々の役割、資源開発にともなう諸問題(環境・グローバル化・貧富格差等)について事例を交えて学び歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「資源」や「開発」はヨーロッパやアメリカの経済の歴史を理解する上で、重要なキーワードである。しかし、現代の大規模鉱山は中東、アフリカやラテン・アメリカなど、西洋諸国とは異なるエリアに存在するものが多い。日本でもほんの数十年前まで石炭を中心とする大規模鉱山が各地に存在したが、今や産業遺跡としてのみ形をとどめているものも少なくない。授業ではまず、西洋や植民地における資源の種類(金属・化石燃料等)について個別に学ぶ。また鉱業技術の発達や鉱夫の労働・コミュニティのあり方を理解し、鉱山社会(ヤマ社会)について検討する。資源と開発という現代的な問題をその起源から洗いだしていく。

2. キーワード

資源、開発、技術、グローバル化、東西交流、植民地

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③資源と歴史
- ④植民地と開発
- ⑤事例 鉱物1開発
- ⑥ 2生産
- ⑦ 3流通
- ⑧小テスト
- ⑨事例 石油1開発
- ⑩ 2生産
- ⑪ 3流通
- ⑫事例 森林1開発
- ⑬ 2生産
- ⑭ 3流通
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価レポート①20%・レポート②30%・期末テスト50% 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版)11、14』『素晴らしい列車の旅 バイリンガル版4(東南アジア豪華な気分)』の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

山口梅太郎『放送大学印刷教材140(現代資源論:鉱物資源とその開発)』1986年。375.91H-21140

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
 Fri2kit@aol.com

歴史学Ⅱ History A Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

電気や水道、ガスもない時代（近世・近代）に、イギリスの都市に暮らす人々の生活はどのようなものだったのか。当時の人々は何を食べて、何を楽しみにして何を恐れながら暮らしていたのだろうか。この時代のイギリスには、「宗教改革」や「革命」など年表に記されるような大事件が起こっているが、年表にあらわれることのない当時の普通の人々の暮らしと、このような大事件はどのように交わっていたのか。18世紀末から19世紀にかけてロンドン市は世界で最も早く工業化、都市化を経験し、この時期に起こった大きな変化は現代社会と共通の問題点を数多く生み出した。このような長期に渡る変化の過程を追いつつ、現代社会の諸問題の起源を探る。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、イギリス史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会など、歴史上のさまざまな都市の事例を見ていく。それらの事例から、歴史学の重要な考え方である社会史の考え方を学び、ヨーロッパ社会の歴史を理解していく。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。これらが西洋で成立した過程を詳しくたどることで、「市民として都市でくらす」ことの歴史的な変化を把握する。また、個別事例としてロンドンを中心にみていく。地球の裏側であるヨーロッパの過去の都市に生きた人々について、生活、レクリエーション、信仰、職業・福祉など幅広い視点で考える。

2. キーワード

都市史、社会史、文化史、工業化、イギリス、ロンドン

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③西洋中世都市モデル
- ④都市の人口規模比較
- ⑤個別事例 1 成立過程
- ⑥ 2 都市社会構造
- ⑦ 3 社会分極化
- ⑧ 小テスト
- ⑨ 4 都市文化
- ⑩ 5 新興都市
- ⑪ 6 都市化・工業化
- ⑫ 7 貧困と福祉
- ⑬ 8 植民地と都市
- ⑭ 9 都市と外国人
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト 20% 2問（各10点）

レポート 20%

期末テスト 60% 3問（25点2問、30点1問）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回の授業で注意点を述べる。なお、授業外学習としてVOD：『サイモン・シャーマの英国史 英語（日本語字幕版）7、8、11、14』（図書館HP参照）の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999年。233.3II-11b

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mon1kit@aol.com 1限：Mon2kit@aol.com 2限

歴史学Ⅱ History A Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現在日本に暮らす私たちの「都市」に対するイメージは、ヨーロッパの歴史の中の「都市」とはかなり異なっている。中世の西洋の都市は、一般的に人口1万人程度、高い壁で四方を囲まれ、市門は夜間自衛のために閉ざされていた。誰もが「市民」になれるわけではなく、長い年月をかけて、限られた人間に限られた手段を通してようやく市民権獲得することができたのである。16世紀以降になると、これらの都市の中から、成長を続けて巨大な人口を抱えるようになる大都市が出現する。近現代的な都市の誕生であり、現代人にとっての「大都会」のイメージが徐々に形作られてくる。

●授業の目的

16世紀から18世紀を対象時期として、歴史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会に関して、さまざまな歴史上の都市の事例を学ぶ。それらの事例を個別に学んだ上で、歴史学における重要な考え方である、比較史の方法を学ぶ。さらに、ヨーロッパ社会の歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。授業ではまず、これらが西洋で成立した過程を詳しくたどる。「市民として都市で暮らす」ということが、現代日本の我々が持つイメージとは異なり、時間を追って変化してきたことを理解する。また、個別事例では、当時人口が増大し巨大都市化が進んだ点が共通する、近世の江戸・ロンドン・パリという3つの首都を見ていく。その上で、過去のヨーロッパの都市と過去の日本の都市という時空の離れた事例から、「都市」を多角的に捉える。

2. キーワード

都市史、社会史、比較史、首都、ロンドン、パリ、江戸

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②ヨーロッパとイギリス
- ③西洋中世都市モデル
- ④3つの首都の人口比較
- ⑤事例 江戸 1 成立過程
- ⑥ 2 都市社会構造
- ⑦ 3 身分制社会
- ⑧⑨事例 パリ 1 成立過程
- ⑩ 2 都市社会構造
- ⑪小テスト 3 宗教戦争
- ⑫事例 ロンドン 1 成立過程
- ⑬ 2 都市社会構造
- ⑭ 3 社会分極化
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価

- レポート① 20%
 - レポート② 30%
 - 期末テスト 50%
- 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。なお、授業外学習として VOD：『サイモン・シャーマの英国史英語（日本語字幕版）11、14』（図書館 HP 参照）の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』
 刀水書房、1999年。233.3 Ⅱ I-1 Ⅱ b

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
 Fri2kit@aol.com

文学Ⅰ Literature I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置付け

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

文体論・物語論・テーマ論

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。近代文学の読書法。
- 第2回 樋口一葉『たけくらべ』
- 第3回 泉鏡花『高野聖』
- 第4回 島崎藤村『破戒』
- 第5回 夏目漱石『こころ』
- 第6回 森鷗外『高瀬舟』
- 第7回 芥川龍之介『奉教人の死』
- 第8回 宮沢賢治『よだかの星』
- 第9回 谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第10回 川端康成『雪国』
- 第11回 太宰治『人間失格』
- 第12回 三島由紀夫『仮面の告白』
- 第13回 遠藤周作『海と毒薬』
- 第14回 近代文学のジャンル
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80%）出席および授業への積極的状況（20%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るため、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『文学を読む』花書院

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

九州女子大学人間科学部荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

文学Ⅱ Literature II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と思考力を高める。

●授業の位置付け

毎回、現代文学を輪読し、作品の読解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

読解力・思考力・表現力

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。現代文学の読書法。
- 第2回 松本清張『或る「小倉日記」伝』
- 第3回 大江健三郎『死者の奢り』
- 第4回 中上健次『一九歳の地図』
- 第5回 宮本輝『螢川』
- 第6回 村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』
- 第7回 山田詠美『風葬の教室』
- 第8回 吉本ばなな『キッチン』
- 第9回 宮部みゆき『理由』
- 第10回 綿谷りさ『蹴りたい背中』
- 第11回 金原ひとみ『蛇にピアス』
- 第12回 川上弘美『離さない』
- 第13回 村上春樹『1Q84』
- 第14回 現代文学のジャンル
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80%）出席および授業への積極的状況（20%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るため、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『小説を読む』（花書院）

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

九州女子大学

荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

心理学 I Psychology I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1・2 年次
 学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位
 担当教員名 麦島 剛

1. 概要

● 授業の概要

心理学はこころの法則性についての実証的な学術である。その研究対象は多岐に及び、各々にふさわしい研究方法がある。このため、心理学は大きく二分される。一つは、実験研究によって実証する分野であり、知覚・認知・記憶・学習などが扱われる。もう一つは、調査や面接などによって実証する分野であり、教育・人間関係・産業社会・こころの不調などが扱われる。この授業では、前者の領域、つまり実験心理学について概説する。

● 授業の目的

実験心理学の諸分野について満遍なく概観し、そのエッセンスを理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。

2. キーワード

実験心理学・知覚・認知・記憶・学習・生理心理学

3. 到達目標

実験心理学全般に対する知識 (理論と現象の両面) を身に着けること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・こころのサイエンスとは?
- 第2回 心理学史
- 第3回 生理心理学1 神経系の構造と機能 (1)
- 第4回 生理心理学2 神経系の構造と機能 (2)
- 第5回 生理心理学3 神経系と意識・情動・記憶・思考との関係
- 第6回 ストレス理論1 生理学的ストレス理論
- 第7回 ストレス理論2 心理学的ストレス理論とストレスコーピング
- 第8回 知覚心理学1 視覚系の知覚 内的世界と外的世界は同一なのか?
- 第9回 知覚心理学2 聴覚系の知覚 音の精神物理学
- 第10回 認知心理学1 注意とその障害
- 第11回 認知心理学2 記憶とその障害
- 第12回 学習心理学1 学習の2つのプロセス
- 第13回 学習心理学2 学習理論の応用 (臨床心理学やマイクロ経済学への応用)
- 第14回 まとめ 実験心理学の今後の方向性
- 第15回 試験

5. 評価の方法・基準

試験 80% (中間の確認テストを含む)、出席 20% で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

教科書: 定めない。適宜、印刷資料を配布する。
 参考文献: 例えば、木村裕他 (2000) 『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレイン社 140/K-7/2
 西本武彦他 (2009) 『現代心理学入門』川島書店 140/N-2

8. オフィスアワー

質問等は、授業直後、あるいは本務校 E-mail (mugi@fukuoka-pu.ac.jp) にて受付。

心理学 II Psychology II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1・2 年次
 学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位区分: 2 単位
 担当教員名 今村 義臣

1. 概要

● 授業の背景

脳科学の発展により、従来の哲学、宗教、あるいは心理学で培われてきた人間観が大きく変化しようとしている。脳は、以前に考えられていたようなブラックボックスでは決していない。脳を知ることが、生きる意味を知ることにつながる。その知識を、認知科学としての現代心理学は与えてくれる。

● 授業の目的

“意識とは何か” を統一テーマに最近の脳科学の諸知見を交えながら心理学のさまざまな研究分野を紹介していく、最終的には現代における人間理解に役立つような講義にしたい。

● 授業の位置付け

人間に関わる他の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

脳科学、行動科学、認知科学

3. 到達目標

- ① 教育・社会系心理学全般に対する知識 (理論と現象の両面) を身に着けること。
- ② 社会や臨床の場面で生じている事象を心理学あるいは脳科学的に理解すること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 脳と心1 脳と心の考え方について心理学の立場を紹介する。
- 第3回 脳と心2
- 第4回 視覚的意識1 意識研究では最も進んでいる分野である視覚の情報処理を概観する。特に無意識的処理の役割について考察する。
- 第5回 視覚的意識2
- 第6回 視覚的意識3
- 第7回 視覚的意識4
- 第8回 無意識の再考1 分割脳、幻肢、あるいは、共感覚等を紹介しながら脳のメカニズムを見ていく。また、神経生理学的立場から再考したフロイドの無意識について考察する。
- 第9回 無意識の再考2
- 第10回 無意識の再考3
- 第11回 無意識の再考4
- 第12回 情動と意識1 意識における情動の役割を社会心理学や脳神経生理学の諸知見を交えて考察する。
- 第13回 情動と意識2
- 第14回 情動と意識3
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

- 教科書
 使用しない。適宜資料を配付する。
- 参考書
 適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp
 月曜 1・2 限

心理学Ⅱ Psychology II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 麦島 剛

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

近年の社会変化（格差社会への変化等）に伴う抑うつ・自殺・いじめなどの臨床心理学的問題がひろく注目されるようになった。また、ゆとり教育・習熟度別授業・特別支援学校（学級）など、教育をめぐる議論が盛んである。これらの問題の検討と解決のためには、確かな心理学理論の理解が必要となる。心理学Ⅰが実験心理学の概説であるのに対し、本授業では教育・社会系心理学を概説する。

●授業の目的

教育・社会系心理学について理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。なお、前期に心理学Ⅰ（麦島）を受講しているほうが本授業を理解しやすいと思われる。

2. キーワード

発達心理学・人格・知能・臨床心理学・心理療法・社会心理学・組織心理学

3. 到達目標

- ①教育・社会系心理学全般に対する知識（理論と現象の両面）を身に着けること。
- ②社会や臨床の場面で生じている事象を心理学あるいは脳科学的に理解すること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション ころの問題の高まりについて
 第2回 発達心理学1 発達理論の基本
 第3回 発達心理学2 ピアジェの理論を中心とした発達理論（1）
 第4回 発達心理学3 ピアジェの理論を中心とした発達理論（2）
 第5回 教育心理学 発達障害児への支援を中心に
 第6回 人格と知能の心理学1 性格とは？
 第7回 人格と知能の心理学2 知能とは？
 第8回 臨床心理学1 精神病理学
 第9回 臨床心理学2 各種の心理療法（1）
 第10回 臨床心理学3 各種の心理療法（2）
 第11回 社会心理学1 社会的認知
 第12回 社会心理学2 対人行動
 第13回 組織心理学 組織行動論に基づく成果主義的人事の検討
 第14回 まとめ 心理学と現代社会
 第15回 試験

5. 評価の方法・基準

試験 80%（中間の確認テストを含む）、出席 20%で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

教科書：定めない。適宜、印刷資料を配布する。

参考文献：例えば、木村裕他（2000）『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレン社 140/K-7/2

西本武彦他（2009）『現代心理学入門』川島書店

8. オフィスアワー

質問等は、授業直後、あるいは本務校 E-mail (mugi@fukuoka-pu.ac.jp) にて受付。

教育心理学 Educational Psychology

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 今村 義臣

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

- ①教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得すること。
- ②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につけること。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
 2回 発達1 ころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
 3回 発達2
 4回 発達3
 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
 6回 学習2
 7回 学習3
 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
 11回 人格と適応2
 12回 人格と適応3
 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
 14回 障害児2
 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

中西信男・三川俊樹編『新教職課程の教育心理学』ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育学 I Pedagogy I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目) 学年 : 1・2 年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択必修 単位数 : 2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

(月曜 2 限)

●授業の目的

現代日本の教育問題・社会問題について、臨床社会学の立場から講義する。講義を通して、教育問題や社会問題に関する一定の理解を得るとともに、巷間に流布している言説を相対化する視点を獲得することを目的とする。また、レポート課題を通して、文章表現能力の育成も目的とする。

●授業の位置付け

本講義では、臨床社会学という立場から教育問題や社会問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。と同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題や社会問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

教育問題・教育病理 社会問題・社会病理 臨床教育社会学
 社会問題の構築主義

3. 到達目標

- ①現代日本の教育問題・社会問題に関する理解を深める。
- ②教育問題・社会問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な言説を相対化する視点を獲得する。
- ③中間テスト及びレポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 臨床教育社会学と社会問題の構築主義
- 2 回 被害者なき犯罪Ⅰ－薬物事犯－
- 3 回 被害者なき犯罪Ⅱ－墮胎－
- 4 回 被害者なき犯罪Ⅲ－性風俗犯－
- 5 回 生殖技術のポリティクス
- 6 回 児童虐待Ⅰ
- 7 回 児童虐待Ⅱ
- 8 回 児童虐待Ⅲ
- 9 回 中期テスト
- 10 回 家庭教育と格差社会
- 11 回 子どもの貧困Ⅰ
- 12 回 子どもの貧困Ⅱ
- 13 回 現代の家族政策
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%
 期末レポート 50%

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

酒井朗編著『学校臨床社会学』放送大学出版社 375.9/H-4
 浜井浩一他『犯罪不安社会』光文社 368.6/H-2

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学 II Pedagogy II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目) 学年 : 1・2 年次
 学期 : 後期 単位区分 : 選択必修 単位数 : 2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

(月曜 2 限)

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観 日本国憲法 子どもの権利条約 自己決定権

3. 到達目標

- ①子どもの相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
- ③自分の意見を的確に表現できるようにすること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 子どもの権利条約
- 3 回 校則問題
- 4 回 公教育と宗教
- 5 回 内申書開示請求
- 6 回 体罰問題
- 7 回 学校事故
- 8 回 いじめ自殺
- 9 回 中間テスト
- 10 回 淫行規制
- 11 回 有害メディア規制
- 12 回 児童虐待Ⅰ
- 13 回 児童虐待Ⅱ
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%
 期末レポート 50%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版 367.6/H-3
 佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社 本館 図書館 373.2/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ Pedagogy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

（金曜2限）

●授業の目的

現代教育が果たす、社会的選抜や人材養成の機能について講義する。特に、現代の高等教育が産業や社会にどういった役割を果たし、個人の志向と社会からの要請とをマッチングさせているのか、あるいはさせていないのかについて理解することを目的とする。そこから、自身が現在所属している高等教育や、近い将来参加するであろう産業や政治の問題点を批判的に考察しうる視点及び表現力を獲得することも目的とする。

●授業の位置付け

現代教育は、個人の人格の完成を目指しつつ、個人を適切な社会的立場へと振り分ける選抜・配分の機能も同時に果たしている。そこから、社会が要請する人材と教育が完成しようとする人間像との一致や矛盾、齟齬なども生み出される。本講義では、現代の高等教育や教育政策の有効性や限界を反省的に考察できる視点を獲得することを目的とする。

2. キーワード

選抜・配分 人材養成・人的資本論 教育投資 教育政策・教育改革 高等教育

3. 到達目標

- ①教育の持つ選抜・人材養成機能について理解すること。
- ②現代の高等教育や教育政策の有効性・限界を把握できるようにすること。
- ③文章表現力を身につけること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 高校改革と高卒労働市場
- 2回 大学改革の現状
- 3回 大学におけるキャリア教育と大卒労働市場
- 4回 大学教育の収益率Ⅰ
- 5回 大学教育の収益率Ⅱ
- 6回 高学歴化と職業構造の変化Ⅰ
- 7回 高学歴化と職業構造の変化Ⅱ
- 8回 中間テスト
- 9回 採用への道
- 10回 ニート・フリーター問題Ⅰ
- 11回 ニート・フリーター問題Ⅱ
- 12回 労働とジェンダー
- 13回 過労死・過労自殺
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%
 期末レポート 50%
 レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献に各自目を通すこと。
- ②政策文書、各大学のホームページ、企業の求人広告、就職サイトなどに授業時間外に目を通し、大学や就職に関する基礎的な知識を身につけておくこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

マーチン・トロウ『高学歴社会の大学』新潮選書 377/T-3
 天野郁夫『学歴の社会史』UP 選書 372.1/A-3

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理 Principle of Education ◎ the 1st period ◎ Monday

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 「子ども」と「大人」の境界線
- 2回 教える者、教えられる者
- 3回 発達と社会化
- 4回 人間の発達段階
- 5回 中間テストⅠ
- 6回 学校制度の国際比較
- 7回 公教育の歴史と制度
- 8回 教育改革の動向
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 中間テストⅡ
- 11回 不登校という選択
- 12回 「いじめ」とは何か？
- 13回 教育のリストラクチャリング
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%
 期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
 田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
 higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育社会学 Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

- 授業の目的
 教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。
 ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
 ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
 ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

- 授業の位置付け
 授業は、大きく次の3つの柱からなる。
 ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
 ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
 ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 家族をめぐる諸問題
- 2回 文化的再生産と教育
- 3回 エスニシティと教育
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 中間テストI
- 6回 メディアと教育
- 7回 現代の子ども文化
- 8回 現代の若者文化
- 9回 少年犯罪言説と少年法
- 10回 少年司法のポリティクス
- 11回 中間テストII
- 12回 組織としての学校
- 13回 カリキュラムの社会学
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%
 期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を

摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学 Introduction to Japanese Law

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得し、社会における人間関係の有るべき姿を考えるようになること。

4. 授業計画

第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観

第2回 法律とは何か、判例とは何か

第3回 法源、主要法典、法適用の原則を知る。

第4回 法律の解釈の仕方を知る①—解釈の方法

第5回 法律の解釈の仕方を知る②—解釈技術

第6回 私法入門—民法の指導原理

第7回 民法上の権利

第8回 権利の限界—私権の公共性

第9回 権利の担い手としての資格①—権利能力

第10回 権利の担い手としての資格②—制限行為能力

第11回 権利の対象となる財産

第12回 取引行為と法①—取引行為の有効要件

第13回 取引行為と法②—無効となる取引

第14回 取引行為と法③—取り消すことができる取引

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 教科書・参考書

●教科書

1) 五十嵐 清著 民法入門 [改訂3版] 有斐閣 324/I-2

2) 石川他編集代表『法学六法 '12』信山社 320.9/I-1/09

●参考書

1) 中川 善之助著 泉 久雄補訂 [補訂版] 法学 日本評論社 321/N-8

2) 佐藤幸治他著『法律学入門 [第3版]』有斐閣 321/S-6

3) 我妻栄=有泉亨=川井健『民法第2版1総則・物権法』勁草書房 324 ISBN: 4326450738

4) 川井 健 『民法総則第3版』有斐閣 324 ISBN: 4641134324

8. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。我々にとって憲法とは何なのか、憲法の意味やその内容を正確に理解し、問題状況を把握し、その本質を見極めたうえで憲法の有るべき姿を考えなければならない時期がきています。

●授業の目的

日本国憲法が保障する国家統治の機構や、基本的人権保障制度の枠組みや目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意味や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは政治のあるべき姿を考える上で欠かせるとなりますし、我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上で有益な素材を与えることができると思います。

2. キーワード

人権保障、自由、平等、平和、議会制民主主義

3. 到達目標

基本的人権がどのような仕組みのもとで守られるようになっていくのかということを理解し、これから基本的人権をどのようにして守っていくべきなのかを主体的に考えることができるようになって欲しいと思います。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意味・特質
- 第3回 日本憲法史
- 第4回 国民主権の原理
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・生命・自由・幸福追求
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済的自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 平和主義の原理
- 第13回 国家統治の機構①－国会・内閣
- 第14回 国家統治の機構③－裁判所・憲法保障
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 伊藤 正巳 著 憲法入門〔第4版補訂版〕有斐閣 323.1/I-17
- 2) 石川他編集代表『法学六法 ’12』信山社 320.9/I-1/09

●参考書

- 1) 清宮 四郎 著 憲法Ⅰ〔第3版〕有斐閣 323.1/K-12/1
- 2) 宮沢 俊義 著 憲法Ⅱ〔新版〕有斐閣 323.1/K-12/2
- 3) 佐藤 功 著 日本国憲法概説〔全訂五版〕学陽書房 323.1/S-5/5
- 4) 芦部 信喜 著 高橋和之 補訂 憲法 第三版 岩波書店 323.1/A-10

8. オフィスアワー

講義の前後質問があればいつでも受け付けます。

社会学Ⅰ Sociology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 稲月 正

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

技術革新を原動力として私たちの社会の仕組みは大きく変化している。そうしたマクロな社会変化は、私たちの日常のミクロな出来事に影響を与えている。同時に、私たちのミクロな実践が社会の仕組みを変えることもある。私たちは企業人としてのみ生きているのではない。市民として、住民として社会を構成している。それゆえ社会と日常をつなぐ想像力の獲得が、現代を読み解き、よく生きるためには必要である。

●授業の目的

社会学の基本的な考え方について理解し、現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会的行為、社会集団、社会構造、アノミー、行為の意図せざる結果、官僚制、核家族、移動指標、グローバリゼーション、統合

3. 到達目標

- ①社会的なものの方・考え方について理解する。
- ②「集団・組織」、「家族」、「階層・社会移動」、「グローバル化」「地域社会」「高齢化と福祉」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1－デュルケムの方法1
- 第4回 社会と個人をつなぐ2－デュルケムの方法2
- 第5回 社会と個人をつなぐ3－ウェーバーの方法1
- 第6回 社会と個人をつなぐ4－ウェーバーの方法2
- 第7回 集団と組織1－集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2－官僚制の逆機能
- 第9回 家族1－家族の種類と機能
- 第10回 家族2－近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1－階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2－階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシティ1－グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシティ2－統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（85％）、小課題（15％）をもとに総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

よく聞き、きちんとノートを取り、考えること。

授業中に出す小課題（適宜）については、問いの意図を正確に理解したうえで回答すること。

7. 教科書・参考書

『現代の社会的な解説』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

その他、適宜、プリントを配布する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後の休み時間に受けつける。

社会学Ⅰ Sociology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 高野 和良

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

地域社会、とりわけ農村で進む高齢化、少子化によってもたらされる諸問題と、産業化、都市化といった全体社会の変動との関係を説明する。

●授業の目的

実証的に地域社会、福祉課題を捉える方法論と社会学、地域福祉の理論とを、具体的な事例を取り上げつつ紹介することによって、人口減少社会である農村の福祉課題の実態、それらが生起する社会背景、解決に向けての手がかりなどをつかむことを目的とする。

●授業の位置づけ

これは金曜日の2限に開講される選択必修であるが、「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。

2. キーワード

家族、農村、過疎、高齢化、地域福祉など。

3. 到達目標

- ①社会学のものの見方・考え方について理解する。
- ②「集団・組織」、「家族」、「階層・社会移動」、「グローバル化」「地域社会」「高齢化と福祉」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 社会福祉と社会学
- 第2回 日本社会における「家」1
- 第3回 日本社会における「家」2
- 第4回 家族形態の変動1
- 第5回 家族形態の変動2
- 第6回 農村の変動1
- 第7回 農村の変動2
- 第8回 過疎地域の現状と課題
- 第9回 農村の高齢化と福祉問題1
- 第10回 農村の高齢化と福祉問題2
- 第11回 農村の高齢化と福祉問題3
- 第12回 農村の高齢化と福祉問題4
- 第13回 農村の高齢化と福祉問題5
- 第14回 農村の高齢化と福祉問題6
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（85%）、平常点（15%）で評価する。
 100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外では講義の内容を整理した上で、適宜紹介する文献を参考にしながら、理解を深める。

7. 教科書・参考書

●教科書

堤マサエ・徳野貞雄・山本努編、2008、『地方からの社会学』
 学文社 ISBN：9784762017797

その他については、講義中に紹介する。

8. オフィスアワー

講義中、授業終了後の休み時間などに質問等は受け付ける。

社会学Ⅱ Sociology II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堤 圭史郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私たちが普段、何気なく送る日常生活には、見過ごされがちな（もしくは私たちがあえて見ないようにしている）物事が沢山ある。社会学という学問の最も重要な役割とは、日常において「あたりまえ」「当然のもの」と見えている事象について常に疑い、批判的に解体し、そして再構成することにある。そうした「社会的なもの」の見方を通して私たちの社会にある諸現実を捉え返したならば、その「現実」とはこれまでとは全く異なった様相で見えてくるかもしれない。本講義を受講生諸君が、市民として住民として、そして職業人として、社会と人間について深く理解した上で社会にはたらきかける力を身につける契機にしたい。

●授業の目的

社会学の基本的な考え方について、主に相互作用論の観点から理解し、現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会的行為、相互行為、社会関係、社会集団、社会構造、社会的意味世界、規範、逸脱、犯罪、非行、差別、偏見、近代、資本制、イデオロギー、絆、正常／異常

3. 到達目標

- ①社会学のものの見方・考え方について理解する。
- ②「犯罪」「非行」「差別」「自己」「若者文化」「つながりの不安」等のテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 ガイダンス どの様なことを学ぶのか
- 第2回 社会的存在としての人間
- 第4回 社会的見地からみた人間の行為（1）
お手本ものさし
- 第5回 社会的見地からみた人間の行為（2）
よく当たる占いはなぜよく当たるのか
- 第8回 社会的見地からみた人間の行為（3）
ダニと人間はどう違うか
- 第7回 社会的見地からみた人間の行為（4）
日常生活の中にある政治
- 第9回 逸脱の社会学（1） 逸脱とは何か
- 第10回 逸脱の社会学（2） 規範の崩壊が逸脱をもたらす
- 第10回 逸脱の社会学（3） 逸脱と文化（1）
- 第10回 逸脱の社会学（3） 逸脱と文化（2）
- 第12回 逸脱の社会学（4） 社会の圧力が逸脱をもたらす
- 第13回 逸脱の社会学（5） つながりの欠如が逸脱をもたらす
- 第14回 逸脱の社会学（6） 「レッテル貼り」が逸脱をもたらす
- 第14回 社会問題はつくられる
- 第15回 まとめと課題

5. 評価の方法・基準

学期末に課す講義内課題（80%）、小課題（20%）をもとに総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・資料を収めるファイル、ノートを用意し、講義の記録に努めること。
- ・講義で多くふれられない事項については資料を配布する。次回までに必ず読んでおくこと。紹介する参考文献も手に取ってほしい。また、講義で学んだことについて、お茶を飲みながら友達と話をするとよい。

7. 教科書・参考書

教科書は指定しない。資料・プリントを講義時に配布する。また適宜写真・映像等を活用する。参考書は講義期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後の休み時間に受け付ける。

社会学Ⅱ SociologyⅡ

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 園田 浩之

1. 概要

(金曜2限)

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離をおいて眺めていくやり方はいくつかのヴァリエーション(選択肢)がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段(日常)がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方(社会学的想像力)と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会というものの」リアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想(その独自性と豊かさ)にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」(より豊かで、柔軟で、批判的な見方)に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的」に捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。とりわけ、現代社会における「自己」のありよう、他者との関わり((ディス)コミュニケーション)を切り口に、身のまわりにある具体的な文化現象を取り上げながら、社会の現在を生きる人々(とりわけ若者)の自由と不自由を描き出してみたい。社会学をつうじた「日常(ふだん)」の再発見によって、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義にしたい。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。

2. キーワード

社会の現在と自己(アイデンティティ)、ポストモダン(現代)、(ディス)コミュニケーション、生きづらさ、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方・考え方について理解する。
- ②「犯罪」「非行」「差別」「自己」「若者文化」「つながりの不安」等のテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 社会学的想像力のために
- 第2回 あたりまえをみるために
- 第3回 「日常世界」と「私」の成り立ち
- 第4回 現代社会における自己
(アイデンティティをめぐる社会学的な問題①)
- 第5回 現代社会における自己
(アイデンティティをめぐる社会学的な問題②)
- 第6回 多元化し分散する自己
- 第7回 若者のコミュニケーションと社会の現在①
(その現実と日常)
- 第8回 若者のコミュニケーションと社会の現在②
(その豊かさと病理)
- 第9回 若者文化を/から社会学的に考える(若者論再考①)
- 第10回 若者文化を/から社会学的に考える(若者論再考②)
- 第11回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ(不確かな生)
①
- 第12回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ(不可解な他者)②

- 第13回 つながりの不安と過剰
((ディス) コミュニケーションからみる現代社会①)
- 第14回 つながりの不安と過剰
((ディス) コミュニケーションからみる現代社会②)
- 第15回 社会学の使いみち(不安と危機の向こう側へ?)

5. 評価の方法・基準

(講義への一定の出席と参加を条件としたうえで)、講義中のコメントペーパー&小レポート(20%)、学期末試験(80%)によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

何気ない日常(の成り立ち)を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい(あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む)。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 教科書・参考書

テキストは使用しない(講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやヴィジュアルな資料を交えつつ、講義を進める)。

また、講義で扱う事柄(テーマ)に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進行に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができるとも思う。

8. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に(あるいは講義中にも)、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

経済学 I Economics I (月曜1・2限)

対象学科(コース):全学科 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、消費者や企業の行動原理を説明するミクロ経済学の基本的な概念を解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「ミクロ経済学」、「需要」、「供給」、「市場」、「資源配分」、「独占・寡占」

3. 到達目標

- ①ミクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 需要と供給
- 3回 需要曲線と消費者行動
- 4回 費用の構造と供給行動
- 5回 市場取引と資源配分
- 6回 消費者行動の理論
- 7回 消費者行動理論の展開
- 8回 生産と費用
- 9回 一般均衡と資源配分
- 10回 独占の理論
- 11回 ゲームの理論
- 12回 市場の失敗
- 13回 不確実性とリスク
- 14回 不完全情報の経済学
- 15回 異時点間の資源配分

5. 評価の方法・基準

出席状況と期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『ミクロ経済学(第2版)』日本評論社 ISBN: 9784535552616

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

経済学 I Economics I (金曜2限)

対象学科(コース):全学科 学年:2・3年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、消費者や企業の行動原理を説明するミクロ経済学の基本的な概念を解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「ミクロ経済学」、「需要」、「供給」、「市場」、「資源配分」、「独占・寡占」

3. 到達目標

- ①ミクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 需要と供給
- 3回 需要曲線と消費者行動
- 4回 費用の構造と供給行動
- 5回 市場取引と資源配分
- 6回 消費者行動の理論
- 7回 消費者行動理論の展開
- 8回 生産と費用
- 9回 一般均衡と資源配分
- 10回 独占の理論
- 11回 ゲームの理論
- 12回 市場の失敗
- 13回 不確実性とリスク
- 14回 不完全情報の経済学
- 15回 異時点間の資源配分

5. 評価の方法・基準

出席状況と、中間レポート及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『ミクロ経済学(第2版)』日本評論社 ISBN: 9784535552616

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ（月曜1・2限）

対象学科（コース）：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、国内外の経済情勢を概観するとともに、マクロ経済学の基本的な概念やメカニズムを解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「マクロ経済学」、「総需要」、「総供給」、「インフレーション」、「デフレーション」、「有効需要」、「財政政策」、「金融政策」

3. 到達目標

- ①マクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 マクロ経済における需要と供給
- 3回 有効需要と乗数メカニズム
- 4回 貨幣の機能と信用創造
- 5回 貨幣需要と利率
- 6回 財政政策の基本的構造
- 7回 財政・金融政策とマクロ経済
- 8回 総需要と総供給
- 9回 労働市場の機能と失業問題
- 10回 インフレーションとデフレーション
- 11回 資産市場とマクロ経済
- 12回 金融政策と金融システム
- 13回 経済成長と経済発展
- 14回 国際金融市場と為替レート
- 15回 通貨制度とマクロ経済政策

5. 評価の方法・基準

出席状況と期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『マクロ経済学』日本評論社 331/I-21

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ（金曜2限）

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、国内外の経済情勢を概観するとともに、マクロ経済学の基本的な概念やメカニズムを解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「マクロ経済学」、「総需要」、「総供給」、「インフレーション」、「デフレーション」、「有効需要」、「財政政策」、「金融政策」

3. 到達目標

- ①マクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 マクロ経済における需要と供給
- 3回 有効需要と乗数メカニズム
- 4回 貨幣の機能と信用創造
- 5回 貨幣需要と利率
- 6回 財政政策の基本的構造
- 7回 財政・金融政策とマクロ経済
- 8回 総需要と総供給
- 9回 労働市場の機能と失業問題
- 10回 インフレーションとデフレーション
- 11回 資産市場とマクロ経済
- 12回 金融政策と金融システム
- 13回 経済成長と経済発展
- 14回 国際金融市場と為替レート
- 15回 通貨制度とマクロ経済政策

5. 評価の方法・基準

出席状況と、中間レポート及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『マクロ経済学』日本評論社 331/I-21

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

政治学 I Political Science I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

(月曜1・2限)

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書(の抜粋)などの比較的読みやすいプリントや視覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的に考える訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表(インターネットなども活用)、これをうけた討論などを重んじる。政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学I及びIIである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む
- 第3回 ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む
- 第4回 「鉄の三角形」の意味と概要
- 第5回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(1)
- 第6回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(2)
- 第7回 政官関係・公益法人論など
- 第8回 戦争と政治(1)
- 第9回 戦争と政治(2)
- 第10回 従来講義の補足と展開
- 第11回 ナショナリズム論(1)
- 第12回 ナショナリズム論(2)
- 第13回 市民的实践とNGO
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験(80%)およびレポートの結果(20%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学 I Political Science I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

(金曜2限)

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義(1)
- 第4回 自由主義と民主主義(2)
- 第5回 現実主義(1)
- 第6回 現実主義(2)
- 第7回 従来講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任(1)
- 第9回 政治的責任(2)
- 第10回 保守主義(1)
- 第11回 保守主義(2)
- 第12回 従来講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ(1)
- 第14回 自由テーマ(2)
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（月曜1・2限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互
 連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に
 重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等
 の活字資料＝プリントや視覚的な教材を活用し、具体的な知識
 の獲得と理論的思考の訓練を行なう。一方通時的な講義＝筆記で
 はなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、こ
 れをうけた討論等を特に重視する。政治学は民主主義国の市民
 あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからとい
 ってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。
 また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現
 象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこ
 でこの講義では、学問としての作法にしたがいがら、政治現象
 と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象
 と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学に
 ついて考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意
 見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政
 治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多元
 主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプ
 ローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理
 解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 教育と政治、民主主義との関連など
- 第3回 教育と政治、ケース・スタディ（1）
- 第4回 教育と政治、ケース・スタディ（2）
- 第5回 教育と政治、ケース・スタディ（3）
- 第6回 補足と展開
- 第7回 開発と補助金政治
- 第8回 開発と地方自治
- 第9回 戦争責任論
- 第10回 開発をめぐる国際政治（1）
- 第11回 開発をめぐる国際政治（2）
- 第12回 軍事化と平和研究
- 第13回 補足と展開
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変
 更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験（80%）およびレポートの結果（20%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる
 総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは
 初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々
 の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生
 き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学
 生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢
 を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでく
 るのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、
 オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜2限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基
 本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養
 成する。具体的なテーマとしては、グローバリゼーションの下で
 の現代政治の世界的な諸課題を中心に検討する。後半では、自由
 テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論
 および論述に重点を置く。

2. キーワード

ナショナリズム、文明の衝突、多元主義、寛容

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプ
 ローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理
 解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 ナショナリズム（1）
- 第4回 ナショナリズム（2）
- 第5回 ナショナリズム（3）
- 第6回 文明の衝突？（1）
- 第7回 文明の衝突？（2）
- 第8回 文明の衝突？（3）
- 第9回 従来の講義の補足と展開
- 第10回 多元主義（1）
- 第11回 多元主義（2）
- 第12回 多元主義（3）
- 第13回 自由テーマ（1）
- 第14回 自由テーマ（2）
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テキストなどの
 要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる
 総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは
 初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々
 の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生
 き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学
 生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢
 を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでく
 るのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、
 オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との間をあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究とは何かーひとつの視点としての「文化」
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopのローカル化
- 第5回 親族の解釈学1ー親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2ー普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3ー相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 世界のアイドル
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力
- 第13回 世界観パート1ー構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2ー構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解読法）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press. ISBN: 0801411939
- 2) Jane Fishburne, Collier and Sylvia Yanagisako, ed., 1987, Gender and Kinship Essays Toward a Unified Analysis. Stanford University Press.
- 3) Sarah Franklin and Suzan Mckinnon ed., 2001, RELATIVE VALUES Reconfiguring Kinship Studies, DUKE UNIVERSITY PRESS.

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究 I Regional Studies I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目) 学年 : 1・2 年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択必修 単位数 : 2 単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

(金曜 2 限)

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰 (伝統の新たな発明であるが) やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ (ミャンマー) 及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との闘ぎあいを具体的な映像資料を通して見ること、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるというdisposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究とは何か
- 第2回 地域研究のひとつの視点としての象徴人類学
- 第3回 グローバル化を考える 1 : Hip Hopのローカル化
- 第4回 ニューギニアのダリビ族の民族誌 : アナロジックな親族
- 第5回 ニューギニアのGimi族の民族誌 : 交代するジェンダー
- 第6回 ニューギニアのPaiela族の民族誌 :
女が成長のエージェント
- 第7回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌 :
アナロジックなジェンダー
- 第8回 グローバル化を考える 2 世界のアイドル
- 第9回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌 (続き)
- 第10回 ニューギニアのpersonの概念とagentの概念 :
市場交換システムと贈与交換システム
- 第11回 東南アジアの民族誌 : イントロダクション
- 第12回 グローバル化を考える 3 ロックの浸透力
- 第13回 新しい親族研究 1
- 第14回 新しい親族研究 2
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート (95%)、出席 (5%) で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press.. 389.7/W-1
- 2) Jane Fishburne, Collier and Sylvia Yanagisako, ed., 1987, Gender and Kinship Essays Toward a Unified Analysis. Stanford University Press.
- 3) Sarah Franklin and Suzan Mckinnon ed., 2001, RELATIVE VALUES Reconfiguring Kinship Studies, DUKE UNIVERSITY PRESS.
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S/15

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。また世界各地の映像資料を見ることで均一化とローカル化との間を具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期はジェンダー・宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、フェミニズム

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるdispositionを身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究とは何か
- 第2回 地域研究とひとつの視角としての象徴人類学について
- 第3回 シンボル論—シンボリック・オブジェクションの理論
- 第4回 グローバル化を考える1：世界の民族
- 第5回 宗教 パート1：宗教の定義を巡って
- 第6回 宗教 パート2：呪術の効果を如何に解釈するか
《その①》
- 第7回 宗教 パート3：呪術の効果を如何に解釈するか
《その②》
- 第8回 グローバル化を考える2 Hip-Hopのローカル化
- 第9回 事例研究1 東北タイの除霊儀礼、中央タイの仏教的治療カルト
- 第10回 事例研究2 北部タイの精霊信仰
—祖先の崇りを巡って—
- 第11回 事例研究3 ニューギニアのホログラフィックな世界
—隠喩のフォース—
- 第12回 グローバル化を考える3 世界のアイドル
- 第13回 植民地化の中の東南アジアの国家概念-劇場国家論
- 第14回 東南アジアの伝統的国家概念-銀河政体論
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press. 389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S/15
- 4) Roy Wagner, 2010, Coyote Anthropology. University of Nebraska Press.

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な事例として、主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々の民族誌を取り上げるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れことになる。また世界各地の映像資料を見ることで均一化とローカル化との聞きあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期は宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、言語行為論

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるdispositionを身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 宗教を捉えるための概念整理（宗教・呪術の定義を中心に）
- 第2回 呪術論基礎（1）－表現的行為（象徴的コミュニケーション）と技術的行為。
- 第3回 呪術論基礎（2）－呪術の効果を巡って。
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopのローカル化
- 第5回 事例検討1：構造主義による呪術の効果の解釈－象徴効果－北米インディアン・パナマ共和国のクナ族の治療儀礼。
- 第6回 事例検討2：物語生成装置論－アフリカのザンデ族の妖術を中心に。因果関係とは何か。
- 第7回 事例検討3：言語行為論－アフリカのザンデ族の呪医と薬学。アナロジーの力。
- 第8回 グローバル化を考える2 世界のアイドル
- 第9回 事例検討4：Symbolic Obviationの観点からの呪術の分析－ニューギニア・ダリビ族のpobiと夢
- 第10回 事例検討5：中央タイの仏教カルトにおける病気治療
- 第11回 事例検討6：北部タイの精霊信仰2：妖術と祖先霊
- 第12回 東南アジアの国家論①－19世紀バリの都市国家：劇場国

家論。

第13回 東南アジアの国家論②－タイ・ビルマ・ラオスの国家論：マンダラ国家論

第14回 総括

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press. 389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) Roy Wagner, 2010, Coyote Anthropology. University of Nebraska Press.

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

哲学と現代Ⅰ Contemporary Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

思考停止、法令遵守

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

- 第1回～第3回 食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止
 第4回～第6回 思考停止するマスメディア
 第7回～第9回 厚生年金記録改竄を巡る思考停止
 第10回～第12回 「遵守」はなぜ思考停止につながるのか
 第13回～第15回 司法への市民参加を巡る思考停止

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

郷原信郎 『思考停止社会』（講談社現代新書）081/K-3/1978

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

- 第1回～第2回 ニセ科学
 第3回～第5回 自然志向の罫
 第6回～第9回 警鐘報道の功罪
 第10回～第15回 科学報道のメディア・リテラシー

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

松永和紀 『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ History of European Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：前期・後期 単位区分：選択

単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えている。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

3. 到達目標

<レポートに関する目標>

- ①文献調査
- ②資料分析
- ③プレゼンテーション（2回）
- ④オリジナリティ：独自の議論
- ⑤プログレス（PR2とFRのみ）

<個別発表に関する目標>

- ①簡潔明瞭な発表
- ②的確な質疑

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド（文献検索について）
- ③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表

⑭ファイナルレポート提出

⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

- プログレス・レポート1 25%
（上記レポート目標①から④各25%）
- プログレス・レポート2 30%（①から⑤各20%）
- ファイナル・レポート 40%（①から⑤各20%）
- 発表および質疑 5% *総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 教科書・参考書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1-4』岩波文庫、1999年。
502/B-4/1～3（担当教員が管理し、授業中に閲覧した後で貸出）

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論Ⅰ Japanese Politics, Past and Present I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストチックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 人間性と政治（権力分立の問題など）
- 第3回 自由・人権観
- 第4回 戦後社会と管理化（1）
- 第5回 戦後社会と管理化（2）
- 第6回 戦後社会と管理化（3）
- 第7回 東北アジアと日本（1）
- 第8回 東北アジアと日本（2）
- 第9回 東北アジアと日本（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 琉球・沖縄と日本（1）
- 第12回 琉球・沖縄と日本（2）
- 第13回 宗教と政治（1）
- 第14回 宗教と政治（2）
- 第15回 戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストチックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。
 上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 自由主義論（1）
- 第3回 自由主義論（2）
- 第4回 諸文明と「国際化」（1）
- 第5回 諸文明と「国際化」（2）
- 第6回 諸文明と「国際化」（3）
- 第7回 市民社会論（1）
- 第8回 市民社会論（2）
- 第9回 市民社会論（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 厚生行政をめぐる政治（1）
- 第12回 厚生行政をめぐる政治（2）
- 第13回 政治的リアリズム
- 第14回 戦後政治をめぐる
- 第15回 補足とまとめ

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域経営論 Regional Management

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

本講義では、地域経営のあり方を検討する上で必要となる視点や考え方を学習する。基本的に、様々な地域問題の原因究明に役立つ学問である「地域経済学」の考え方や理論を中心に講義を進める予定である。また、環境問題や少子高齢化、中心市街地の疲弊など、地域が抱える具体的課題についても検討する。また、こうした議論を踏まえて新時代における地域経営のあり方について展望する。

●授業の位置付け

地域の実情や地域経済学の基礎理論を学習することで、私達の身近にある様々な地域問題に関心を持ち、今後の地域経営のあり方について考えるための基礎を身につける。なお、講義後半はゼミ形式となる。各回テーマに基づき受講者が輪番で報告を行い、全員で討論する。

2. キーワード

「地域経済」、「地域間格差」、「地域間移動と交易」、「産業立地」、「都市システム」、「地方財政」、「まちづくり」など

3. 到達目標

- ①地域経済学の基礎的体系や理論を学び、地域経営やまちづくりのあり方を議論するための学力を身につける。
- ②地域が抱える問題を発見し、解決に向けた処方箋を検討するための基礎的能力を身につける。
- ③プレゼンテーション及びディベートの技術を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 地域経済学とは
- 3回 地域の所得形成と地域成長の理論
- 4回 地域間格差と人口移動
- 5回 産業立地の理論
- 6回 都市の成立と発展
- 7回 中心市街地の疲弊とまちづくりのあり方
- 8回 グローバル化と地域
- 9回 環境問題と地域
- 10回 IT化の進展と地域
- 11回 地方財政の悪化と地域
- 12回 少子高齢化と地域
- 13回 産業振興と地域
- 14回 雇用問題と地域
- 15回 住宅問題と地域

5. 評価の方法・基準

報告と討論、レポートで評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義は、後半からゼミ形式となるため、受講者は積極的な姿勢で講義に臨むことが求められる。特に、報告担当者は十分な準備が必要となる。詳細な注意事項については、初回講義で説明する。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学関連の初級・中級科目等を修得していることが望ましい。ただし、地域経済やまちづくり、地域経営に強い関心があれば必ずしも修得していなくてもよい。

産業組織論 Industrial Organization

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

産業の再編成がグローバルな規模で進行するなど、産業・企業を取り巻く環境は劇的に変化しつつある。こうした状況の中、わが国の産業政策や企業経営はどうあるべきか。産業構造の本質を捉えながら、そのあり方を問い直す必要に迫られている。そこで本講義では、産業組織論の基礎理論を学ぶとともに、その基本的な枠組みに沿って現代日本の産業組織と企業経営のあり方について考察する。

●授業の位置付け

産業組織論の学習を通じて、企業行動の理論を理解するとともに、わが国産業経済や企業経営の実態について把握する。

2. キーワード

「独占・寡占」、「製品差別化戦略」、「合併・買収」、「研究開発とイノベーション」、「技術開発を巡る企業間の戦略的連携」など

3. 到達目標

- ①産業組織論の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②産業や企業経営に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるように知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 産業組織論の対象と方法
- 3回 企業の理論
- 4回 競争と独占の基礎理論
- 5回 寡占
- 6回 製品差別化と競争
- 7回 参入と戦略的行動
- 8回 協同行動と垂直的取引制限
- 9回 市場成果
- 10回 多角化・合併および企業集団
- 11回 研究開発とイノベーション
- 12回 日本の独占禁止政策の展開
- 13回 直接規制政策
- 14回 日本型産業システムの評価
- 15回 わが国産業政策と企業経営のあり方

5. 評価の方法・基準

出席状況と、中間レポート及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

教科書：講義初回に指定する

参考書：新庄浩二[編]『産業組織論』（有斐閣ブックス、1995年）
 ISBN: 4641085544

井手秀樹、鳥居昭夫『入門・産業組織』（有斐閣、2010年）
 ISBN: 9784641163416

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学関連の初級・中級科目等を修得していることが望ましい。ただし、産業経済や企業経営に強い関心があれば必ずしも修得していなくてもよい。

教育システム論 Educational Systems Theory

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかかわりについて検証する。

●授業の位置付け

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

2. キーワード

日本国憲法 教育基本法 教育権 少年法

3. 到達目標

- ①教育と法律のかかわりについて理解を深める。
- ②調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
- ③討論の技術を身につける。

4. 授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。また、1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 校則問題
- 3回 学校とプライバシー
- 4回 法の下での平等と教育（1）－同和教育論－
- 5回 法の下での平等と教育（2）－外国人児童生徒の教育－
- 6回 法の下での平等と教育（3）－障害児教育論－
- 7回 生命倫理と子ども（1）－非嫡出子問題－
- 8回 生命倫理と子ども（2）－生殖医療問題－
- 9回 生命倫理と子ども（3）－中絶問題－
- 10回 日の丸・君が代と学校
- 11回 エホバの証人剣道受講拒否事件
- 12回 教科書検定裁判
- 13回 旭川学力テスト事件
- 14回 パターナリズム論
- 15回 まとめ
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

プレゼンテーション・討議での発言など平素の授業態度 50%
 期末レポート 50%
 プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
- その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考文献 授業の中で適宜指定する。

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

科学表現法 Basic Technical Writing

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子・橘 武史

1. 概要

●授業の目的

中心に述べられていること、キーワードなどを意識しながら話を聞き取る力を養う。まとまりのある文章を書く力を養う。論理的に考え、根拠をきちんと示して自分の意見を述べる力を養う。また、エンジニアとして科学日本語に出会う場面を知り、どのようなコミュニケーション能力が必要か考える。

●授業の位置付け

2年生以上で、エンジニアとして必要なコミュニケーション能力を身に付けたい、つまり、事実に基づいて考察し、自分の意見を明確に述べることができるようになりたいと思う学生を対象とする。初めから書ける必要はない。ただし、他人の意図を理解しようとして聴く力が必須である。

2. キーワード

「科学技術」「要旨」「意見文」「根拠」「エンジニア」

3. 到達目標

- ・キーワードや段落構成を考えながら要旨が書ける・根拠に基づいて自分の意見が述べられる
- ・技術の背景や将来性についてより広い見方ができる・エンジニアとして必要なコミュニケーション能力に関して自己評価ができる

4. 授業計画

科学技術を題材にした視聴覚資料あるいは特別講義を聴いて、まず文章の構成を考えつつ要旨をまとめる練習をする。その要旨についてピア（学生同士）の評価を行う。次に、その技術の意義や将来性について討議し、根拠を示しつつ自分の意見をまとめる練習をする。また、第1、4、8回にはエンジニアとして実際に遭遇する場面例を紹介し、そこでどのような資質が求められるかなどについても議論する。

- 第1回 オリエンテーション：エンジニアとして必要なコミュニケーションとは
- 第2回 要約文（1）まず書いてみる；バイオメトリクス認証
- 第3回 科学日本語の現場（橘武史先生）
- 第4回 要約（2）見晴らし；折り紙工学
- 第5回 要約（3）段落構成；折り紙工学の応用
- 第6回 要約（4）背景説明；ペットボトルリサイクル
- 第7回 読みやすい日本語とは（橘武史先生）
- 第8回 意見文（1）技術をめぐる視点；生ごみ革命
- 第9回 意見文（2）具体的に書く；無人IT基地開発
- 第10回 意見文（3）まとめの段落に書くべきこと；砂漠での発電
- 第11回 科学日本語の実際（橘武史先生）
- 第12回 特別講義を聴いて討議する（橘武史先生）
- 第13回 特別講義を聴いて討議する（張力峰先生）
- 第14回 特別講義を聴いて討議する（講師未定）
- 第15回 自己評価と授業評価

5. 評価の方法・基準

毎回の課題（60%）、授業への参加度（20%）、意見文課題（20%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をよく推敲して提出すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

月曜日4限

選択日本事情A Elective Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する
- ②討議に積極的に参加して考えを深める
- ③異なる文化、社会について理解する
- ④日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング：国のイメージ
- 第2回 学校生活
- 第3回 日本料理と食生活
- 第4回 しつけとマナー、人間関係
- 第5回 若者文化
- 第6回 年中行事
- 第7回 まんが（世界に発信する現代日本文化）
- 第8回 結婚と女性
- 第9回 住宅事情と住文化
- 第10回 宗教と信仰
- 第11回 労働観
- 第12回 社会保障制度
- 第13回 自殺
- 第14回 外国から見た現代日本
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

レポート（60%）及び 毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

自分の意見を分かりやすく伝えようと努力すること。相手の実情を理解しようとし、日本との違いはどこからくるのか考えを深めること。関連する項目について図書館等で資料を探して学習する習慣を身につけよう。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考書 適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日3限

選択日本事情B Elective Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、留学生と共に討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「ニュース」「日本社会」「異文化理解」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて考えることができる
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

学生自身がその時々々のニュースや話題になっている出来事から興味のある話題を取り上げて、紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。その背景や対策について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価の方法・基準

発表（40%）及び毎回のノート（30%）討論への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で複数の新聞を読む習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

金曜日3限

英語科目についての概要

中級英語について（選択科目：1年次以上）

総合英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1年次）については、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養だけでなく、英作文とプレゼンテーション技能の基礎的訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1年次）は、総合英語 A I / A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に4技能を訓練する。読解力については、ペンギン・リーダーズ(level 4)やオックスフォード・ブックワームズ(stage 5)などの国際的な読解レベルを目標としている。

総合英語 C I / C II（2年次）は、総合英語 A I / A II や B I / B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。さらに、上級英語（選択科目）や各学科の英語科目への橋渡しとなる科目でもある。なお、GPAの高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話、作文とプレゼンテーション。）

総合英語 B（読解を中心とする4技能。聴解、作文、プレゼンテーションなども行なうことがある。）

総合英語 C（総合英語 A、B を発展させた内容。三つのテーマからの選択制。）

3. 履修上の注意

- 1) 出席率が3分の2以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第11条2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず担当教員に事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

1. 目的および目標

総合英語 A、B と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。意欲的な学生に幅広く対応している。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、視聴覚授業、海外語学研修準備講座、等を随時展開している。外国人と日本人教師の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1) 同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を2コマなど）
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について（選択科目：2年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1) 履修する学生は、総合英語 A と B を履修していることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
 - 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
 - 3) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を2コマ、など）
 - 4) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
 - 5) TOEIC スコア（600点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。
- （注）大学院においても英語（ラックストーン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡をとること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton, Robert Long, Chris O' Sullivan,
Gareth Steele, Andrew Watt, Mason Lampert,
Andrew Gallacher, Huw Tyler, Akiko Kuriyama,
Michael Berg, Judith Johnson

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions (a few short essays to be submitted, with presentation)
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and in giving presentations.

4. 授業計画

- 1. Self-introductions.
- 2. Meeting new people.
- 3. Describing people.
- 4. Talking about family.
- 5. Talking about daily activities.
- 6. Frequency adverbs.
- 7. Talking about likes and dislikes.
- 8. Describing locations.
- 9. Giving directions.
- 10. Describing places.
- 11. Talking about past activities.
- 12. Talking about jobs.
- 13. Presenting yourself.
- 14. Review
- 15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00～16:00 火曜日 10:00～17:00)
虹林 慶（日本語対応） niji@dhs.kyutech.ac.jp (Room 313
General Education Building) 火曜日4限（14:30～16:00）

総合英語 A II Comprehensive English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long, Ian Ruxton, Chris O' Sullivan,
Gareth Steele, Andrew Watt, Mason Lampert,
Andrew Gallacher, Huw Tyler, Akiko Kuriyama,
Michael Berg, Judith Johnson

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions (a few short essays to be submitted, with presentation)
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and in giving presentations.

4. 授業計画

- 1. Getting information.
- 2. Making an invitation.
- 3. Talking about plans.
- 4. Making announcements.
- 5. Making predictions.
- 6. Asking about prices.
- 7. Shopping.
- 8. Talking about emotions.
- 9. Expressing opinions.
- 10. Following instructions.
- 11. Giving instructions.
- 12. Listening strategies.
- 13. Communication strategies.
- 14. Review
- 15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00～16:00 火曜日 10:00～17:00)
虹林 慶（日本語対応） niji@dhs.kyutech.ac.jp (Room 313
General Education Building) 火曜日4限（14:30～16:00）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを覚えるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
第2回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
第3回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
第4回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 III
第5回 新聞・雑誌の英語 I
第6回 新聞・雑誌の英語 II
第7回 新聞・雑誌の英語 III
第8回 新聞・雑誌の英語 IV
第9回 エッセイの英語 I
第10回 エッセイの英語 II
第11回 エッセイの英語 III
第12回 エッセイの英語 IV
第13回 プレゼンテーション I
第14回 プレゼンテーション II
第15回 総評

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 小レポート (40%) 期末レポート (30%)
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行う。十分な評価を得られなかった場合には、メイクアップをすること。
- ・自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・HP : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 7 Hydrogen Beer
3. “
4. 発表
5. Topic 14 Knowing Where You Stand
6. “
7. 発表
8. Topic 19 South Korean Moms Pray for Student Success (I)
9. Topic 20 South Korean Moms Pray for Student Success (II)
10. Topic 19, 20の続き
11. 発表
12. Topic 22 Okinawans
13. “
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 教科書・参考書

- 教科書：1. Snapshots of Life Today (朝日出版社)
ISBN : 4255153671
2. What Are Your Travel Plans (松柏社)
ISBN : 9784881986073

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
マテリアル（人間科学科目）
学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Animals are Moral Beings
2. Animals are Moral Beings
3. Obscenity and the Public Eye
4. Obscenity and the Public Eye
5. Pushing Free Trade
6. Pushing Free Trade
7. Lindows vs. Windows
8. Lindows vs. Windows
9. Female Students Dog-tired
10. Female Students Dog-tired
11. Dad's Lack of Parenting
12. Dad's Lack of Parenting
13. Stopping Spam
14. Stopping Spam
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long : Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido) ISBN: 479190544X
2. Practical Situations for the TOEIC Test Listening (Seibido) 830.7/Y-32

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）
上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
総合システム工学科・マテリアル工学科
学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。また、リスニングについては、英語でのコミュニケーションに必要な語彙だけでなく、コンテキストの理解を助ける教材を用いることで、実用的な力を身につけることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. George Orwell
3. Elisabeth Kubler-Ross
4. O. Henry
5. George Gissing
6. Ernest Hemingway
7. Rachel Carson
8. Review Test 1
9. William Wilkie Collins
10. Henry David Thoreau
11. William Somerset Maugham
12. Arthur Waley
13. Winston Churchill
14. Willaim James
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

- 教科書：『名文で養う英語精読力』（研究社）
ISBN：9784327421793
参考書：新版研究社英和辞典（辞書を持たない人に）
Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6/4
（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

さまざまな国内外の時事問題に関するやや長めの英文を精読することを中心とし、既習の文法や構文を復習していく。毎回、内容に関するいくつかの記述問題を課すとともに、音読やリスニングを行うことで、生きた「言葉」である英語の総合的なスキルアップを目指す。

2. キーワード

読解力、語彙力増強、時事英語

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/Unit 1: Mona Lisa-- A Mysterious Painting
2. Unit 1: Mona Lisa-- A Mysterious Painting
3. Unit 2: Giving Haitians a Picture of Health
4. Unit 3: The Asia Cup 2011
5. Unit 4: TOKIO and Dankichi
6. Unit 6: Free Energy
7. Unit 7: What's the Most Difficult Language?
8. Unit 8: 1000 Awesome Things
9. Unit 9: Triumph of Faith and Will
10. Unit11: The Young Volunteers
11. Unit12: Job-hunting System Needs Work
12. Unit13: Simple Writing Exercise & Erasing Anxiety
13. Unit14: A Happy Coexistence
14. Unit15: The Eiffel Tower
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Vision（三修社）

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：電気電子・応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

高校までに培ってきた英語の能力を維持し、かつさらに高めるため、様々なトピックの英文を経験することを第一目標とし、その書かれたものをいかに読み解くか、自己の知識・経験を基に考えることを次なる目標とする。

また、テキストで日本を客観的に読み解くことで、日本の社会的状況を理解し、それを表現する英語能力を獲得することも目指す。

2. キーワード

読解力、メディア・リテラシー、多文化理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。
- ・日本について、英語で表現する技能を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 Herbivorous Males
- 第3回 Chapter 2 Galapagized Japan
- 第4回 Chapter 4 Universities in Japan
- 第5回 Chapter 5 English as a Lingua Franca
- 第6回 Chapter 6 Disaster Spirit
- 第7回 Chapter 7 Immigrants Needed
- 第8回 Chapter 8 Manga
- 第9回 Chapter 9 Lacks of Entrepreneurs
- 第10回 Chapter 10 Fewer Japanese Students Studying Abroad
- 第11回 Chapter 12 Japanese Quality Food
- 第12回 Chapter 13 Craze Culture
- 第13回 Chapter 14 Monster Parents
- 第14回 Chapter 15 Good News Japan
- 第15回 定期試験

5. 評価の方法・基準

評点の満点を100%とし、その内授業での発言や活動を40%、定期試験を60%として評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必要とし、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合は出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：Good bye, Galapagos（CENGAGE Learning）

8. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレスはオリエンテーションで伝えます）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 江口 雅子

1. 概要

現代のアメリカにおける社会的事象や出来事を教材として取り上げ、21世紀においてアメリカ社会がどのように変遷をとげるのか、着眼していく。実用的なリーディング技能、リスニング技能を効果的に養い、さらに英文法力を十分に駆使し、英語の論文などを正確に読みこなす適確さを身につける。

2. キーワード

アメリカ社会理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング、リスニング、音読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Education: The Popularity of the Japanese language
3. Unit 2 Education: The Job Search for College Seniors
4. Unit 3 Entertainment: Visiting the Birthplace of Jazz
5. Unit 4 Entertainment: What Makes Hollywood Films Wonderful?
6. Unit 5 Society: Is Illegal Immigration a Problem?
7. Unit 6 Society: Gun Control: Two Opposing Sides
8. Unit 7 Business: Wall Street After 9/11
9. Unit 8 Business: The Future of the Auto Industry
10. Unit 9 Sports: Major League Dreams and Odds
11. Unit 10 Sports: F1 Racing Comes to America!
12. Unit 11 Environment: Environmental Champions Muir and Pinchot
13. Unit 12 Environment: Balancing Growth and Protectionism
14. Unit 13 Women's Movements: The Leadership of Female CEO's
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- アメリカの政治、経済産業、教育や社会全般について英字新聞を読んだり、英語のニュースを聞いたりすることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：American Dynamics（金星堂）
 参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。
 メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・総合システム工学科
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニング&クエスチョンも行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 発表と評価
- 第3回 発表と評価
- 第4回 発表と評価
- 第5回 発表と評価
- 第6回 発表と評価
- 第7回 発表と評価
- 第8回 発表と評価
- 第9回 発表と評価
- 第10回 発表と評価
- 第11回 発表と評価
- 第12回 発表と評価
- 第13回 発表と評価
- 第14回 発表と評価
- 第15回 総評

5. 評価の方法・基準

平常点（30%）発表（30%）期末試験（40%）
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。本文中の疑問点はオフィス・アワーを利用して解決しておく。
- 三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。
- 成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

- 辞書
- 授業で使用するプリントはHPに掲載するので、各自で確認し用意すること。

8. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- HP：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1 The Slippery Case of the Missing Butter
3. "
4. 発表
5. Topic 2 By Bike round Australia (I)
6. Topic 2 By Bike round Australia (II)
7. Topic 2まとめ
8. 発表
9. Topic 4 From Why Write?
10. "
11. 発表
12. Topic 8 Change of Heart (I)
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べること。

7. 教科書・参考書

- 教科書： 1. Snapshots of Life Today（朝日出版社）
ISBN：4255153671
2. Experience an English Program!（松柏社）
ISBN：4881985752

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown Up Yet?
4. Are We Grown Up Yet?
5. Systems is Washing Ph. D Brainpower
6. Systems is Washing Ph. D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long：Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido) ISBN: 479190544X
2. Practical Situations for the TOEIC Test Listening (Seibido) 830.7/Y-12

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。また、リスニングについては、英語でのコミュニケーションに必要な語彙だけでなく、コンテキストの理解を助ける教材を用いることで、実用的な力を身につけることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Kurt Vonnegut
3. Yoko Ogawa
4. Rachel Carson
5. Jared Diamond
6. Ian Buruma
7. Micheal Harrington
8. Bob Herbert
9. Review Test 1
10. Doug Atchison
11. Cynthia Ozick
12. Roy Richard Grinker
13. James Hogg
14. Virginia Woolf
15. Review Test 2
16. Reivew

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：WISH（研究社）ISBN：9784327421748

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日4限（14：30～16：00）（総合教育棟3階：S313）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

社会のさまざまな分野のトレンドに関する幅広いトピック英文を素材に、要点を把握しながら速読、速聴力を養成していく。同時に、それぞれのトピックに関連した内容についての TOEIC 形式のリスニングも行う。

2. キーワード

メディア英語、読解力、聴解力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/ Chapter 2：鉄ちゃんの聖地
2. Chapter 2：鉄ちゃんの聖地
3. Chapter 3：プロボノが社会を変える
4. Chapter 4：斜陽銭湯の活性化の秘策
5. Chapter 6：仏が手を貸す地域復活
6. Chapter 7：電子書籍時代の幕は開いたけれど
7. Chapter 8：育メンはトップから
8. Chapter 12：自販機大国の最新事情
9. Chapter 13：こんな所で昭和にタイムスリップ
10. Chapter 14：中小企業のキラリと光る新技術
11. Chapter 15：殿方も身をやつす
12. Chapter 20：ハイテクイレは日本の自慢
13. Chapter 21：産学官一体で殴り込む
14. Chapter 22：今や企業は英語が必須ツール
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Social Trends（三修社）

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：電気電子・応用化学（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 香子

1. 概要

変化を止めないアメリカ社会の実情を英文で読み、詳しく知ることで、自らが抱くイメージといかに当てはまり、いかに異なるかを考える。

書かれたものを読んで全体的に理解することが大事だが、一年次であるので英語の能力を落とさないように、基本的な文法などもチェックしていく。

2. キーワード

読解力・ディクテーション能力、現代アメリカ事情

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・社会情報を収集する能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Education: The Popularity of the Japanese Language
3. Unit 2 Education: The Job Search for College Seniors
4. Unit 4 Entertainment: What Makes Hollywood Films Wonderful?
5. Unit 5 Society: Is Illegal Immigration a Problem?
6. Unit 6 Society: Gun Control: Two Opposing Sides
7. Unit 7 Business: Wall Street After 9/11
8. Unit 8 Business: The Future of the Auto Industry
9. Unit 9 Sports: Major League Dreams and Odds
10. Unit 10 Sports: F1 Racing Comes to America!
11. Unit 12 Environment: Balancing Growth and Protection
12. Unit 13 Women's Movements: The Leadership of Female CES'S
13. Unit 14 Women's Movements: Today's Feminist Movement
14. Unit 15 Politics: The Rise of Neo-conservation
15. 定期テスト

5. 評価の方法・基準

評点の満点を100%とし、その内授業での発言や活動を40%、定期試験を60%として評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必要とし、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合は、出席とみなさない。
- ・現代アメリカについての理解を深めるために、観光案内書、テレビ、ビデオ、その他資料に触れておくことが望ましい。

7. 教科書・参考書

教科書：Amrican Dynamics（金星堂）

8. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレスはオリエンテーションの時に伝えます）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 江口 雅子

1. 概要

今日のアメリカが抱えている問題を取り上げ、いまのアメリカの真の姿を浮き彫りにする。リーディング技能、リスニング技能を効果的に養い、欧米的な論理展開を理解し、全体の流れをつかむことを目指す。前期同様、英文法力を充分に駆使し、英語の論文などを正確に読みこなす適確さを身につける。

2. キーワード

アメリカ社会理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング、リスニング、音読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Lesson 1 Laughing Matters
3. Lesson 2 A Spreading Problem
4. Lesson 3 Juneteenth
5. Lesson 4 Father's Day
6. Lesson 5 Watch Your Language
7. Lesson 6 A New York State of Mind
8. Lesson 7 Illegal
9. Lesson 8 Living with Animals
10. Lesson 9 Speaking of Facebook
11. Lesson 10 What Men Want
12. Lesson 11 Don't Shoot!
13. Lesson 12 Good Question
14. Lesson 13 Making the Grade
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験50%、活動参加・発表点50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・アメリカの政治、経済産業、教育や社会全般について英字新聞を読んだり、英語のニュースを聞いたりすることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：U.S.A. Update（南雲堂）

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとまった文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation (1)
- 第3回 Explanation (2)
- 第4回 Explanation (3)
- 第5回 Essay (1)
- 第6回 Essay (2)
- 第7回 Essay (3)
- 第8回 Critiques (1)
- 第9回 Critiques (2)
- 第10回 Critiques (3)
- 第11回 Projects (1)
- 第12回 Projects (2)
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- ・三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・自主学习として、図書館のJapan Times や、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 1. イントロダクション
- 2. Unit 1 My Club Activities
- 3. Unit 2 How Committed Are You to Learning English?
- 4. Unit 3 What Do You Want to Do with Your Life?
- 5. Unit 4 My Part-time Job
- 6. Unit 5 How Do You Keep Fit?
- 7. アウトライン発表会
- 8. スピーチ・コンテスト 予行演習
- 9. スピーチ・コンテスト
- 10. スピーチ・コンテスト
- 11. スピーチ・コンテスト
- 12. スピーチ・コンテスト
- 13. スピーチ・コンテスト
- 14. スピーチ・コンテスト
- 15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館のEnglish Journal等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書:Your First Speech and Presentation (南雲堂) 836.7/T-1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：共通教育棟 S408)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The March of the Microbes
3. Genetic Doping
4. Ethics in Science
5. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
6. World Population
7. After the Peak Oil Crash
8. Starvation, Famine and Hunger
9. Nanotechnology
10. Efficient Cars
11. Cyborgs
12. Identity Theft
13. Chaos Theory
14. Comets, Meteors and Asteroids
15. Space Stations and Outer Space Exploration

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。(私語、内職、携帯電話等は厳禁。)
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Bruce Allen: Imagining Tomorrow (Seibido)

8. オフィスアワー

木曜日4時限目（総合教育棟4階414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

ものごとについて考えることを促す英文に触れ、英語での思考がどのようなものか考え、英文理解についてもレベルアップを目指す授業である。

2. キーワード

異文化理解、エッセイ、批判的思考

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Garden of Eden
3. The Garden of Eden
4. The Top Hat
5. The Top Hat
6. The Myths
7. The Myths
8. Review Test 1
9. The Natural Philosophers
10. The Natural Philosophers
11. Conversion
12. Democritus & Fate
13. Democritus & Fate
14. Socrates
15. Socrates
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Sophie's World (研究社)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

ISBN：4327063126

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日4限（14：30～16：00）（総合教育棟3階：S313）

総合英語 C I (アドバンスト) Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

現代文化の諸問題について、英語で読み、聞き、話し、書く練習をなるべく多く行い、実践力を身につけることを目指す。

2. キーワード

ディスカッション、時事問題、批判的思考

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. American Supremacy
3. Art as a Joke
4. Fashion Statement
5. Fighting AIDS
6. Food Safety
7. Review Test 1
8. Global Control
9. Male Crisis
10. Marriage
11. National Stereotypes
12. Racist Superheroes
13. Small Planet
14. Test-tube Babies
15. Review Test 2

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Advanced (Macmillan)

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary(英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日4限(14:30~16:00)(総合教育棟3階:S313)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

イギリス生まれのRoald Dahl(1916-1990)の短編を読む。Dahlは、2005年に映画化された“Charlie and the Chocolate Factory”(Tim Burton監督、Jonny Depp主演)の原作者であり、学生には身近な作家と思われる。Dahlの冴えた描写力と、巧みな話しの展開を存分味わわせ、合わせて原書読解能力を向上させる。現代英語の標準的なもので書かれたDahlの短編作品を通じ、学生の異文化理解を促す。

2. キーワード

イギリス社会理解、リーディング、カルチュラル・リテラシー、描出話法

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション(作家Roald Dahlについて)
2. “Parson’s Pleasure”①
3. “Parson’s Pleasure”②
4. “Parson’s Pleasure”③
5. “Parson’s Pleasure”④
6. “Parson’s Pleasure”⑤
7. “Parson’s Pleasure”⑥
8. “Parson’s Pleasure”⑦
9. “Parson’s Pleasure”⑧
10. “Parson’s Pleasure”⑨
11. “Parson’s Pleasure”⑩
12. “Parson’s Pleasure”⑪
13. “Parson’s Pleasure”⑫
14. “Parson’s Pleasure”⑬
15. まとめ(作品のとらえ方を検討)

5. 評価の方法・基準

定期試験50%、活動参加・発表点50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 授業をきっかけに、Roald Dahlの他の作品も読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：ROALD DAHL PARSON’S PLEASURE ダール短篇集(成美堂)ISBN:4791900065

参考書：リーダース英和辞典(研究社)の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

我々の日常生活に結びついている経済について、お金にまつわる話を通して経済の動きやシステムを英語で学ぶ。日常の語彙だけでなく、ビジネス用語の使い方や表現練習も織り込み、総合的な英語力が身につくことを目標とする。

2. キーワード

日英比較 文化的基礎知識 経済用語の基礎知識 基本的文法力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter I: Money: The Basics I-1/I-2
3. I-3/I-4
4. Chapter II: The Value of Money Constantly Changes II-1/II-2
5. II-3/II-4
6. Chapter III: How companies Work III-1/III-2
7. III-3/III-4
8. III-5
9. Chapter IV: The State of the Economy IV-1/IV-2
10. IV-3/IV-4
11. Chapter V: Economic Systems V-1/V-2
12. V-3/V-4
13. V-5
14. 復習
15. プレテスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 (70%)

出席点 (10%)

受講態度 (20%) により総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：All About Money and the Economy (Asahi Press)

8. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語の使い方に慣れ、聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、学生の多様な興味に対応するため、「留学」「代替教育」「家族」「音楽」など日常的な話題をトピック別に編集してあるテキストを用いる。「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Studying abroad
3. Alternative education
4. Love around the world
5. Music and the mind
6. Think positive!
7. A career in fashion
8. The pressure to look good
9. Health and healing
10. Time for a vacation
11. Great explorers
12. Male and female roles
13. 多読に挑戦 (1)
14. 多読に挑戦 (2)
15. 期末試験

5. 評価の方法・基準

(1) 学期試験—60%

(2) 授業での小テスト—20%

(3) 授業での発表や提出物—20%

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

Craven, M. 著、Reading Keys, (New Edition) Book 2, Macmillan. ISBN: 9784777363285

その他、適宜プリントを配布する。

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CDを活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、英語耳を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Messenger of Hope
3. Unit 3 Left-hand Serenade
4. Unit 5 Support Across the Pacific
5. Unit 6 Switching Over
6. Unit 7 Micro Miracle Workers
7. Unit 8 Light Savers
8. Unit 9 Sushi Chefs Cast Abroad
9. Unit 10 Drawing in Sales
10. Unit 11 Thinking Outside the Box
11. Unit 12 Value Added Goods Plus Service
12. Unit 13 “Downshifting” on the Rise
13. Unit 14 Lipsmacking Innovation
14. Unit 15 Unearthing Unusual Ingredients
15. 期末テスト

5. 評価の方法・基準

評点の満点を100%とし、その内授業での発言や活動を40%、定期試験を60%として評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 6(金星堂)

8. オフィスアワー

授業時間前後

(連絡用メールアドレスはオリエンテーションで伝えます)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

現在の過剰な情報化社会を考慮し、必要な情報を正確かつ迅速に読み取る「速読」の技術を身につける。困難な時代を生きる若者への問題提起を含めたさまざまな文章を題材に、文法や構文の復習及びリスニングを行い、段階的に英語の総合的なスキルアップを目指す。

2. キーワード

語彙増強、読解力養成、速読技術

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/Chapter1 The Powerful Influence of Japanese Culture
2. Chapter 1 The Powerful Influence of Japanese Culture
3. Chapter 2 Revitalizing Japantown in San Francisco
4. Chapter 3 Disney's World
5. Chapter 4 The Ups and Downs of Life
6. Chapter 5 The Healing Power of Music
7. Chapter 6 The Healing Power of Nature
8. Chapter 7 Like Asking for the Moon
9. Chapter 8 Is Chaplin a Genius or a Hard Worker?
10. Chapter 9 Pioneers
11. Chapter10 Architects of the First Rank
12. Chapter11 Do Something Different from Others
13. Chapter12 Make the Best of the Situation
14. Chapter13 Merits and Demerits as Two sides of the Same Coin
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(30%)、小テスト(20%)、期末試験(50%)総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習・復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生(私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等)や予習の不十分な学生は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書(携帯電話の辞書機能使用は不可)を持参すること。
- ・NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書:People with Bright Prospects for the Future(三修社)

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

日々新しい研究結果がオンラインジャーナルや多数のジャーナルで発表されている現状において、将来自身の研究を進めていく際、また就職後もそれらを英語で読みこなしていなければならない。そのため、本授業では、インターネットや英字新聞など、さまざまなメディアの英語に触れ、訳読中心ではなく、英文だけで内容や意図などを捉えられるようになることを目標にする。毎時間単語テストを行い、語彙力を増やす。さらに、授業では速読ができるようにする。辞書を必ず持参すること。

2. キーワード

メディアイングリッシュ、リーディング、リスニング、速読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション・Chapter 1 10代はケータイがお好き
2. Chapter 2 鉄ちゃんの聖地
3. Chapter 4 斜陽銭湯の活性化の秘策
4. Chapter 5 フェアトレードで国際貢献
5. Chapter 7 電子書籍の幕は開いたけれど
6. Chapter 9 世界の中心はどこ？
7. Chapter 10 繊維を木材に変えた男
8. Chapter 12 自販機大国の最新事情
9. Chapter 13 こんな所で昭和にタイムスリップ
10. Chapter 14 中小企業のキラリと光る新技術
11. Chapter 16 健康も美容もハイテクで
12. Chapter 19 日本力を発信せよ
13. Chapter 20 ハイテクトイレは日本の自慢
14. Chapter 22 今や企業は英語が必須ツール
15. Chapter 23 サイボーグ昆虫のアレコレ・まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点することがある）。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Social Trends（三修社）

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 中村 幸子

1. 概要

リスニングを中心課題に据えた、ニュースの視聴覚教材を使います。ニュースはNHK衛星放送のNEWSLINEから採択されたもので、いずれも身近な問題が各章のテーマとなっています。リスニング問題、内容把握のための問題の他、シャドウイングにも力をいれます。語彙や熟語に関する小テストも行います。テキスト付属のDVDを使っての十分な予習が要求されます。

2. キーワード

聴解力 読解力、語彙力、表現力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- Unit 1 Messenger of Hope 震災からの復興を目指して
- Unit 2 Swim-assist Suits 楽に泳げる水着
- Unit 3 Left-hand Serenade 左手の曲に秘められた思い
- Unit 4 Picture Card Comeback 紙芝居ふたたび
- Unit 5 Support Across the Pacific 「がんばれ日本！」米国からのエール
- Unit 6 Switching Over ご当地電気自動車
- Unit 7 Micro Miracle Workers 納豆菌で水質浄化
- Unit 8 Light Savers 節電の切り札、LEDレンタル
- Unit 9 Sushi Chefs Cast Abroad すし職人、海外へ
- Unit 10 Drawing in Sales 広告マンガ人気
- Unit 11 Thinking Outside the Box アイディア枡で乗り切る
- Unit 12 Value Added Goods Plus Service 頼れる電気店
- Unit 13 “Downshifting” on the Rise 「スローライフ」の魅力
- Unit 14 Lipsmacking Innovation カップに付かない口紅
- Unit 15 Unearthing Unusual Ingredients 希少食材を求めて

5. 評価の方法・基準

原則として、期末テスト 60%、平常点 40%の総合点で評価し、総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 予習、課外学習
 1. 初回の講義より、教科書、辞書、ノート必携
 2. 十分な予習が必要
 3. ラジオ、TV、ネット上の学習サイトの積極的な活用を勧める
- 注意事項
 1. 全体の3分の2以上の出席数がないと、履修資格を失う。遅刻、早退は3回で欠席一回とみなす。
 2. 飲食（チューインガムも含む）、私語、居眠り（ひどい場合は出席扱いしない）、携帯の使用等を禁止する。

7. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 6-NHK BS English News Stories
：DVDで学ぶNHK衛星放送-日本を発信する6 (Kinseido)

8. オフィスアワー

講義時間前後

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の基本的な運用能力を高めるために色々な場面を想定して、聞く、話す、読む、書くという英語の総合能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Meeting people for the first time.
3. Joining the crowd.
4. I have a favor to ask.
5. You're drunk, Koji.
6. Do men touch each other here?
7. Are you married?
8. So, you want to know about guns?
9. He's cute!
10. What's a stepfather?
11. Many Americans sleep naked!
12. Party tips.
13. Do you sing the National Anthem?
14. Revision
15. Revision

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%), Class participation (33%), Final test (33%).

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Tell me why (Sanshusha)

8. オフィスアワー

授業時間 15分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

時事問題や異文化理解に関するエッセイを読みながら、総合的な英語力の向上を目指す。パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高める。また、各ユニットのテーマに関して、学生の皆さんの意見交換を行なう。適宜に各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションも行い、積極的な授業への参加を期待する。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. インTRODダクション
2. Unit 1: Are schools ready for English?
3. Unit 2: Japanese City's Desperate Cry Resonates Around the World.
4. Unit 4: Wedding gives monarchy, Britons new glow.
5. Unit 5: Villagers bumped aside in global land rush.
6. Unit 6: For women who work in Pakistan, a price to pay.
7. Unit 7: Novel based on late management guru Drucker resonates to the top.
8. Unit 8: Behind China's high test scores, rigid discipline.
9. Unit 11: 'Cheap' bread to cost billions in new Egypt.
10. Unit 13: A friend on Facebook, a problem for universities.
11. Unit 17: Keeping secrets in the age of WikiLeaks.
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ヴェニスの商人』一名場面より
13. 『ヴェニスの商人』のDVD観賞
14. プレゼンテーション①
15. プレゼンテーション②とまとめ

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度30%、プレゼンテーション及び課題20%、期末テスト50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の3分の2以上の出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回、辞書を持参すること。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求める。

7. 教科書・参考書

教科書：English through the News Media (2012年度版/朝日出版社)

8. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後に。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 斎藤 彩世

1. 概要

世界の文化について英語で書かれた楽しく、やや易しい文章を読むことで、「英語を読む」ことから「英語で読む」状態へと移行することを目指す。また、読むときには、単語のイメージを覚えることで日本語を通さなくても内容を想像できるようになること、新しい語彙を正しい使い方覚えることを目標にする。さらに、英語の音声を聞き、ディクテーションと内容把握の問題に取り組むことでリスニング力を向上させる。毎回短いライティングの練習も取り入れ、自分の考えていることをその日学んだフレーズで自由に表現できるようにする。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、リスニング、ライティング

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Beatles and Popular Music
3. Extreme Sports
4. Roller Coasters
5. Movies? Behind the Scenes
6. 小テスト
7. Sightseeing: Death Valley
8. Beer and Microbreweries
9. Overseas Jobs
10. Movie Reviews
11. 小テスト
12. Television
13. Photography
14. Carnival in Rio
15. Winter Olympics

5. 評価の方法・基準

小テスト、定期試験、授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- 積極的な授業への参加を求める。

7. 教科書・参考書

Video Magazine 1 (John S. Lander, 朝日出版社) ISBN : 9784255154336

8. オフィスアワー

授業時間終了後

メール：citizen_of_somewhere_else@yahoo.co.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

By reading English texts about Britain, to stimulate the curiosity of students and make them aware of inter-cultural issues and differences. This will assist them in future especially if they wish to study or find themselves working in the UK.

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role.
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework (essays and presentations), Tests

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

7. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse)

8. オフィスアワー

Mondays, 12.00 – 2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

To introduce to students the complexity of various social issues and to examine both sides of each issue. Further, to develop students' opinions and their ability to confidently argue their views.

4. 授業計画

1. Food - Conjecture
2. City Life - Skepticism
3. Culture - Comparison / contrast
4. Environment - Validity
5. Work - Explanation
6. Health - Criticism
7. Review / Exam
8. Family - Comparison / Contrast
9. Money - Explanation
10. Gender Issues - Inference
11. Personal Issues - Validity
12. Space - Criticism
13. World Issues - Skepticism
14. Review / Exam

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90% , Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Perceptia Press)

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00 long@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・

建設社会工学科・総合システム工学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとまった文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation (1)
- 第3回 Explanation (2)
- 第4回 Explanation (3)
- 第5回 Essay (1)
- 第6回 Essay (2)
- 第7回 Essay (3)
- 第8回 Critiques (1)
- 第9回 Critiques (2)
- 第10回 Critiques (3)
- 第11回 Projects (1)
- 第12回 Projects (2)
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・自主学习として、図書館のJapan Timesや、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」として「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 7 Smoking Should Be Banned in All Public Places
3. Unit 11 How can We Prevent Suicides?
4. Unit 14 Should the Age of Adulthood Be Lowered in Japan?
5. Unit 15 Should English Be Taught in Primary Schools?
6. Unit 16 Should We Let Children Use Cellphones?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館のEnglish Journal等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書: Your First Speech and Presentation (南雲堂) 836.7/T-1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室: 共通教育棟 S408)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Apollo Rocket Part II
3. Apollo Rocket Part II
4. Global Warming
5. Global Warming
6. Aurora and the Magnetosphere
7. Aurora and the Magnetosphere
8. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
9. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
10. Solar Cells
11. Solar Cells
12. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
13. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
14. Laboratory Instruments
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目(総合教育棟 4 階 414) 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語C II (アドバンスト)
Comprehensive English C II (Advanced)

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)
学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking(批判的思考)能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に7割程度、またその延長線上にある presentation に3割程度の時間を当てる。

4. 社会ニュース
5. 科学ニュース
6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験・・・20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・60%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：Gillian Flaherty, For and Against (Seibido)
またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日4限目(総合教育棟4階414)
上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科
学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解(構造理解、語彙、文化的な背景)とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Millie (1)
3. Millie (2)
4. Her First Ball (1)
5. Her First Ball (2)
6. Men and Women (1)
7. Men and Women (2)
8. Review
9. Mr Sing My Heart's Delight (1)
10. Mr Sing My Heart's Delight (2)
11. Death Wish (1)
12. Death Wish (2)
13. Cooking the Books (1)
14. Cooking the Books (2)
15. The Stolen Body (1)
16. The Stolen Body (2)

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Mark Furr, Bookworms Club: Diamond (Oxford)
ISBN: 9780194720083

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)
Oxford Advanced Learner's Dictionary(英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日4限(14:30~16:00)(総合教育棟3階:S313)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

イギリス生まれの Roald Dahl (1916-1990) の短編を読む。Dahl は、2005 年に映画化された “Charlie and the Chocolate Factory” (Tim Burton 監督、Jonny Depp 主演) の原作者であり、学生には身近な作家と思われる。Dahl の冴えた描写力と、巧妙な話しの展開を存分味わわせ、合わせて原書読解能力を向上させる。現代英語の標準的なもので書かれた Dahl の短編作品を通じ、学生の異文化理解を促す。

2. キーワード

アメリカ社会理解、リーディング、カルチュラル・リテラシー、描出語法

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（作家 Roald Dahl について）
2. “Pig” ①
3. “Pig” ②
4. “Pig” ③
5. “Pig” ④
6. “Pig” ⑤
7. “Pig” ⑥
8. “Pig” ⑦
9. “Pig” ⑧
10. “Pig” ⑨
11. “Pig” ⑩
12. “Pig” ⑪
13. “Pig” ⑫
14. “Pig” ⑬
15. まとめ（作品のとらえ方を検討）

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、活動参加・発表点 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 授業をきっかけに、Roald Dahl の他の作品も読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Roald Dahl Short Stories from Kiss Kiss
ガール短篇作品選（松柏社）

参考書：リーダース英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。Longman Dictionary of English Language and Culture ISBN: 0582086760 (:pbk) (文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き)

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

自然科学、理工学系に関する英文を読み、その内容把握を問う問題をすることにより、読解力を向上させることを目標とする。日常生活と密接な関係にある科学技術の話題や自然科学分野の基本的事項についても学ぶ。

2. キーワード

日英比較 科学英語 文化的基礎知識 読解力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

01. オリエンテーション
02. Time Travel : Energy and Electricity
03. The Less You Sleep, the More You Gain
04. Stem Cell Plan for Nuclear Operators
05. Internet Addiction
06. Electric Motors and Generators
07. Bilingualism
08. A One-Way Human Mission to Mars
09. Elasticity and Strength
10. World's Sixth Mass Extinction under Way
11. Prim Numbers, Composite Numbers
12. First Europeans Did Not Rely on Fire
13. Genetic Engineering
14. Tagging White Sharks
15. 期末試験

5. 評価の方法・基準

期末試験 (70%)

出席点 (10%)

受講態度 (20%) により総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Step into the World of Science (Asahi Press)

8. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようにすることを目標とする。内容については、学生の興味に対応するため、特に「人と自然」に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. A real winner (1)
3. A real winner (2)
4. Zoo dentists (1)
5. Zoo dentists (2)
6. Solar cooking (1)
7. Solar cooking (2)
8. Bird girl (1)
8. Bird girl (2)
10. Beagle patrol (1)
11. Beagle patrol (2)
12. Polar bears in trouble (1)
13. Polar bears in trouble (2)
14. 多読に挑戦
15. 定期試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表や提出物—20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：Snapshots from the Globe, HEINLE.

その他、適宜プリントを配布する。

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

カンヌ国際広告祭を受賞したコマーシャルを元に、生活に密着した英語を聞く耳を育てる。また、その背景を英文で読み、全体像を理解することで、日本の文化と他の国の文化の違いに気づく能力、自らの研究分野や広くは人生に役立てる応用力を培い、個々人の考えを広め、深めてゆく。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 1 Meijer- Higher Standard, Lower Prices
3. 3 Anti-Discrimination Campaign
4. 4 McDonald's - King of Fast-Food Restaurants
5. 5 Relax, it's FedEx
6. 6 BMW - A Car beyond Reason
7. 7 Banking for the Filthy Rich
8. 8 Learning Languages
9. 9 Pepsi - Ask for More
10. 10 United Nations Development Programme
11. 11 Disney - Magic Happens
12. 12 Coca-Cola - For Everyone
13. 13 Anti-Smoking Campaign
14. 14 Counterfeit Mini Coopers
15. 定期テスト

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100%とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60%として評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：English in 30 Seconds (南雲堂) ISBN:9784523176183

8. オフィスアワー

授業時間前後

(連絡用メールアドレスはオリエンテーションの時に伝えます)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

随筆、会話、案内文、広告文、小説、詩、論文等のさまざまな文体で書かれた英語に触れ、それに慣れ、使いこなすことを目的とする。同時に、文法力、聴解力のドリルも行い、着実に英語運用能力の養成を目指す。

2. キーワード

多様な英語、読解力、コロケーション

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction / Fashion
2. Fashion
3. More to Communication than Just words
4. Slang
5. Crossing Borders: The Food We Eat
6. Music: Hip Hop History
7. World Heritage
8. Soccer in Italy: Is it just a Sport?
9. New York, Cairo and Tokyo
10. Eco: An Inconvenience?
11. Study Abroad: Enjoy Other Languages and Cultures
12. A Guided Tour in New York . . . Now
13. Volunteering: A Very Special 15-year-Old Girl
14. Health: Work Related Stress
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 予習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点や除名の対象となることがある。
- 毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Learn More English, Learn More Styles（三修社）

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

将来、専門の分野に進んだ際、研究に関連した論文、またインターネットで関連する分野の雑誌記事を探すことが必要になってくる。日本語で全て行えるに越したことはないが、最新の論文などはどうしても英語で読む必要が出てくる。そういった現状を踏まえて、授業では理工系英語のリーディングを重点的にを行い、必要となる情報を英語で確実に見つけ出していく練習をする。各ユニットで専門に扱っている内容が異なるため、学生の興味に合う分野を扱うが、専門分野以外の内容にも触れ、幅広く知識を増やしていくようにしてほしい。毎時間単語テストを行い、語彙の定着を図る。また、速読ができるようになることを目標とする。

2. キーワード

科学英語、リスニング、リーディング、速読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション・Chapter 1 Early Life on Earth
2. Chapter 2 Why Did Dinosaurs Become Extinct?
3. Chapter 3 Red List and Cloning
4. Chapter 4 The End of Civilization
5. Chapter 5 Sex Change
6. Chapter 6 Invasive Species
7. Chapter 7 Animals and Magnetism
8. Chapter 8 Man's Best Friend
9. Chapter 9 Prions
10. Chapter 10 Autism
11. Chapter 11 Blood Transfusion
12. Chapter 12 Tackling Pandemics
13. Chapter 13 Fresh Water Crisis
14. Chapter 14 Ecotourism
15. Chapter 15 Natural Disasters・まとめ（学生の興味によって扱うチャプターを変更する場合があります）

5. 評価の方法・基準

原則として、定期試験50%、授業点50%、総合評価で60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点することがある）。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Views（成美堂）

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 中村 幸子

1. 概要

英文を読む力を伸ばすことを中心課題とします。5名のネイティブ・スピーカーによって書き下ろされた様々なジャンルの文章を読んでいます。各章ごとに重要な語彙の確認、本文の音読、内容確認のための問題等を行います。

十分な予習が要求されます。語彙に関する小テストも行います。

自習用音声は、テキスト内に表示された URL からダウンロードできます。

2. キーワード

読解力、語彙力聴解力

3. 到達目標

- ・英語の基礎能力を身につける。
- ・生の英語素材に慣れる。
- ・多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- Unit 1 Are You Ready for a pet?
- Unit 2 Gap Year
- Unit 3 What Is Wealth?
- Unit 4 Globalization
- Unit 5 What I Learned in College
- Unit 6 How Paper Is Recycled
- Unit 7 Where Do Our Students Come From?
- Unit 8 From 'Snail Mail' to PDAs in Just Twenty Years
- Unit 9 Rules for Success
- Unit 10 Three Ways to Build a More International Company
- Unit 11 A Suitable Hotel
- Unit 12 Another Earth?
- Unit 13 An Interview with New Student Union President
Sarah Kyle
- Unit 14 Modern Writing: Be Brief!
- Unit 15 Control Board Hears Local Concerns

5. 評価の方法・基準

原則として、期末テスト 60%、平常点 40%の総合点で評価し、総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・予習、課外学習
 1. 初回の講義より、教科書、辞書、ノート必携
 2. 十分な予習が必要
 3. ラジオ、TV、ネット上の学習サイトの積極的な活用を勧める。
- ・注意事項
 1. 全体の 3分の2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。遅刻、早退は 3回で欠席 1回とみなす。
 2. 飲食（チューインガムも含む）、私語、居眠り（ひどい場合は出席扱いしない）、携帯の使用等を禁止する。

7. 教科書・参考書

教科書：Reading Stream: Pre-intermediate
英語リーディングへの道：準中級編（Kinseido）

8. オフィスアワー

講義時間前後

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：The UK and the USA (Compare and Contrast)（南雲堂）830/O-10

8. オフィスアワー

授業時間 15分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

さまざまなジャンルのさまざまなトピックの読み物を通して各ジャンル特有の語彙をはじめ総合的な英語力の向上を目指す。精読から単語、熟語、文法事項の再確認をする。また、パラグラフ・リーディングと共に多読による速読のスキルを身に付ける。プレゼンテーションをする機会を設けることで、分かりやすいハンドアウトの作り方や発表の仕方を学ぶ。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、多読、異文化及び時事問題の理解、プレゼンテーションの仕方

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 2: Slavery.
3. Unit 3: Nuclear Power.
4. Unit 4: Mold.
5. Unit 6: Living Wills.
6. Unit 7: Green Technology.
7. Unit 8: Genetically Modified Food.
8. Unit 9: Gated Communities.
9. Unit 10: Garbage.
10. Unit 12: Chocolate.
11. Unit 13: Surrogate Mothers.
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ハムレット』－名場面より
13. 『ハムレット』のDVD観賞
14. プレゼンテーション①
15. プレゼンテーション②及びまとめ

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。
- 授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回、辞書を持参すること。
- 毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求める。

7. 教科書・参考書

教科書：Current Issues and Topics（大阪教育図書）ISBN：9784271113164

8. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後に。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 斎藤 彩世

1. 概要

アメリカの文化について英語で書かれた楽しく、やや易しい文章を読むことで、「英語を読む」ことから「英語で読む」状態へと移行することを目指す。また、読むときには、単語のイメージを覚えることで日本語を通さなくても内容を想像できるようになること、新しい語彙を正しい使い方で覚えることを目標にする。さらに、英語の音声を聞き、内容把握の問題に取り組むことでリスニング力を向上させる。毎回短いライティングの練習も取り入れ、自分の考えていることをその日学んだフレーズで自由に表現できるようにする。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、リスニング、ライティング

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. American Food and Wine
3. Baseball
4. The World of Disney
5. Hollywood, California
6. 小テスト
7. The Statue of Liberty
8. The Melting Pot
9. Jazz, Gospel, Blues and Rock&Roll
10. The Rodeo
11. 小テスト
12. Cars and Planes
13. Universal Education
14. Native American Indians
15. Thomas Edison

5. 評価の方法・基準

小テスト、定期試験、授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- 積極的な授業への参加を求める。

7. 教科書・参考書

American Dream (John S. Lander, 朝日出版社) ISBN:4255153205

8. オフィスアワー

授業時間終了後

メール：citizen_of_somewhere_else@yahoo.co.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

By reading English texts about Britain, to stimulate the curiosity of students and make them aware of inter-cultural issues and differences. This will assist them in future especially if they wish to study or find themselves working in the UK.

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test 16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework (essays and presentations), Tests

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

7. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse)

8. オフィスアワー

Mondays, 12.00 – 2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

To introduce to students the complexity of various social issues and to examine both sides of each issue. Further, to develop students' opinions and their ability to confidently argue their views. Students will be expected to post their views on various Internet forums.

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90% , Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press)

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 – 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 – 5 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科(コース) : 全学科

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- 1) 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。
- 2) 主体的な英語学習の態度を育成する。

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points: a) prepare thoroughly for class b) do writing exercises on your own

60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等 3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う
(工学部学修細則第 11 条 2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.
Research topics using the internet.

7. 教科書・参考書

教科書 : Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科(コース) : 全学科(人間科学科目)

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- Week 1 Explaining Japanese Sports and clubs
- Week 2 Explaining Japanese Music
- Week 3 Explaining Japanese Food
- Week 4 Explaining Japanese Handicrafts
- Week 5 Explaining Japanese Holidays
- Week 6 Explaining Japanese Games
- Week 7 Explaining Japanese Cities and Places
- Week 8 Explaining Japanese Relaxation Practices
- Week 9 Explaining Famous Japanese People
- Week 10 Explaining Japanese Superstitions
- Week 11 Explaining Japanese Animations
- Week 12 Explaining Japanese Arts and Theater
- Week 13 Explaining Japanese Etiquette and Customs
- Week 14 Explaining Japanese Buildings and Gardens
- Week 15 Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90% , Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.
Robert Long. Perceptia Press, Nagoya.

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 - 4 : 00

Tuesday : 12 : 00 - 4 : 00

中級英語Ⅰ Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、スピーチの実践を中心に、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Chapter 1 Herbivorous Males
3. Chapter 2 Galapagized Japan
4. Chapter 3 Uniformity
5. Chapter 4 Universities in Japan
6. Chapter 5 English as a Lingua Franca
7. Chapter 6 Disaster Spirit
8. Chapter 7 Immigrants Needed
9. Chapter 8 Manga
10. Chapter 9 Lack of Entrepreneurs
11. アウトライン発表会
12. スピーチ・コンテスト予行演習
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Good-bye, Galapagos: Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ・ラーニング)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport11. A star is born... or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Exam 16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points: a) prepare thoroughly for class b) do writing exercises on your own 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library. Research topics using the internet.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality/quantity/size/shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

	Topic 1	Topic 2	Topic 3
1	Subdisciplines	Areas of Interest	Problems/solutions
2	Gas turbines	Surveying	Euclidean trans.
3	Heat transfer	Distillation	Signal processing
4	Polymers/plastics	Refrigeration	Solar energy
5	Transformers	Lasers	Combustion engine
6	Corrosion	Soil erosion	Bridges
7	Urban design	Pneumatics	Seismic engineering
8	Elect.resistance	Structural design	Process control
9	Image processing	River channel	Electromagnetism
10	Control theory	Conservation-mass	Law-Thermodynamics
11	High Definition	TV Water purification	Hydraulic engineering
12	Environmental	Tunnels	Highways
13	Electric lights	Artificial intell.	Maglev trains
14	Metals	Ceramics	Plastics
15	Review	Review	Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering Robert Long. Lulu Press. 507.7/L-3

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 - 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

上級英語AⅠ Advanced English AⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar The focus is on topics concerning Japanese culture.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- 発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Crazy Fashions the Norm Paired Interviews
2. Marriage Under the Microscope Consultations
3. Wireless Japan Debates
4. My Grandfather's Binbogami Group Work
5. Review Review
6. E-Commerce Surveying
7. Rap and Hip-Hop Music Paired Interviews
8. Review Review
9. Children: A Different Breed Consultations
10. Competitive Sports Debates
11. Women Managers Group Work
12. Social Activists Surveying
13. Review
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN 1 -411 6-28039

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students better express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. More emphasis is on longer and more developed ideas. Fluency is improved with students having well-developed paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning cultural themes from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1.	Family	Focus on questions and answers
2.	Beauty	Focus on assertions and disclaimers
3.	Education	Focus on comments and reflections
4.	Expertise	Focus on comparisons and suggestions
5.	Individualism	Focus on observations and criticisms
6.	Entertainment	Focus on preferences and recommendations
7.	Review and exam	
8.	Exam	
9.	Oligation	Focus on explanations and excuses
10.	Sports	Focus on comparison and complaint
11.	Power	Focus on claoms and conjunctures
12.	Dependence	Focus on descriptions and testimonies
13.	Discipline	Focus choices and judgments
13.	Internet Forum	Practice: All speech acts
14.	Review	
15.	Exam	

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 80% Exams 20% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Culture Compass, by Robert Long. Lulu Press. ISBN 978-1-4116-4484-7

8. オフィスアワー

Monday 1:00 - 4:00

Tuesday 1:00 - 4:00

上級英語 B I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科

学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の3点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 英文読解
- 第3回 議論・発表
- 第4回 英文読解
- 第5回 議論・発表
- 第6回 英文読解
- 第7回 議論・発表
- 第8回 英文読解
- 第9回 議論・発表
- 第10回 英文読解
- 第11回 議論・発表
- 第12回 英文読解
- 第13回 議論・発表
- 第14回 英文読解
- 第15回 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

辞書を持参すること。

授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する

8. オフィスアワー

・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

・研究室：総合教育棟 410

・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に向上させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking（批判的思考）能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

4. 社会ニュース
5. 科学ニュース
6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験・・・20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・60%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の 3 点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- 第 1 回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第 2 回 英文読解
- 第 3 回 議論・発表
- 第 4 回 英文読解
- 第 5 回 議論・発表
- 第 6 回 英文読解
- 第 7 回 議論・発表
- 第 8 回 英文読解
- 第 9 回 議論・発表
- 第 10 回 英文読解
- 第 11 回 議論・発表
- 第 12 回 英文読解
- 第 13 回 議論・発表
- 第 14 回 英文読解
- 第 15 回 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70%） 期末課題（30%）
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する
 辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

上級英語 B II Advanced English B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：1単位
 担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語のコミュニケーション能力全般のさらなる向上を目指す
 が、とりわけスピーキング力の向上に力を入れる。この授業を受
 講する学生は、日常会話だけでなく、自分の意見を英語で表現す
 ることが求められる。授業の最後には、スピーチ・コンテストを
 行なう。この授業を、海外でのコミュニケーションや国際会議で
 の発表に役立てて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、パラグラフ・リーディング、国際性

3. 到達目標

- 必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- 発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit03 The Sushi Police
3. Unit04 Fashion&Trends
4. Unit06 Tipping
5. Unit09 Drunks
6. Unit10 Career Women
7. Unit11 Family Budget
8. Unit13 NEETs
9. Unit14 Cram Schools
10. Unit15 Cellphone Use by Minors
11. Unit17 Part-time Jobs
12. Unit18 Choosing Your Careers
13. Unit21 School Lunches
14. スピーチ・コンテスト予行演習
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評
 価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

Viewpoints 英語で自分の意見を言ってみよう(三修社)
 ISBN：9784384333916

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。
 (研究室：総合教育棟 S408)

上級英語 C I Advanced English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：3・4年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' efforts
 in class will be evaluated by weekly assignments and
 presentations. Extra credit can be earned through writing
 presentations and by Internet forum postings. The syllabus
 provides a series of social topics for students.

2. キーワード

Communication, debate, critical thinking

3. 到達目標

- 必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- 発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. How do you make a good first impression
2. What makes food taste good?
3. What does it take to be successful?
4. Discussion and fluency review
5. How has technology affected your life?
6. Why do people help each other?
7. Does advertising help or harm us?
8. Discussion and fluency review
9. Why do people take risks
10. How can we make cities better places to live?
11. How can a small amount of money make a big difference?
12. Do people communicate better now than in the past?
13. Discussion and fluency review
14. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格と
 する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図
 書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業
 中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Q: Skills for Success: Reading and Writing (Oxford)

8. オフィスアワー

Monday：1：00－4：00
 Tuesday：10：00－5：00
 long@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 C II Advanced English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：3・4年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- 必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- 発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Peace around the World
3. Click Here!
4. What's in the News?
5. Heroes and Villains
6. Review Test 1
7. Family Matters
8. Let's Change the Subject!
9. Adventures in Science
10. Extend Reading 2
11. The Company We Keep
12. Stressed Out!
13. Shock Tactics
14. Extend Reading 3
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Quick Smart English Advanced (Macmillan)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日4限（14：30～16：00）

（総合教育棟3階：S313）

技術英語 I Technical English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- 技術用語を英語で身につける
- 発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Corrosion	L.A. network	Fluid Mechanics	Struct.	Analysis Elect. Resistance
2. Bonding	P-to-P Network	Mechatronics	Seismic Eng.	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams Elect.	Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Net.	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Opt.	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews / Exams				
7. Absorption	Software Eng.	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical chem.	Computer Arch.	Drafting	Fire Protection	Voltage
9. Catalysis	Operating systems	Piping	Geotechnical Eng.	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals/Fitting	Transport Eng.	Microelectronics
11. Chemical reactors	Artificial Intell.	Values	Environmental Eng.	Signal Processing
12. Reviews / Presentations				
13. Reviews / Presentations				
14. Reviews / Presentations				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen, Perceptia Press

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 - 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp

技術英語Ⅱ Technical English II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and writing assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Thermodynamics	Program Paradigm	Aerospace eng.	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	Triodes
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Erosion	Emissions
5. Biochemical Eng.	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Manage.	Hi.-Def. TV
6. Reviews / Exams				
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage	Transmission
10. Polymers	Theories-computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse engineering	Refrigeration	Hazardous Waste	PLC
12. Review				
13. Review				
14. Exam				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Lulu Press 507.7/L-2/2

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 - 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

外国系科目（初修外国語）

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達的手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母(国)語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることに寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれをを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、とすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知ることが、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語AⅡ」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目（各一単位）が選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

入学時の4月に「基礎ドイツ語AⅠ」又は「基礎中国語AⅠ」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更できない。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語AⅠ」（1年前期）、「基礎ドイツ語AⅡ」（1年後期）の2科目が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語AⅠ」（1年前期）、「基礎中国語AⅡ」（1年後期）の2科目が必修となる。

2年次に3科目目を履修する場合、ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」のうち1科目を履修しなければならない。また、中国語を選んだ学生は「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」のうち1科目を履修しなければならない。「基礎ドイツ語B」と「基礎中国語B」はクラス指定になっているので、それぞれ指定のクラスで履修する。「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」、「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」はどのクラスを受講することも可能だが、履修希望者が多い場合は履修を制限する場合がある。また、年度によっては開講されない場合もある。

2年次終了時までに「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」または「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」のどの単位も修得できなかった場合は、3年次以降、学生便覧の別表第1「人間科学科目履修課程表 1.(1)人間科学基礎科目」の備考欄に*印が記載されている外国語科目のうちからどの科目を履修してもよい。

中国語の履修を希望する学生は、第1回目の「基礎中国語AⅠ」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

- 発音、挨拶表現
- 動詞の現在人称変化（1）
- 冠詞と名詞の性と格
- 複数形
- 冠詞類、人称代名詞
- 動詞の現在人称変化（2）、命令形
- 前置詞、従属の接続詞
- 複合動詞、再帰、非人称の主語 es
- 話法の助動詞、未来形
- 動詞の3基本形、過去人称変化
- 完了形
- 形容詞
- 指示代名詞、関係代名詞
- 受動態、zu不定詞、分詞
- 接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

平川要ほか著「改訂版・やさしいドイツ語－総合教材」(同学社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方—分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記（1）導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。
 参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
 単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置づけ

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

{0} 発音 Stufe 1

{1} 動詞の現在人称変化（1）／たずね方／2人称のSieとdu
 発音 Stufe 2

{2} 名詞の性と冠詞／seinとhaben／Ihrとmein／定形第2位
 ／否定の語nicht

{3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／
 名詞の複数形／否定冠詞kein

{4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

[教科書] 在問進：話すぞドイツ語 V2（朝日出版社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
 単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

- 発音
- 動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置
- 名詞と定冠詞
- 動詞の現在（2 sein/haben）
- 動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法
- 不定冠詞と冠詞類
- 名詞の複数形・男性弱変化名詞
- 人称代名詞・疑問詞
- 前置詞
- 接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置づけ

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- | | | |
|-----------|---------------|------------|
| 第1回～第2回 | つづり字の読み方と発音 | 挨拶をする |
| 第3回～第4回 | 動詞の人称変化、文の作り方 | 知り合いになる |
| 第5回～第6回 | 文法上の性と格 | 食べ物の注文をする |
| 第7回～第8回 | 冠詞類 | 買い物の相談をする |
| 第9回～第10回 | 不規則変化動詞、命令形 | 食事の相談をする |
| 第11回～第12回 | 前置詞の格支配 | どこに行くか尋ねる |
| 第13回～第14回 | 複数形 | 市場で果物などをかう |
| 第15回 | 前期のまとめ | |

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

[教科書]「新生ドイツ文法」V6 在間進 朝日出版社

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A Iの授業では、上記の(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

- 自己紹介・アルファベット・発音
- 動詞の現在（1）・定動詞の位置
- 名詞の性・定冠詞（類）
- 動詞の現在（2）・重要な3つの動詞
- 動詞の現在（3）・命令形
- 不定冠詞（類）
- 複数形・男性弱変化・非人称主語
- 人称代名詞・疑問詞
- 前置詞
- 接続詞・分離動詞
- 動詞の3基本形・過去完了形
- 話法の助動詞・未来形
- 形容詞・比較
- zu 不定詞・分詞
- 受動態・再帰動詞
- 関係詞・接続法

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小阪清行他：新緑のドイツ語（第三書房）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

- 発音
- 動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置
- 名詞と定冠詞
- 動詞の現在（2 sein/haben）
- 動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法
- 不定冠詞と冠詞類
- 名詞の複数形・男性弱変化名詞
- 人称代名詞・疑問詞
- 前置詞
- 接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

自己紹介・アルファベット・発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞の性・定冠詞（類）

動詞の現在（2）・重要な3つの動詞

動詞の現在（3）・命令形

不定冠詞（類）

複数形・男性弱変化・非人称主語

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

完了形

話法の助動詞・未来形

形容詞・比較

zu 不定詞・分詞

受動態・再帰動詞

関係詞・接続法

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本的に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小阪清行他：新緑のドイツ語（第三書房）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

話法の助動詞、未来形

動詞の3基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

平川要ほか著「改訂版・やさしいドイツ語－総合教材」(同学社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回）。

- 発音、挨拶表現
- 動詞の現在人称変化（1）
- 冠詞と名詞の性と格
- 複数形
- 冠詞類、人称代名詞
- 動詞の現在人称変化（2）、命令形
- 前置詞、従属の接続詞
- 複合動詞、再帰、非人称の主語 es
- 話法の助動詞、未来形
- 動詞の3基本形、過去人称変化
- 完了形
- 形容詞
- 指示代名詞、関係代名詞
- 受動態、zu不定詞、分詞
- 接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

平川要ほか著「改訂版・やさしいドイツ語－総合教材」(同学社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A IIの授業では、上記（2）、（3）の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：前期と同じものを使用する。
 参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
 単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の3基本形・過去
 現在完了・過去完了
 話法の助動詞・未来
 形容詞の格変化・名詞化
 zu 不定詞・man
 比較
 再帰動詞・非人称動詞
 受動・分詞
 関係詞・指示代名詞
 接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置づけ

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- {5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化
- {6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化
- {7} 話法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）
- {8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞
- {9} 現在完了／話法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含まないドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

[教科書] 在問進：話すぞドイツ語V2（朝日出版社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

- 動詞の3基本形・過去
- 現在完了・過去完了
- 話法の助動詞・未来
- 形容詞の格変化・名詞化
- zu不定詞・man
- 比較
- 再帰動詞・非人称動詞
- 受動・分詞
- 関係詞・指示代名詞
- 接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置づけ

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回～第2回 形容詞の格変化、人称代名詞 空腹などを訴える
- 第3回～第4回 話法の助動詞、未来形 外出に誘う
- 第5回～第6回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞 駅で列車の出発時刻などを尋ねる
- 第7回～第8回 ZU不定詞 相談にのってくれるように頼む 比較表現 物事を比べる
- 第9回～第10回 三基本形、過去人称変化、接続詞 ぶつぶつ文句を言う
- 第11回～第12回 現在完了形、過去完了形 何をしたかを尋ねる
- 第13回～第14回 受動形 招待される 関係文 休暇の計画を立てる
- 第15回 後期のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いきれぬまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕「新生ドイツ文法」V6 在間進 朝日出版社

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記（2）、（3）の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：前期と同じものを使用する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取り入れながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

語法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回）。

- 自己紹介・アルファベット・発音
- 動詞の現在（1）・定動詞の位置
- 名詞の性・定冠詞（類）
- 動詞の現在（2）・重要な3つの動詞
- 動詞の現在（3）・命令形
- 不定冠詞（類）
- 複数形・男性弱変化・非人称主語
- 人称代名詞・疑問詞
- 前置詞
- 接続詞・分離動詞
- 動詞の3基本形・過去完了形
- 話法の助動詞・未来形
- 形容詞・比較
- zu 不定詞・分詞
- 受動態・再帰動詞
- 関係詞・接続法

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小阪清行他：新緑のドイツ語（第三書房）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

- 動詞の3基本形・過去
- 現在完了・過去完了
- 話法の助動詞・未来
- 形容詞の格変化・名詞化
- zu 不定詞・man
- 比較
- 再帰動詞・非人称動詞
- 受動・分詞
- 関係詞・指示代名詞
- 接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回）。

自己紹介・アルファベット・発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞の性・定冠詞（類）

動詞の現在（2）・重要な3つの動詞

動詞の現在（3）・命令形

不定冠詞（類）

複数形・男性弱変化・非人称主語

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

完了形

話法の助動詞・未来形

形容詞・比較

zu 不定詞・分詞

受動態・再帰動詞

関係詞・接続法

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本的に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小阪清行他：新緑のドイツ語（第三書房）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

話法の助動詞、未来形

動詞の3基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

平川要ほか著「改訂版・やさしいドイツ語－総合教材」(同学社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語・会話・ロールプレー・異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)

第2回 あいさつ

CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。

第3週 発音・アルファベット

ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。

正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)

第4回 自己紹介

自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。

第5回 趣味と仕事

自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)

第6回 お買い物1

買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。

冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。

第7回 お買い物2

roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。

(市場、専門店、セール、環境問題)

第8回 中間まとめ

第9回 食生活

食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。

第10回 私の家族

自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。

第11回 願いがあります

困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。

話し方のマナーや注意点について説明する。

第12回 旅行

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分です。恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書 ドイツ語インフォメーション neu 2 教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

授業終了直後

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回		総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】「グレードアップドイツ語 一新訂増補版」(Deutsch Deutsche Deutschland)

【著者名】橋本政義 他 著

【出版社】郁文堂

【価格】2500円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

文字の読み方と発音

あいさつ

自己紹介、質問するとき

人物紹介、時間がありますか？

これは～です、兄弟姉妹

パン屋で、何時ですか？

道をたずねる、Paulの一日

かばん売り場で、はがきで連絡

薬を飲まなければなりません、Emmaの夢

週末の予定、結婚式

灰かぶり（グリム童話）、ベルリン壁博物館

環境問題、ドイツの観光地

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20％程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小川さくえ他：一歩ずつ楽しいドイツ語（同学社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科 (コース) : 機械知能・建設社会 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 選択必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

● 授業の背景

英語を話せて当たり前前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を A B C から学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

● 授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

● 授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語・会話・ロールプレー・異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)

第2回 あいさつ

CD を使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。

第3週 発音・アルファベット

ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。

正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)

第4回 自己紹介

自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。

第5回 趣味と仕事

自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)

第6回 お買い物 1

買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。

冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。

第7回 お買い物 2

roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。

(市場、専門店、セール、環境問題)

第8回 中間まとめ

第9回 食生活

食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。

第10回 私の家族

自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。

第11回 お願いがあります

困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。

話し方のマナーや注意点について説明する。

第12回 旅行

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他) つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書 ドイツ語インフォメーション neu 2 教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典 が必要

8. オフィスアワー

授業終了直後

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】「現代ドイツを学ぶための10章」(Kennzeichen.de junior)

【著者名】ウーテ・シュミット 他 著

【出版社】三修社

【価格】2625円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

文字の読み方と発音

あいさつ

自己紹介、質問するとき

人物紹介、時間がありますか？

これは～です、兄弟姉妹

パン屋で、何時ですか？

道をたずねる、Paulの一日

かばん売り場で、はがきで連絡

薬を飲まなければなりません、Emmaの夢

週末の予定、結婚式

灰かぶり（グリム童話）、ベルリン壁博物館

環境問題、ドイツの観光地

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小川さくえ他：一歩ずつ楽しいドイツ語（同学社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- | | | |
|------|------------|-------------|
| 第1回 | Lektion 10 | 話法の助動詞 |
| 第2回 | Lektion 10 | 〃 |
| 第3回 | Lektion 11 | 過去形 |
| 第4回 | Lektion 11 | 現在完了形 |
| 第5回 | Lektion 11 | 〃 |
| 第6回 | Lektion 12 | 受動態 |
| 第7回 | Lektion 13 | 比較 |
| 第8回 | Lektion 13 | 〃 |
| 第9回 | Lektion 14 | 関係文 まとめ小テスト |
| 第10回 | Lektion 14 | 〃 まとめ小テスト |
| 第11回 | Lektion 15 | 接続法 まとめ小テスト |
| 第12回 | Lektion 15 | 〃 まとめ小テスト |
| 第13回 | まとめ演習 | まとめ小テスト |
| 第14回 | まとめ演習 | まとめ小テスト |
| 第15回 | 総復習 | |

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】「レアとラウラ」(Lea und Laura)
- 【著者名】市川明 他 著
- 【出版社】朝日出版社
- 【価格】2400円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A I、A IIで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60％以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

- 教科書：第一回目の授業で指示する。
- 参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語・会話・ロールプレー・異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)

第2回 あいさつ

CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。

第3週 発音・アルファベット

ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。

正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)

第4回 自己紹介

自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。

第5回 趣味と仕事

自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)

第6回 お買い物1

買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。

冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。

第7回 お買い物2

roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。

(市場、専門店、セール、環境問題)

第8回 中間まとめ

第9回 食生活

食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。

第10回 私の家族

自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。

第11回 お願いがあります

困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。

話し方のマナーや注意点について説明する。

第12回 旅行

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他) つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分です、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書 ドイツ語インフォメーション neu 2 教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

授業終了直後

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 語法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 //
- 第3回 Lektion 11 過去形
- 第4回 Lektion 11 現在完了形
- 第5回 Lektion 11 //
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 //
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 14 // まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 // まとめ小テスト
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】「シンプルドイツ語 一空欄補充式」（Am Ende wird getanzt）
- 【著者名】寺井絃子 他 著
- 【出版社】郁文堂
- 【価格】2500円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。
 アルファベット・発音
 エリ、アナと出会う
 春を楽しむ
 デパートへ行く
 兄弟を語る
 演奏会に誘われる
 マックスと音楽を語る
 アナを食事に誘う
 CD ショップを訪ねる
 ゼミに参加する
 おしゃれをする
 バッハを聴く
 昨日の出来事を話す
 ミュンヘンに行く

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

- 教科書 春日正男他：ブラーヴォ！ブラーヴォ！ブラーヴォ！—音楽から入るドイツ語—（郁文堂）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語・会話・ロールプレー・異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
 世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)
- 第2回 あいさつ
 CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
 ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
 正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
 自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
 自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
 買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
 冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。
- 第7回 お買い物2
 roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。
 (市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
 食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
 自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。
- 第11回 お願いがあります
 困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
 話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
 駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。
- 第13回 旅行 2
 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
 駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他) つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分です。恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書 ドイツ語インフォメーション neu 2 教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典 が必要

8. オフィスアワー

授業終了直後

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A I、A II で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

アルファベット・発音

エリ、アナと出会う

春を楽しむ

デパートへ行く

兄弟を語る

演奏会に誘われる

マックスと音楽を語る

アナを食事に誘う

CD ショップを訪ねる

ゼミに参加する

おしゃれをする

バッハを聴く

昨日の出来事を話す

ミュンヘンに行く

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 春日正男他：ブラーヴォ！ブラーヴォ！ブラーヴォ！—音楽から入るドイツ語—（郁文堂）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる。

4. 授業計画

ドイツの社会や風物を描写したやさしいドイツ語の読み物を読む。

1. ドイツ語を学ぶ
2. 朝食
3. 労働時間
4. ドイツー森の国
5. 菩提樹
6. 整理整頓好き
7. ろうそくの光で
8. トーマスマン
9. 自分の意見
10. ドイツの手工業
11. クリスマスツリー
12. ウィーンの喫茶店

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「希望のドイツ語新訂版 ―CD付―」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる。

4. 授業計画

ドイツの社会や風物を描写したやさしいドイツ語の読み物を読む。

1. ドイツ語を学ぶ
2. 朝食
3. 労働時間
4. ドイツー森の国
5. 菩提樹
6. 整理整頓好き
7. ろうそくの光で
8. トーマスマン
9. 自分の意見
10. ドイツの手工業
11. クリスマスツリー
12. ウィーンの喫茶店

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「希望のドイツ語新訂版 ―CD付―」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

小塩節「新しいドイツ語1A」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語B I German B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置づけ

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる。

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

1. 到着
2. ホテル探し
3. ホテルにて
4. レストランで
5. 買い物
6. アパート探し
7. バイキング
8. 招待される
9. 医者にて
10. 手紙

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：大谷弘道著「新・ドイツ語話し方教室」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語B II German B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次の基礎ドイツ語Aを踏まえドイツ語の基礎を補完し、次の段階につながるドイツ語の学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

アルファベート・発音

エリ、アナと出会う

春を楽しむ

デパートへ行く

兄弟を語る

演奏会に誘われる

マックスと音楽を語る

アナを食事に誘う

CDショップを訪ねる

ゼミに参加する

おしゃれをする

バッハを聴く

昨日の出来事を話す

ミュンヘンに行く

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本的に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 春日正男他：ブラーヴォ！ブラーヴォ！ブラーヴォ！—音楽から入るドイツ語—（郁文堂）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語C I German C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語のより高度な表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式をより深く理解する

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

- ・人との関わり
- ・家族と友人関係
- ・健康と医療
- ・住環境と家事
- ・環境と自然
- ・旅行と交通

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ二～三週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、外国語の学習上必要である

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

ドイツ語 C II German C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語のより高度な表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式をより深く理解する

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

- ・食生活
- ・公的機関
- ・学校と教育
- ・仕事と職業
- ・余暇と文化的な生活
- ・政治と共同体

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ二～三週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、外国語の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音 I 声調、単母音、二重母音、三重母音
3. 発音 II 鼻母音、子音
4. 発音 III 発音のまとめ①
5. 発音 III 発音のまとめ②
6. 第一課 人称代名詞、“是”・“的”の用法
7. 第二課 動詞述語文、疑問詞疑問文
8. 第三課 存在文、形容詞述語文、量詞
9. 復習
10. 第四課 指示代名詞、連動文
11. 第五課 “了”・“過”の用法、選択疑問文
12. 第六課 副詞“都”の用法、助動詞“想”の用法
13. 復習
14. 第七課 前置詞“在”の用法、助動詞“能”・“会”の用法
15. 総合復習
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき 40 人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『どんどん吸収中国語』（木村裕章・篠原征子・浅野雅樹 光生館）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音Ⅰ 声調、単母音、二重母音、三重母音
3. 発音Ⅱ 鼻母音、子音
4. 発音Ⅲ 発音のまとめ①
5. 発音Ⅳ 発音のまとめ②
6. 第一課 人称代名詞、“是”・“的”の用法
7. 第二課 動詞述語文、疑問詞疑問文
8. 第三課 存在文、形容詞述語文、量詞
9. 復習
10. 第四課 指示代名詞、連動文
11. 第五課 “了”・“過”の用法、選択疑問文
12. 第六課 副詞“都”の用法、助動詞“想”の用法
13. 復習
14. 第七課 前置詞“在”の用法、助動詞“能”・“会”の用法
15. 総合復習
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『どンドン吸収中国語』（木村裕章・篠原征子・浅野雅樹 光生館）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視2/3以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 “把”構文
3. テキスト第十二課 禁止表現
4. テキスト第十三課 的表現
5. テキスト第十四課 経験文
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 値段の表現①
8. テキスト第十五課 値段の表現②
9. テキスト第十六課 存現文①
10. テキスト第十六課 存現文②
11. テキスト第十七課 受身文①
12. テキスト第十七課 受身文②
13. テキスト第十八課 使役文①
14. テキスト第十八課 使役文②
15. 総合演習
5. 評価の方法・基準
定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする
6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等
出席重視、2 / 3 以上の出席必須。
7. 教科書・参考書
教科書：「中国を歩こう」（金星堂）
8. オフィスアワー
E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第八課 年月日・時間量の表し方、助動詞“打算”・“要”の用法
3. 第九課 動作の回数の表し方、二重目的語文
4. 復習
5. 第十課 助詞“着”の用法、動詞の重ね型、程度副詞
6. 第十一課 結果補語、方向補語
7. 第十二課 副詞“在”の用法、比較構文、禁止表現
8. 復習
9. 第十三課 方位詞、変化を表す“了”の用法、強調構文
10. 第十四課 接続詞の用法、使役文
11. 第十五課 “把”構文、状態補語の表現
12. 総合復習（Ⅰ）
13. 総合復習（Ⅱ）
14. 総合復習（Ⅲ）
15. 総合復習（Ⅳ）
16. 試験
5. 評価の方法・基準
定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。
6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等
出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。
7. 教科書・参考書
教科書：『どんどん吸収中国語』（木村裕章・篠原征子・浅野雅樹 光生館）
8. オフィスアワー
連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第八課 年月日・時間量の表し方、助動詞“打算”・“要”の用法
3. 第九課 動作の回数の表し方、二重目的語文
4. 復習
5. 第十課 助詞“着”の用法、動詞の重ね型、程度副詞
6. 第十一課 結果補語、方向補語
7. 第十二課 副詞“在”の用法、比較構文、禁止表現
8. 復習
9. 第十三課 方位詞、変化を表す“了”の用法、強調構文
10. 第十四課 接続詞の用法、使役文
11. 第十五課 “把”構文、状態補語の表現
12. 総合復習（Ⅰ）
13. 総合復習（Ⅱ）
14. 総合復習（Ⅲ）
15. 総合復習（Ⅳ）
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『どんどん吸収中国語』（木村裕章・篠原征子・浅野雅樹 光生館）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 把構文
3. テキスト第十二課 禁止表現
4. テキスト第十三課 的の表現
5. テキスト第十四課 経験文
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 値段の表現①
8. テキスト第十五課 値段の表現②
9. テキスト第十六課 存現文①
10. テキスト第十六課 存現文②
11. テキスト第十七課 受身文①
12. テキスト第十七課 受身文②
13. テキスト第十八課 使役文①
14. テキスト第十八課 使役文②
15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2/3以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかり修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習 発音
2. 復習 文法・語彙
3. 第十一課 進行・持続の表現、将然形
4. 復習
5. 第十二課 方向補語、結果補語、動量補語
6. 復習
7. 第十三課 無主語文、固定構文（Ⅰ）
8. 復習
9. 第十四課 固定構文（Ⅱ）
10. 復習
11. 第十五課 文法のまとめ
12. 復習
13. 総合復習（Ⅰ）
14. 総合復習（Ⅱ）
15. 総合復習（Ⅲ）
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝 朝日出版社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかり修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習 発音
2. 復習 文法・語彙
3. 第十一課 進行・持続の表現、将然形
4. 復習
5. 第十二課 方向補語、結果補語、動量補語
6. 復習
7. 第十三課 無主語文、固定構文（Ⅰ）
8. 復習
9. 第十四課 固定構文（Ⅱ）
10. 復習
11. 第十五課 文法のまとめ
12. 復習
13. 総合復習（Ⅰ）
14. 総合復習（Ⅱ）
15. 総合復習（Ⅲ）
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝 朝日出版社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかり修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 復習 発音
- 2. 復習 文法・語彙
- 3. 第十一課 進行・持続の表現、将来形
- 4. 復習
- 5. 第十二課 方向補語、結果補語、動量補語
- 6. 復習
- 7. 第十三課 無主語文、固定構文（I）
- 8. 復習
- 9. 第十四課 固定構文（II）
- 10. 復習
- 11. 第十五課 文法のまとめ
- 12. 復習
- 13. 総合復習（I）
- 14. 総合復習（II）
- 15. 総合復習（III）
- 16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝 朝日出版社）

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかり修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 発音のまとめ①
- 2. 発音のまとめ②
- 3. 第一課 名詞述語文
- 4. 第二課 自己紹介
- 5. 第三課 形容詞述語文
- 6. 復習
- 7. 第四課 数・日付の言い方
- 8. 第五課 動詞述語文
- 9. 第六課 存在文
- 10. 復習
- 11. 第七課 助動詞・反復疑問文
- 12. 第八課 助動詞
- 13. 第九課 経験の表現など
- 14. 第十課 料理を注文する表現など
- 15. 復習
- 16. 試験

5. 評価の方法・基準

期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『〈新版〉中国語10課』（方如偉・王智新・鏗屋一 白水社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

中国語 A Chinese A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化 会話

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基礎的な文法をマスターする。
- ③基本的な会話ができるようになる。
- ④中国に対する知識を増やす。

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習
2. 第1課 介詞①・連体修飾語
3. 第1課 様態補語
4. 第2課 可能①・「すこし」
5. 第2課 介詞②③・時間量
6. 第3課 二重目的語・連動文
7. 第3課 完了
8. まとめ 第1課～第3課
9. 第4課 動作の進行・介詞④
10. 第4課 経験・動量補語
11. 第5課 介詞⑤・結果補語
12. 第5課 状態の持続・場所語
13. 第6課 可能②
14. 第6課 「太～了」・お金
15. まとめと復習

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『楽しい中国語コミュニケーション 改訂版』（高橋良行・村上公一・陸明 同社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

中国語 B I Chinese B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化 社会事情

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基本的な文法をマスターする。
- ③中国に対する知識を増やす。
- ④簡単な文章の聴きとり・作文ができるようになる。

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・本文篇に入る前に
2. 第1課 はじめまして
3. 第2課 王府井大街
4. 第3課 ファストフード
5. 第4課 日本のアニメ
6. 第5課 インターネット
7. 第6課 一人っ子
8. 第7課 自家用車
9. 第8課 北京胡同
10. 第9課 休日の過ごし方
11. 第10課 草食系男子
12. 第11課 住居
13. 第12課 春節の過ごし方
14. 第13課 月光族
15. 第14課 食文化の変化

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『キャンパス中国語 読解コース』

（平井勝利 監修 村松恵子・于小薇・伊藤正晃 著 白帝社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

中国語 B II Chinese B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化 社会事情

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする
- ②基本的な文法をマスターする
- ③中国に対する知識を増やす
- ④簡単な文章の聴きとり・作文ができるようになる

4. 授業計画

日常生活や精神生活のさまざまな場面における表現方法を知る：

- ・対人関係
- ・住環境
- ・外国文化の受容
- ・交通事情
- ・食生活とその変化
- ・公的機関
- ・近年の社会事情
- ・仕事と職業
- ・余暇と文化的な生活
- ・伝統的な祭日

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ一～二週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

定期試験に平常点を加味し、合計 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席することが単位取得の必須条件である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

ロシア語Ⅰ Russian I

対象学科（コース）：全学科

学年：3年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名
 （名詞の単数と複数）
 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語
 （動詞の人称変化形）
 第10回 テーマ「第2課②」趣味（名詞の対格）
 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
 第15回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

5. 評価方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

ロシア語Ⅱ Russian II

対象学科（コース）：全学科

学年：3年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

Iに引き続き、ロシア語の文法を学修する。テキストの講説とその応用としての対話練習を行う。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介（名詞の前置格）
 第2回 テーマ「第3課②」職業（形容詞）
 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活（動詞の過去）
 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
 第6回 テーマ「第4課③」訪問（動詞の体）
 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
 第8回 テーマ「第5課①」余暇（動詞の未来形）
 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
 第10回 テーマ「第5課③」訪問（動詞の命令形）
 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 第15回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

5. 評価方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

韓国（朝鮮）語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいい難いです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきます。この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国の文化

3. 到達目標

- ①韓国語の文字と発音の習得
- ②基礎的な文法の学習
- ③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

5. 評価の方法・基準

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

- ①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

「楽しく学ぶ」ことがモットの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題、小テストなどが苦にならない、ヤル気ある学生の受講を望みます。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介します。）

8. オフィスアワー

E-mail : gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国（朝鮮）語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

基本的には前期の「韓国（朝鮮）語Ⅰ」の続きとして進めていきます。授業では、韓国（朝鮮）語の読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を習得します。

2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国の文化

3. 到達目標

- ①基礎的な文型及び文法の学習
- ②やさしい日常会話の習得
- ③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2と時刻の読み方
- ・自己紹介
- ・助詞 1、2、3・楽しい会話 1、2
- ・否定形
- ・過去形
- ・尊敬系とその他

5. 評価の方法・基準

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①定期試験、②出席、③宿題や発表、小テストによる総合評価。

7. 教科書・参考書

韓国（朝鮮）語Ⅰ参照。

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店

8. オフィスアワー

E-mail : gyelc0926@yahoo.co.jp

保健体育系科目の概要

スポーツ運動学実技 A Sports & Exercise Practice

I. 「保健体育系」の目的・目標

1. 身体や身体運動 (Muscular work) についての科学的思考能力の育成
2. 健康 (度) や体力 (フィットネス) の保持・増進
3. 運動、スポーツ技能の修得
4. 社会性やコミュニケーション能力の育成
5. 運動、スポーツ文化の継承と発展
6. 生涯スポーツへの橋渡し

II. 保健体育系における授業の方向性

保健体育のスポーツや筋運動を通じた教授学習過程におけるシークエンスの観点からすると、以下の事が基本原則である。

体育実技における教授・学習計画の基本法則

1. 運動 (スポーツ種目) 強度
「軽度から中等度をへて高強度へ」
2. 時間 (継続、実施)
「短」から「長」へ
3. 頻度
「少」から「多」へ
4. 量 (強度 x 時間)
「少」から「多」へ
5. タイプ
「易」から「難」へ
「簡単」から「複雑」へ

III. 保健体育系科目の種類

1. 人間科学基礎科目: スポーツ運動学実技 A およびスポーツ運動学実技 B
2. 人間科学副専門科目: 健康スポーツ科学論、応用スポーツコース
「保健体育系」の目的・目標の理論的立場の教授と学習、さらなる応用的側面をここでは取り扱う。
3. リレー講義科目: 「環境適応論」
上記の実験・実習科目としても少人数による教育をおこなっている。大学院教育 (生命体工学研究科 生体機能 生体適応システム講座) との関連で言及する内容を一部、講義・演習形式でできるよう検討している。また、副専門科目の「応用スポーツコース」において、「体力」あるいは「ヒトの適応能」の定量化実験の実施をできるよう構想している。

対象学科 (コース): 全学科 学年: 1 年次 学期: 前期

単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広く受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進 (health promotion) の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおし、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育 (スポーツ) 活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力 (Physical Fitness) 増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして (あるいは身体運動に関する) 学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

体力=健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6~14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・前期は、比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の 6 時限目 (16:30 ~ 18:00)

スポーツ運動学実技B Sports & Exercise Practice

対象学科（コース）：全学科 学年：1年次
 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広くの受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進（health promotion）の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育（スポーツ）活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力（Physical Fitness）増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

後期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・比較的運動強度の高い心肺機能の向上を計るために効果的な集団スポーツ種目を男女別々に開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

《女子学生へ》

保健体育・B（後期）に関しては、木曜5時限目の「女子体育」を受講すること。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の6時限目（16：30～18：00）

健康スポーツ科学論 Exercise Prescription

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 鳥井 正史

1. 概要

●背景

「生活習慣病」（これまでの「いわゆる「成人病」」）の危険因子として、肥満、高血糖、高血圧、精神的ストレスなどが指摘されている。これらの危険因子は運動実践によって十分に軽減される事が、広く認識されている。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要である。

●目的

「生活習慣病」のこれらの危険因子は、運動実践によって十分に軽減される。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要であり、それらに関する生理学的基本的事項について理解を深める。さらに、ヒトの生理的機能や身体運動に対する科学的思考能力の育成を目指すと共に「運動処方」の基本計画の策定基礎の確立を目指す。

●位置付け

毎回、ヒトの生理機能や身体運動に関する教授学習を行なう。通常、教室における講義形式をとる。

2. キーワード

ヒトの生理機能、身体のトレーニング、体力＝健康度の向上、生活習慣病

3. 到達目標

- 1) 今日的な健康概念の理解
- 2) ヒトの生理機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
- 3) 運動処方や身体のトレーニング計画の立案・実施

4. 授業計画

- 1) 現代生活と健康—その1 寿命と疾病構造の変遷
- 2) その2 生活習慣病の出現
- 3) その3 食事と運動と休息・休養（睡眠）の関連
- 4) 「体力」概念—行動体力と防衛体力
- 5) 運動の効果—運動・スポーツに関する生理学的基本（総論）
- 6) a. 筋、神経系
- 7) b. 肥満、脂質、動脈硬化に関する効果
- 8) c. 有酸素系能力（心・血管系）に対する効果
- 9) d. 体温調節に対する効果
- 10) e. 免疫・内分泌機能に対する効果
- 11) 運動処方の実際（総論）運動処方野や療法、身体トレーニングの概念
- 12) メディカルチェック（運動実施のための健康診断）、性、年齢、活動水準に応じた運動処方 その1、その2
- 13) スポーツ障害の予防に関する諸問題

5. 評価の方法・基準

末試験の成績で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書は使用しない。講義2～3回に1回の割合で資料を配付する。

1. 体育科学センター（編）スポーツによる健康づくり運動カルテ、講談社 780.1/T-14
2. 石河利寛 スポーツと健康（新書版）岩波書店 081/I-2-3/39
3. 池上晴夫 運動処方 朝倉書店 780-1/I-18/2
4. 池上晴夫：適度な運動とは何か 講談社 780-1/I-21, 480/B-2/739
5. 時実利彦：脳の話（新書版）岩波書店 081/I-2/461

8. オフィスアワー

毎週月曜日の6時限目（16：30～18：00）

テーマ別リレー講義 社会保障の現代的課題

A View of Social Security

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：全学年

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 人間科学担当教員

1. 概要

人口構成の急激な少子・高齢化を受けて、社会保障あるいはそれに関連して財政や税制の「改革」が訴えられて久しい。現に、1990年代より、介護保険の導入、措置制から契約制への移行、年金構造改革と、大規模な制度改革が次々と実行されてきた。その一方で、こうした「改革」を凌駕する勢いで人口の少子・高齢化は急速に進行し、国の財政状況は日増しに悪化している。さらに、こうした実態的な問題ばかりではなく、社会保障の「あるべき姿」をめぐる思想的対立も顕著に見られるようになってきた。新自由主義や新保守主義、福祉国家論など様々な思想的背景に裏打ちされる形で、様々な社会保障像が提起されている。個別領域を見ても、年金・医療・介護・健康政策、保育・子育て支援、生活保護・貧困対策、さらには労働や雇用、教育の領域も巻き込む形で、問題が山積している。現代日本の社会保障の実態や課題等について知ることは、我々全員にとって必要な素養のひとつである。本講義では、こうした社会保障を取り巻く現代的課題について、歴史研究等も織り込みながら、それぞれの立場・専門分野の教員がリレー形式での講義を行なう。

2. キーワード

社会保障 社会福祉 新自由主義 新保守主義 福祉国家 社会的排除 分配

3. 到達目標

- ① 社会保障の実態や課題、思想的背景について知見を得る。
- ② 現行の社会保障制度を批判的に検証しつつ、今後の社会保障制度のあり方について考察を深める。
- ③ 自らの意見を文章で論理的に表現できる。

4. 授業計画

- 第1回 ガイダンス（東野）
- 第2回 福祉国家のレジームと日本の社会保障制度の概要（東野）
- 第3回 近代イギリスの経験－「救貧」から社会福祉への展開－（水井）
- 第4回 19世紀イギリス文学における社会福祉へのまなざし（虹林）
- 第5回 グローバル化の中の社会保障（アブドゥハン・東野）
- 第6回 配分の公正という正義をめぐる異なる価値意識と制度と現実の配分構造（九州工業大学名誉教授 井上）
- 第7回 日本の財政を考える
－財政破綻は現実のものとなるのか－（辻）
- 第8回 生活習慣病と身体運動の関連について（鳥井）
- 第9回 先端医療をめぐる諸課題（九州大学医学部教授 大池）
- 第10回 少子高齢化と社会保障－年金・介護制度のゆくえ－（辻）
- 第11回 家族と社会保障（四国大学短期大学部講師 山瀬）
- 第12回 発達障害と障害児者福祉
（発達障害者支援施設たまや代表 高橋）
- 第13回 貧困and/or社会的排除（本田）
- 第14回 教育・労働・社会保障のアーティキュレーション（東野）
- 第15回 試験
- 第16回 まとめ（東野）

5. 評価の方法・基準

- ・各回に提出するリアクション・ペーパー 50%
- ・最終レポート 50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・毎回必ず出席し、リアクション・ペーパーを提出すること。
- ・新聞等に必ず目を通すこと。

7. 教科書・参考書

- ・教科書は指定しない。
 - ・参考文献は以下のとおり。
- 『厚生労働白書』等各種公刊物
 遠藤公嗣『労働、社会保障政策の転換を』岩波書店 366E-3
 宮本太郎『生活保障』岩波書店 081/I-2-4/1216
 鈴木亘『財政危機と社会保障』講談社 081/K-3/2068
 ロールズ『公正としての正義 再説』岩波書店 151/R-6
 サンドル『これからの正義の話をしよう』早川書房 311.1/S-8
 海野道郎『日本の階層システム 2－公平感と政治意識－』361.8/M-1/2
 大沢真理『イギリス社会政策史』東京大学出版会 369.2/O-2
 その他、講義中に紹介する。

8. オフィスアワー

相談窓口は、コーディネータの東野まで。総合教育棟 309 号室、電話・FAX 093-884-3433、e-mail : higashi@dhs.kyutech.ac.jp
 オフィスアワーは火曜 13 時～ 16 時

2012年 リレーセミナー

「幸福をめぐる一教養、経済、工学」

Happiness through Culture, Economy and Engineering

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：2単位

担当教員名 虹林 慶・ロバート・ロング・辻 隆司

1. 概要

2011年3月11日の東北大地震と福島原発事故は未曾有の被害をもたらし、日本の生活基盤を根底から覆した。このような事態の中、物質至上主義的な傾向は変化し、価値観は揺らぎ、「幸福」に関する考え方についても変化がみられる。これから日本経済の基盤である産業界にたずさわることになる工学部の学生として、このような変化について、そして工業と技術が便益と福祉に、生活の安定と幸福に、いかに貢献すべきかについて考えることは重要であろう。

世界に目を転ずれば、ブータンはGDPならぬGNH（国民総幸福量）を国家繁栄の基準として打ち出し、新たな社会像を提案している。これは単発的なアピールにとどまらず、フランスなどの国が同様の基準を部分的に取り入れる動きを見せている。「文化的生活環境基準」(QOL)を含めた、文化による幸福の見方の違いを比較対照することは、自国について考える際、示唆に富むものとなる。

歴史を紐解けば、幸福についての議論は、古今東西人々にとって重大な関心事であり続けている。空間における異文化間の比較に対して、時間における比較を行うことも、今現在の幸福について考える際に有用であることは言うまでもない。

本リレーセミナーでは、「幸福」という抽象的で曖昧な、しかし極めて重要なテーマについて、現代日本、国際的なQOL、文学、の3つの具体例について考えてみる。「幸福」というテーマについて、それぞれが主体的に考えるきっかけを作ることができれば幸いである。

2. キーワード

GNH（国民総幸福量）、QOL（文化的生活環境水準）、文学、倫理、原発

3. 到達目標

- 1 資料を正しく理解する。
- 2 根拠をあげて論理的に議論ができる。
- 3 資料と議論をふまえ、筋道の通ったレポートを作成できる。

4. 授業計画

- 01) イントロダクション (4/11)
- 02) 虹林1（オープンディスカッション1：「エネルギー問題」
ゲストスピーカー：大塚〔電気電子〕）(4/18)
- 03) 虹林2（オープンディスカッション2：「原発事故とその後」
ゲストスピーカー：清水〔機械知能〕）(4/25)
- 04) 虹林3（文学における幸福論）導入 (5/9)
- 05) 虹林4 ディスカッション (5/16)
- 06) 虹林5 ディスカッション (5/23)
- 07) 虹林6 レポート作成 (5/30)
- 08) ロング1（諸外国におけるQOL）導入 (6/6)
- 09) ロング2 ディスカッション (6/13)
- 10) ロング3 ディスカッション (6/20)
- 11) ロング4 レポート作成 (6/27)
- 12) 辻1（「幸福の経済学」とは）導入 (7/4)
- 13) 辻2 ディスカッション (7/11)
- 14) 辻3 ディスカッション (7/18)
- 15) 辻4 レポート作成 (7/25)
- 16) まとめ・総評 (8/8)

5. 評価の方法・基準

授業内のディスカッション（プレゼンテーションなども含む）、資料調査、3回のレポートを総合して行う。60点以上を合格とする。最終的成績評価はコーディネーターが行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

セミナー形式のため、配布する資料について予習することが必須である。また、講義の形式上、人数制限をかけることもある。
* 授業に有益な映像資料を授業時間外にビデオ・オン・デマンドで観ることをお勧めする。リストについては、人間科学系ホームページ（学内のみのアクセス）の「リレーセミナー」のページを見ること。（<http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/>）

7. 教科書・参考書

随時周知する。

8. オフィスアワー

コーディネーター：虹林（総合教育棟 S313、火曜日 16:20～17:50）

II-1. 教職に関する専門教育科目

II-2. 工業の教科に関する専門教育科目

教職論 Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：1年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の内容

ビデオ教材等により教員をとりまく現代的状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2. キーワード

学習指導 生徒指導 聖職観 労働者観 専門職論 保護者同僚 地域住民 教師文化

3. 到達目標

- ①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
- ②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
- ③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション
- 2回 教師という職業（1）
- 3回 教師という職業（2）
- 4回 教師という職業（3）
- 5回 教師の役割（1）－学習指導－
- 6回 教師の役割（2）－生活指導－
- 7回 教師の役割（3）－地域との協力・連携－
- 8回 教師の役割（4）－教師役割の国際比較－
- 9回 専門職としての教師（1）－教職は聖職か？－
- 10回 専門職としての教師（2）－労働者としての教師－
- 11回 専門職としての教師（3）－専門職とは何か－
- 12回 専門職としての教師（4）－専門職としての成長－
- 13回 教師を取り巻く現実（1）－社会の変化と子どもの変化－
- 14回 教師を取り巻く現実（2）－授業崩壊と保護者との関係－
- 15回 全体のまとめ
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

平常点（リアクション・ペーパー等、20点）および筆記試験の点数（80点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

集中講義であるから、全授業への出席を原則とする。

7. 教科書・参考書

●教科書は指定しない（必要に応じて資料を配付する）

●参考文献

- 油布佐和子『転換期の教師』日本放送出版協会 375.9/H-2
 山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準 374.3/Y-1
 永井聖二・古賀正義『＜教師＞という仕事＝ワーク』学文社 374.3/N-3

8. オフィスアワー

教育原理 Principle of Education ◎ the 1 stperiod ◎ Monday

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：1・2年次 学期：前期 単位区分：選択必修

単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 「子ども」と「大人」の境界線
- 2回 教える者、教えられる者
- 3回 発達と社会化
- 4回 人間の発達段階
- 5回 中間テスト I
- 6回 学校制度の国際比較
- 7回 公教育の歴史と制度
- 8回 教育改革の動向
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 中間テスト II
- 11回 不登校という選択
- 12回 「いじめ」とは何か？
- 13回 教育のリストラクチャリング
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

- | | |
|--------|-----|
| 中間テスト計 | 60% |
| 期末テスト | 40% |

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：1・2年次 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 今村 義臣

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

- ①教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得すること。
- ②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につけること。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発達1 ころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 3回 発達2
- 4回 発達3
- 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 6回 学習2
- 7回 学習3
- 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 11回 人格と適応2
- 12回 人格と適応3
- 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 14回 障害児2
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 中西信男・三川俊樹編『新教職課程の教育心理学』ナカニシヤ出版 371.4/N-19
- 参考書 適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育社会学 Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：1・2年次 学期：後期 単位区分：選択必修
 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するのではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 家族をめぐる諸問題
- 2回 文化的再生産と教育
- 3回 エスニシティと教育
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 中間テストI
- 6回 メディアと教育
- 7回 現代の子ども文化
- 8回 現代の若者文化
- 9回 少年犯罪言説と少年法
- 10回 少年司法のポリティクス
- 11回 中間テストII
- 12回 組織としての学校
- 13回 カリキュラムの社会学
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%
 期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数教）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6
 柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

工業教科教育法 Method of Technology Education

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：3年次 学期：通年 単位数：4単位
 担当教員名 永田 萬亨

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教科の指導法」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①工業科教育を広く人材育成システムの営みの中に位置づけ、多面的に考察すること。
- ②生徒の技術的発達、職業的発達の観点から工業科教育の役割について理解するとともに、現代社会における工業教育・技術教育の学びについて理解を深めること。
- ③現代の工業教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、教育実践を有効にするために、「手段」の機能をよくするとともに、その技術的能力を高めることを目指す。

●授業の位置付け

- ①工業科教育の歴史、教育目的、教育内容そして情報機器と教材の活用を含む効果的な教育方法について教育学的に検討する。
- ②教材論、授業論などの授業実践に関わる部分を中心に教育実践的検討を行う。

2. キーワード

工業科教育 教材研究 技術教育 職業教育

3. 到達目標

- ①高校の工業の教師として工業科教育に関する基本的な知識、技術、技能の習得を目指して、工業教育の果たす役割の重要性を認識することができる。
- ②工業科教育の性格や内容、その存立基盤の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手として必要な資質を形成すること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 工業科教育と教育実践（教育実践における教師の役割）
- 2回 学校教育の課題
（総合学科の新設及び専門学科の改善充実）
- 3回 工業教育の役割と目標
（産業社会における工業技術教育のあり方）
- 4回 戦前の工業教育の歴史
（職工学校の創設、実業学校令、実業教育費国庫補助法）
- 5回 戦後の工業教育の歴史
（産業教育振興法の制定と工業技術教育の整備）
- 6回 学習指導要領の改訂と工業科の変遷
（学習指導要領のねらい、学習指導要領の構成）
- 7回 欧米における工業教育（1）
（ドイツの教育制度と工業技術教育）
- 8回 欧米における工業教育（2）
（アメリカの教育制度と工業技術教育）
- 9回 工業科の教育内容と方法（1）
（工業科の各科目の内容及び方法について検討する）
- 10回 工業科の教育内容と方法（2）（同上）
- 11回 工業科の教材研究の事例（1）（教材解釈と教材づくりを中心に教材研究のあり方を検討する）
- 12回 工業科の教材研究の事例（2）（同上）
- 13回 工業科の教材研究の事例（3）（同上）
- 14回 工業科における評価の特徴（授業評価と評価方法）
- 15回 まとめ
- 16回 普通教育と専門教育（普通教育としての技術教育と専門教育としての技術教育の違い）
- 17回 学校教育としての技術教育体系の成立
（工業化の人材育成機関としての学校）

- 18回 技術革新と工業教育の改編
(産業界の要請、工業教育の多様化)
- 19回 工業に関する学科の目標
(工業高校の目標と工業に関する各学科の目標)
- 20回 教科「工業」の目標と学科の目標
(教科「工業」の目標の変遷)
- 21回 学科の教育課程編成(生徒の実態、高校の制度改革を踏まえた教育課程のあり方)
- 22回 教材(教材の概念、教授学習過程における教材の位置)
- 23回 工業技術教育の指導性(物品製作法、オペレーション法、プロジェクト法について)
- 24回 教育評価
(学校教育における教育評価の役割・機能及び問題点)
- 25回 授業評価(教授学習過程における評価、評価方法)
- 26回 学習指導案の構成(1)
(学習指導案の構成、留意点について)
- 27回 学習指導案の構成(2)(同上)
- 28回 学習指導案例(1)
(「工業技術基礎」を事例として授業案を検討する)
- 29回 学習指導案例(2)(同上)
- 30回 まとめ

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況(20%)、講義の合間に行う小レポート(30%)、期末試験(50%)によって行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許取得希望者(工業)は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。
- ④教育現場を知ること、生徒を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として工業高校の視察・見学を計画している。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局、1999年
斉藤武雄、田中喜美、依田有弘編著『工業高校の挑戦』学文社、2005年 375.6/S-2

8. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談を受けるため、授業終了後をオフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。nagata@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法(数学) I

対象学科(コース):全学科(教職科目)
学年:3年次 学期:前期 単位数:2単位
担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この授業では、中学校・高等学校数学科の「授業を創る力」をつけることを意識しつつ、そのための基礎となる内容を取り上げる。具体的には、我が国の数学教育の現状を踏まえて、これからの数学教育が目指すものについて考察する。

2. キーワード

学習指導要領 数学教育史 数学教育の目的 基礎・基本 思考力・表現力

3. 到達目標

この授業では、以下の点について理解することを目標とする。

- ①我が国の数学教育の現状
- ②これからの数学教育の在り方(中教審答申、学習指導要領)
- ③数学教育の歴史
- ④数学教育の目的
- ⑤数学教育における基礎・基本
- ⑥数学的な思考力・表現力

4. 授業計画

授業では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 我が国の数学教育の現状①—TIMSSとPISA—
- 3回 我が国の数学教育の現状②—全国学力・学習状況調査—
- 4回 これからの数学教育の在り方①—中央教育審議会答申—
- 5回 これからの数学教育の在り方②—中学校学習指導要領—
- 6回 これからの数学教育の在り方③—高等学校学習指導要領—
- 7回 数学教育の歴史①
- 8回 数学教育の歴史②
- 9回 数学教育の目的①
- 10回 数学教育の目的②
- 11回 数学教育における基礎的・基本的な知識・技能①
- 12回 数学教育における基礎的・基本的な知識・技能②
- 13回 数学的な思考力・表現力①
- 14回 数学的な思考力・表現力②
- 15回 講義のまとめ

5. 評価の方法・基準

出席30% 期末レポート70%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。
- ②授業内容の十分な理解を得るため、各テーマごとに課す宿題に取り組むこと。
- ③授業時間外には、授業の内容を踏まえて、数学教育に関する文献を積極的に読むこと。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、各テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

8. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法（数学）Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：3年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この授業では、中学校・高等学校数学科の「授業を創る力」をつけることを意識しつつ、そのための基礎となる内容を取り上げる。具体的には、教科教育法（数学）Ⅰで取り上げた「これからの数学教育が目指すもの」を達成するための方法（手段）と評価について考察する。

2. キーワード

数学的活動 活用 授業スタイル 評価

3. 到達目標

この授業では、以下の点について理解することを目標とする。

- ① 数学的活動
- ② 数学科における活用
- ③ 数学科の授業スタイル
- ④ 数学科の評価

4. 授業計画

授業では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1回 オリエンテーション
 - 2回 数学的活動①—中学校—
 - 3回 数学的活動②—中学校—
 - 4回 数学的活動③—高等学校—
 - 5回 数学的活動④—高等学校—
 - 6回 数学科における活用①—中学校—
 - 7回 数学科における活用②—中学校—
 - 8回 数学科における活用③—高等学校—
 - 9回 数学科における活用④—高等学校—
 - 10回 数学科の授業スタイル①
 - 11回 数学科の授業スタイル②
 - 12回 数学科の授業スタイル③
 - 13回 数学科における評価①
 - 14回 数学科における評価②
 - 15回 講義のまとめ
- ### 5. 評価の方法・基準
- 出席30% 期末レポート70%
- ### 6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等
- ① 教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
 - ② 授業内容の十分な理解を得るため、各テーマごとに課す宿題に取り組むこと。
 - ③ 授業時間外には、授業の内容を踏まえて、数学教育に関する文献を積極的に読むこと。
- ### 7. 教科書・参考書
- 教科書は使わないが、各テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。
- ### 8. オフィスアワー
- kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教育課程論 Curriculum Study

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：前期 単位数：1単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

今日の教育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2. キーワード

学校 教育課程（カリキュラム） 教科

3. 到達目標

- ① 各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ② 教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。
- ③ 現代の課題に対応する教育課程の理論と実践について理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 はじめに—学校教育をとりまく状況—
以下 教育課程総論
- 3・4回 教育課程とは何か ・語義／意義 ・領域／構造
- 5・6回 教育課程の変遷
- 7・8回 教育課程の類型
以下 教育課程各論
- 9・10回 教科（1）学習指導要領と教科の内容
- 11・12回 教科（2）中等教育段階における学習指導
- 13・14回 教科外の諸領域
（道徳・特別活動・総合的な学習の時間）
- 15回 小まとめと質疑

5. 評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7. 教科書・参考書

- 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著『新しい時代の教育課程 改訂版』有斐閣 2009年 375/T-5
参考書1) 山崎英則・片上宗二 編集代表『教育用語辞典』ミネルヴァ書房 370.3/Y-1
2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説—総則編—』375.1/M-15/08-2

8. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

特別活動の指導法 Method of Extra-class Activities

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位数：1単位
 担当教員名 堺 正之

1. 概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2. キーワード

学校 特別活動 学級活動（ホームルーム活動） 生徒会活動 学校行事

3. 到達目標

- ① 日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
- ② 中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動（ホームルーム活動）」、「生徒会活動」、「学校行事」の概要を理解する。
- ③ 生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 特別活動の歴史と今日的課題
- 3・4回 特別活動の目標・内容・方法的特質
- 5・6回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
学級活動－中学校－
- 7・8回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
ホームルーム活動－高等学校－
- 9・10回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（2）
生徒会活動
- 11・12回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（3）
学校行事
- 13・14回 特別活動と教科活動・道徳・総合的な学習の時間
- 15回 最終試験

5. 評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7. 教科書・参考書

相原次男、新富康史編著『個性をひらく特別活動』ミネルヴァ書房 375/M-16/8

8. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

教育方法 Educational Method

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：3年次 学期：前期 単位数：2単位
 担当教員名 高田 清

1. 概要

●授業の背景

今日の学校教育をめぐる状況は、学力格差、学ぶ意欲の低下、いじめや不登校等、さまざまな教育課題を提示している。保護者や社会の要望、信頼に応え実践的指導力を獲得するためには、学校教育現場での教育実践についての確かな理論知と方法技術を学ぶ必要がある。

●授業の目的

学校教育現場では、教師は子どもたちの豊かで主体的な学習活動・文化活動・生活活動を指導していくが、その指導の方法技術の持つ独自な原則と特質を学ぶ。さらに、学校における教育活動を構成して教育課程論の原理を学び、それをふまえて授業と特別活動の実践的な指導の方法論を学ぶことを目的とする。

●授業の位置付け

教職に関する科目の中でも、教育方法は最も実践的指導力に関わる領域で、各教科の指導法の基礎となるものである。

2. キーワード

学習指導要領 授業実践記録 学力 評価

3. 到達目標

- ①今日の教育課題を理解し、学校教育の構造と役割を理解する。
- ②教育実践における「指導」の本質と方法技術の基本を理解する。
- ③学習指導と特別活動の独自な課題と指導方法を理解する。

4. 授業計画

- (1) 教育と教育実践の方法技術
 - 1回 オリエンテーション
 - 2回 教育実践とは何か? 実践の方法と技術
 - 3回 教育における言葉について
 - 4回 教育実践の二つの原則
 - 5回 教師の実践的指導力について
- (2) 教育課程の編成の原理
 - 6回 学校教育の構造と教育作用の構造
 - 7回 教育課程とは何か
 - 8回 学習の指導と生活の指導
- (3) 授業の指導
 - 9回 授業とは何か
 - 10回 授業の構想
 - 11回 教材づくりと教材解釈
 - 12回 教育における「話し合い」の指導
- (4) 特別活動の指導原理
 - 13回 今日の子どもと特別活動の意義
 - 14回 特別活動の指導原則
- (5) 情報機器の利用
 - 15回 教育実践と情報機器
 - 16回 試験

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（60％）と出席状況（40％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①基本的には講義だが、話し合いも行う。積極的な発言を期待する。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。適宜プリントを配布する。
- 参考書 高田清『学校教育実践の理論と方法』コレール社 375/T-3

8. オフィスアワー

kiyoshiroko@tng.bbiq.jp

生徒指導（進路指導を含む。） Student Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 山瀬 範子

1. 概要

●授業の目的

この授業では「生徒指導、教育相談及び進路指導等」に関して講義を行い、以下の点について学ぶことを目的とする。学校における教育活動は、教科指導と生徒指導に大別されるが、その最終的な目標は、生徒の人格の完成を目指すところにある。そのため、教科指導のみならず、生徒指導についての充実を図ることが重要である。そこで、いかにして、一人ひとりの生徒の個性の伸張を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、現在及び将来において社会的な自己実現が可能となる資質・態度を育成していくのかといった視点から、教育活動について学んでいくこととし、その理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育現場では、いじめや不登校、非行等の様々な問題が発生している。このため、教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。また、その領域の中には、進路指導も含まれる。これらの点について、講義と体験学習によって習得していく。具体的には、生徒指導についての概要を把握した後に、生徒を理解するために必要な人格の基礎理論等について学ぶ。続いて、いじめや非行等の実際の問題行動について、事例等を通じて検討する。また、進路指導についての概要も学ぶ。さらに、具体的な対応について、カウンセリングの考え方や技法を中心に、小グループでの体験学習による実習などを通じて学ぶ。

2. キーワード

人格の発達 心理査定 いじめ 非行 不登校 進路指導 教育相談 カウンセリング

3. 到達目標

- ① 人格理解のための基礎理論について習熟する。
- ② カウンセリングの考え方について習熟する。
- ③ 教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基礎技法を習得する。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。ただし、一部体験学習（カウンセリング技法など）も取り入れる。配布資料を適宜使用する。

- 1回：生徒指導とは何か
- 2回：生徒指導の領域
- 3回：生徒指導の方法
- 4回：生徒理解 ① 人格の発達
- 5回：生徒理解 ② 発達の問題
- 6回：生徒理解 ③ 心理査定
- 7回：問題行動 ① いじめ
- 8回：問題行動 ② 非行
- 9回：問題行動 ③ 不登校
- 10回：問題行動 ④ その他
- 11回：進路指導とは何か
- 12回：進路指導の領域と方法
- 13回：カウンセリングの考え方
- 14回：カウンセリングの基礎技法
- 15回：まとめ
- 16回：試験

5. 評価の方法・基準

受講態度および講義中に実施する小テスト等によって総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 教科書・参考書

●教科書を使用する。また、必要に応じて資料の配布、および参考文献の指示を行う。

8. オフィスアワー

なし（非常勤講師のため）

教育相談 Educational Counseling

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 菊池 悌一郎

1. 概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体、性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性ももっとも高い発達期である。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかにする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談（心理援助・カウンセリング）の理論と方法についてまとめる。

2. キーワード

教育相談 思春期青年期 発達 心理障害 カウンセリング

3. 到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。

- ① 思春期・青年期の発達を理解する。
- ② 思春期・青年期の心理障害を理解する。
- ③ 教育相談・理論と方法を理解する。

4. 授業計画

- 1回：はじめに（教育相談の概念整理）
- 2回：発達とは
- 3回：発達段階
- 4回：思春期・青年期の発達①
- 5回：思春期・青年期の発達②
- 6回：学童期・思春期の心理障害①
- 7回：学童期・思春期の心理障害②
- 8回：青年期の心理障害①
- 9回：青年期の心理障害②
- 10回：教育相談・カウンセリングの理論と方法①
- 11回：教育相談・カウンセリングの理論と方法②
- 12回：教育相談・カウンセリングの理論と方法③
- 13回：カウンセリング技術の実習①
- 14回：カウンセリング技術の実習②
- 15回：まとめ
- 16回：試験

5. 評価の方法・基準

出席および期末試験で評価する（出席30% 期末試験70%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

7. 教科書・参考書

●教科書：特に指定なし

●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学（東京大学出版会）371.4/K-28/2

下山：よくわかる臨床心理学（ミネルヴァ書房）146/S-9

8. オフィスアワー

メールアドレス：kikuchi@jimu.kyutech.ac.jp

教職実践演習（高）

Practical Seminar for Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：4年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成・菊池 悌一郎・岡崎 悦明・
谷野 勝敏

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法にのっとり、大学における教職課程の総まとめを行うとともに、教員という職業に携わる者としての力量形成を図る。

●授業の位置づけ

授業は、大きく以下の4つの柱からなる。

- ①ディスカッションやロールプレーを通して、教師としての使命や責任を体得する。
- ②ボランティアやフィールドワークを通して、社会性やコミュニケーション能力を身につける。
- ③現職の高校教諭との討論や学校参加を通して、生徒の理解を促進し、学校・学級経営の実態を理解する。
- ④模擬授業などを通して、教科指導の力量の定着を図る。

2. キーワード

教師としての資質向上・力量形成

3. 到達目標

- ①これまでに履修してきた教職課程科目及びその他の活動を反省的にふり返るとともに、使命感や責任感、社会性やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- ②教員としての課題を認識し、知識・技術の定着を図る。
- ③教職及び教科指導に関する知識・技術の再確認を行う。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション
(これまでの学校生活、学修をふり返って)
- 2回 教職の意義と教員の役割①(グループディスカッション)
- 3回 教職の意義と教員の役割②(ロールプレー)
- 4回 地域フィールドワーク実習①
- 5回 地域フィールドワーク実習②
- 6回 生徒指導・進路指導・学級経営①
(グループディスカッション)
- 7回 生徒指導・進路指導・学級経営②(ロールプレー)
- 8回 生徒指導・進路指導・学級経営③
(学校現場の見学・調査)
- 9回 生徒指導・進路指導・学級経営④
(見学調査を踏まえた討論)
- 10回 数学模擬授業①
- 11回 数学模擬授業②
- 12回 工業教科模擬授業①
- 13回 工業教科模擬授業②
- 14回 模擬授業に基づく討論
- 15回 まとめ
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

平素の授業態度(30%) 発表内容(30%) 最終レポート(40%)

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は、必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②学外での活動に積極的に参加するとともに、主体的に授業に参画すること。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 なし

●参考文献

高等学校学習指導要領(総則・数学・工業)
各種審議会答申
教育六法
その他、教育に関する各種新聞記事等

8. オフィスアワー

全体のマネジメントは、東野が行う。オフィスアワーは研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

職業指導 Vocational Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：4年次 学期：後期 単位数：4単位

担当教員名 永田 萬享

1. 概要

●授業の目的

社会的分業である職業に関する社会科学的認識を持つことと、職業能力を開発する手だてとしての職業教育のあり方を通して、社会のなかでの個人の位置をつかみ、自立した職業生活を営むことができるようになることを目指す。

●授業の位置づけ

授業では、①モノを作ることや働くことによって姿を現してくる社会と人間の関係に見られる奥深い真実の世界を、現実の企業社会、労働社会の織りなす具体的なデータに基づいて検討を加える。②さらに、高校教育後のいわゆる中等後段階における技術・職業教育の有り様を、職業教育・訓練の公共化の観点から現状分析する。

2. キーワード

職業指導 キャリア教育 専修学校 公共職業訓練 企業内教育

3. 到達目標

- ①現代社会における職業の性格について社会科学的認識を深めることによって、職業情報を正しく理解するための一定の判断力を養成することを目指す。
- ②職業的自立のための具体的方策として職業教育のあり方についてもその現状を通して検討する。

4. 授業計画

- 第1回：職業指導とは？
- 第2回：職業指導の社会的基底
- 第3回：経済政策と青少年問題
- 第4回：労働と職場の現実①
- 第5回：労働と職場の現実②
- 第6回：産業社会と職業分布①
- 第7回：産業社会と職業分布②
- 第8回：内部形成と外部形成
- 第9回：青年の自立と高校職業教育①
- 第10回：青年の自立と高校職業教育②
- 第11回：各種・専修学校における職業教育①
- 第12回：各種・専修学校における職業教育②
- 第13回：公共職業訓練と能力開発①
- 第14回：公共職業訓練と能力開発②
- 第15回：まとめ
- 第16回：職業の様々な側面
- 第17回：職業観の変容
- 第18回：生きがいと職業
- 第19回：社会的分業と職業
- 第20回：職業選択の意味
- 第21回：職業選択と情報
- 第22回：情報化の進展と職場の変化
- 第23回：女性の職場進出と労働
- 第24回：男女雇用機会均等法の成立と現在
- 第25回：各種・専修学校と生涯教育
- 第26回：公的職業訓練の動向
- 第27回：企業内教育とOJT
- 第28回：企業外部の教育機関とOffJT
- 第29回：学校教育と職業教育
- 第30回：まとめ
- 第31回：試験

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、右記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、経済、社会情勢に関する最新の情報を摂取すること。
- ④働く現場を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として学外授業、例えば工場見学や職業能力開発施設の視察を計画している。

7. 教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

蒲田慧『日本人の仕事』1986年、平凡社 ISBN：978-4582705027
木村保茂、永田萬享『転換期の人材育成システム』学文社、2005年 ISBN：4762013692

8. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談については、授業終了後をおフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。nagata@fukuoka-edu.ac.jp

Ⅲ. 人間科学科目（留学生）

留学生科目概要

1. 目的

留学生が速やかに大学の教育環境に適応し、日本社会に対する理解を深めることができるように、日本語と日本事情の教育を行う。

具体的な目標としては、

- 1) 日本社会・文化について大学生として知っておくことが望ましい知識を獲得する。
- 2) 大学生として必要な日本語の語彙や文法、読解力、聴解力を獲得する。
- 3) 日本語での情報を正確に理解し、自分なりの考えを論理的に表現する力を養う。
- 4) 自分なりの日本語学習の習慣を確立し、専門の学習に備える。

2. 日本語と日本事情の科目の履修について

日本語AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡは1年次に、日本語CⅠ、CⅡは1年次または2年次に履修する。これらの単位は外国語系科目に振り替えることができる。

日本事情A、日本事情Bは1年次または2年次に履修する。これらの単位は人文社会系科目に振り替えることができる。

上記の科目の他に1年次から3年次の学生を対象にした日本事情C、日本事情Dが金曜日に開講され、これらの単位を取得して人文社会系科目に振り替えることができる。時間割を参照して、履修を希望する者は最初の講義に必ず出席すること。

日本語AⅠ Japanese I

対象学科(コース)：全学科(留学生科目)

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

●読む力、聞く力を向上させる。

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

●考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回	第1課	いちろく銀行
第3回～第4回	第2課	動物園
第5回～第6回	第3課	仮想現実
第7回～第8回	第4課	体の時間
第9回～第10回	第5課	自然
第11回～第12回	第6課	左利き
第13回～第14回	第7課	共生住宅
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

授業への参加度(20%)、課題(20%)、学期末試験(60%)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

課題を毎回提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座(アルク)810.7/M-22

8. オフィスアワー

火曜日3限

日本語 A I Japanese I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の現代社会に関して必要な情報を整理し、そこから日本で自ら発信する技術を養成することを狙いとする。

●授業の位置付け

中上級レベルの日本語能力を総合的に養成するためのものである。積極的に資料を使い、自分の考えを組み立て、的確に発信する力を養う。日本社会に対する理解を深める。

2. キーワード

「日本の現代社会」「読解」「文法表現」「討論」

3. 到達目標

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

●読解力をつける。

●考えたこと、感じたことを日本語で的確に表現する力をつける。

●積極的に他人の意見を聴き、自分の考えを組み立てて議論を進める力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回 余暇

第3回～第4回 健康産業

第5回～第6回 見合いは親同士で

第7回～第8回 性別役割分担

第9回～第10回 孫離れできぬ祖父母

第11回～第12回 ホテル化した家庭

第13回～第14回 義理を欠くことの大切さ

第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、小テスト・宿題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

中上級レベルの学習者を対象とする。

課題を必ず提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

留学生のための時代を読み解く上級日本語（スリーエーネットワーク）810.7/M-41

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。また、科学技術に関する読み物への導入を行い、研究室見学を行って、実際の場で日本語を使ってみる。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

①読む力、聞く力を向上させる。

②社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

③考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

④平易な科学的な読み物を読み、学んだ語彙を使って考えを述べる。

4. 授業計画

第1回～第2回 第8課 カラー柔道着

第3回～第4回 第9課 料理技能の検定

第5回～第6回 第10課 発明王

第7回～第8回 第11課 花の洋風化

第9回～第10回 第12課 さいせん回数券

第11回～第13回 KIT版科学読み物

第14回 研究室見学

第15回 総復習

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

課題を毎回提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22

2) アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

火曜日 3限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

2. キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

3. 到達目標

①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できる。

②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができる。

4. 授業計画

毎回の授業は、その時々生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。適宜、語彙の復習テストを行う。

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

なし

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本語 B I Japanese B I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

●科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。

●聞き取った内容を的確に把握する。

●科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

第1回 説明文の表現練習

第2回 テーマ：再生木材

第3回 テーマ：新エネルギー開発

第4回 テーマ：バイオメトリクス認証

第5回 テーマ：地球温暖化 島が沈む

第6回 テーマ：エコタウン

第7回 テーマ：有毒アオコ

第8回 テーマ：脳科学と教育

第9回 テーマ：メタンハイドレート

第10回 テーマ：安全運転自動車

第11回 テーマ：小水力発電

第12回 研究室見学

第13回 テーマ：にょいのおい不思議

第14回 テーマ：宇宙発電

第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本語 B II Japanese B II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実際に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- 科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- 聞き取った内容を的確に把握する。
- 科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ：スペースシャトル事故
- 第2回 テーマ：折り紙工学
- 第3回 テーマ：空飛ぶ無人IT基地
- 第4回 テーマ：巨大津波のメカニズム
- 第5回 テーマ：東京大地震
- 第6回 テーマ：人工筋肉
- 第7回 テーマ：ペットボトルリサイクル
- 第8回 テーマ：災害レスキューロボット
- 第9回 テーマ：磁石研究とエコカー
- 第10回 テーマ：生物をまねる
- 第11回 テーマ：自動車エンジン開発
- 第12回 テーマ：砂漠で発電
- 第13回 テーマ：スペースデブリ
- 第14回 研究室見学
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文・課題（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C I Japanese C I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

様々な話題に応じた語彙や表現を学び、自分に興味のあることを詳しく説明できる力を育てる。

●授業の位置付け

会話やスピーチなど、中上級話者の話す能力を養う。

2. キーワード

「会話」「スピーチ」「説明」「興味をもってもらう」

3. 到達目標

- ①詳しい説明や描写ができる。
- ②聞き手の興味や理解を確かめながら話せる。
- ③共に話を展開させる聞き方を身につける。
- ④メモをもとにスピーチができる。

4. 授業計画

- 第1回 インタビューと他者紹介
- 第2回 前回のフィードバック：話し方を考える
- 第3回 きっかけを語る
- 第4回 方法説明のスピーチ
- 第5回 失くした体験
- 第6回 図の分析
- 第7回 性格を分析する
- 第8回 うごきの説明
- 第9回 健康・ストレス解消法
- 第10回 物語の説明（1）
- 第11回 物語の説明（2）
- 第12回 ゲームの説明
- 第13回 最近の出来事
- 第14回 将来の夢
- 第15回 日本の文化に慣れるとは

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、授業内での発表（30%）、説明方法のスピーチ（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の授業で得た手がかりを基に、共に会話を深めることができる話し手、聞き手となるよう心がけること。自分の話し方を内省し、課題を克服する努力をすること。

7. 教科書・参考書

●教科書

1) 荻原稚佳子他：日本語上級話者への道（スリーエーネットワーク）810.7/O-22

8. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C II Japanese C II

対象学科(コース)：全学科(留学生科目)

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか、自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。具体的には、日本語能力試験N1の問題を客観的な指標の一つとして参考にしながら、自分の日本語能力を測る。小レポートを書き、それを推敲してプレゼンテーションに発展させる。

2. キーワード

「自己評価」「自律的学習」「日本語能力試験N1」

3. 到達目標

- ①自分の日本語能力を客観的に評価できる。
- ②不十分な技能を磨くための学習方法を知る。
- ③自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける。
- ④説得力のあるプレゼンテーションができる。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：自己評価とは
- 第2回 自分の力を知る：語彙の広さ、量
- 第3回 前回のフィードバック、練習
- 第4回 自分の力を知る：文法的な正確さ
- 第5回 前回のフィードバック、文法の正確さのための練習
- 第6回 自分の力を知る：主旨や発話者の意図を理解する力
- 第7回 前回のフィードバック、練習
- 第8回 自分の力を知る：論理的に話を組み立てる力
- 第9回 前回のフィードバック、練習
- 第10回 自分の力を知る：表現力・説得力
- 第11回 前回のフィードバック、練習
- 第12回 プレゼンテーションに向けて(1)構成
- 第13回 プレゼンテーションに向けて(2)説得力
- 第14回 プレゼンテーションに向けて(3)練習
- 第15回 プレゼンテーション

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題(50%)、プレゼンテーション(50%)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

特になし

8. オフィスアワー

木曜日4限

日本事情 A Japanese Culture and Society A

対象学科(コース)：全学科(留学生科目)

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①大学生にとって知っていることが望ましいと思われる日本社会に関する基本的な知識を獲得する。
- ②討議に積極的に参加して考えを深める。
- ③日本の社会、文化についてまとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング：国のイメージ
- 第2回 学校生活
- 第3回 英語教育
- 第4回 教育問題：いじめ
- 第5回 しつけと人間関係
- 第6回 年中行事
- 第7回 若者文化
- 第8回 日本の物価
- 第9回 結婚と女性
- 第10回 宗教
- 第11回 日本人はなぜよく働くか
- 第12回 社会保障制度
- 第13回 自殺
- 第14回 日本の未来
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

レポート(60%)及び毎回提出のノート・授業への参加度(40%)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

下の参考書等を参照して理解を深めること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

●参考書

- 1) 日鉄ヒューマンデベロプメント・日本外国語専門学校：日本を話そう 15のテーマで学ぶ日本事情(The Japan Times) 302.1/N-16
- 2) 日鉄ヒューマンデベロプメント：日本—その姿と心—(学生社) 302.1/S-10
- 3) 山本茂：留学生のための日本事情(大学教育出版) 302.1/Y-5
- 4) 長谷川勝行：日本人の秘密(ヤック企画) 817.7/H-3

8. オフィスアワー

月曜日3限

日本事情B Japanese Culture and Society B

対象学科(コース)：全学科(留学生科目)

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について意見を広げ、討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

その時々々の新聞から興味のある記事を自ら選んで紹介し、意見を交換する。現代の日本社会に対する関心と理解を深める。

2. キーワード

「新聞記事」「日本社会」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて話し合う。
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

学生自身がその時々々の新聞から興味のある記事を取り上げて、要旨をまとめ、意見を書いて紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。提起された問題について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価の方法・基準

発表(25%)及び毎回のノート(30%)討論への参加度(20%)最終レポート(25%)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

報道されるニュースに日頃から関心を持つこと。図書館で日本の新聞記事も読んでみる習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

月曜日3限

日本事情C Japanese Culture and Society C

対象学科(コース)：全学科(留学生科目)

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本の地理・歴史・政治・経済などを概観することによって、日本という国の全体像をとらえる

●授業の位置付け

日本人が中学・高校の「社会科」で学習する内容をごく簡単に紹介する。また受講者は、自国について各回のテーマに沿った内容で輪番で発表を行う。

2. キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」

3. 到達目標

これから社会人として日本という国と関わりを持っていく上で必要な、「常識」とされる知識を身につける。

4. 授業計画

第1回 データでみる日本

第2回 日本の地理・気候

第3回 憲法

第4回 政治制度

第5回 選挙と世論

第6回 戦後経済史

第7回 消費者をめぐる問題

第8回 労働問題と社会保障

第9回 宗教

第10回 日本の歴史(1)

第11回 日本の歴史(2)

第12回 現代日本社会の諸問題

第13回 北九州の地理と歴史

第14回 ポスター作成

第15回 総まとめ討論会

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート(50%)、発表(20%)、授業への参加度(30%)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 教科書・参考書

特に指定しない

8. オフィスアワー

アブドゥハン教員を通して質問すること

日本事情D Japanese Culture and Society D

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

●授業の位置付け

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

2. キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

3. 到達目標

- ・丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
- ・「たのむ」「ことわる」「苦情をいう」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

4. 授業計画

- | | |
|--------|--------------------|
| 第1回 | 人間関係を調節する表現についての概論 |
| 第2－4回 | さまざまな表現と使い方 |
| 第5－7回 | 頼むとき・頼まれたとき |
| 第8－10回 | 苦情を言うとき・言われたとき |
| 第11回 | 意見を述べる |
| 第12回 | 感謝・謝罪 |
| 第13回 | ほめる・ほめられる |
| 第14回 | 母国文化についてのまとめ作成 |
| 第15回 | 総まとめ発表会 |

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート（70%）と授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

アップドゥハン教員を通して質問すること